



地域との協働による高等学校教育改革推進事業  
[ 地域魅力化型 ]

研究開発実施報告書（第2年次）



令和4年3月  
兵庫県立村岡高等学校



# ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

但馬地域が輩出した日本のペスタロッチと言われた東井義雄。彼の「村を育てる学力」の理念は、現在の教育に通じる。本プロジェクトは、生徒が地域での学びを通して、「村(地域)を育てる学力」等を身につけてもらうとともに、どの地域で暮らしてもふるさとを愛する、未来型人材の育成を行う。

## 村岡高校のある香美町の魅力

- 山・川・海の豊かな自然環境
- 但馬牛・マツバガニなど豊富なブランド食材
- スキー・登山など多様なアウトドアスポーツ施設

## 香美町の課題

- 若い世代の流出による人口減少の加速化と少子高齢化の進展
- 地域を支える担い手の高齢化による観光産業等の後継者問題
- 雪不足など気象変化の影響によるスキー以外の魅力づくり

## 村岡高校の目指す姿

地域を愛し、地域課題の解決に寄与する「人づくり」「地域づくり」

## <研究開発の目標>

### 地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する「村岡メソッド」を開発する。

## つきたい能力

- ①課題発見能力 ②課題解決能力 ③プレゼンテーション能力 ④新たな価値を創造する能力
- ⑤コミュニケーション能力 ⑥議論する能力 ⑦コーディネート能力 ⑧自己表現能力

## 具体的取組

### 地域を知る

- ・観光施設経営者等による講義
- ・地域での調査実習
- ・地域関係者への提案

### 地域を深める

<学校設定教科 地域探求（地域アウトドアスポーツ類型）>

- ・地域での探究活動
- ・全国の地域づくりを学ぶ研修
- ・スポーツツールの企画、提案

### 地域を創る

- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表
- ・スポーツに関する資格取得
- ・HP・インスタグラムを活用した地域の魅力発信
- ・ふるさと教育・介護防止操DVD・テキストによるふるさとの教育・健康の推進による郷土愛の育成
- ・町長と将来の町について語り合う

<村高発 地域元気化プロジェクト（全在校生）> \*マラソン大会等イベント行事の中止  
 8班（演舞・吹奏楽・食文化・環境A,B・地域福祉・紙漉き・集落調査）の地域協働活動、村高フォーラム（探究活動の成果発表・パネルディスカッション）総合的な探究の時間発表会（校内オンライン）

## 成果

- ・強み：生徒同士の話し合い、挑戦への応援環境、相互尊重・コロナ禍においてICT活用等の有用性や可能性を認識し、技術や意識の蓄積
- ・目標設定シート「発表する機会」以外は達成

## 課題

- ・伸びしろ：ロジカルシンキング、主体的探究行動
- ・卒業生や地域の知見を集約した組織とコンソーシアム拡大による持続可能な協働体制の構築
- ・本校教育の特色・魅力・成果の効果的な発信

## 連携・協力・支援 コンソーシアム構成団体

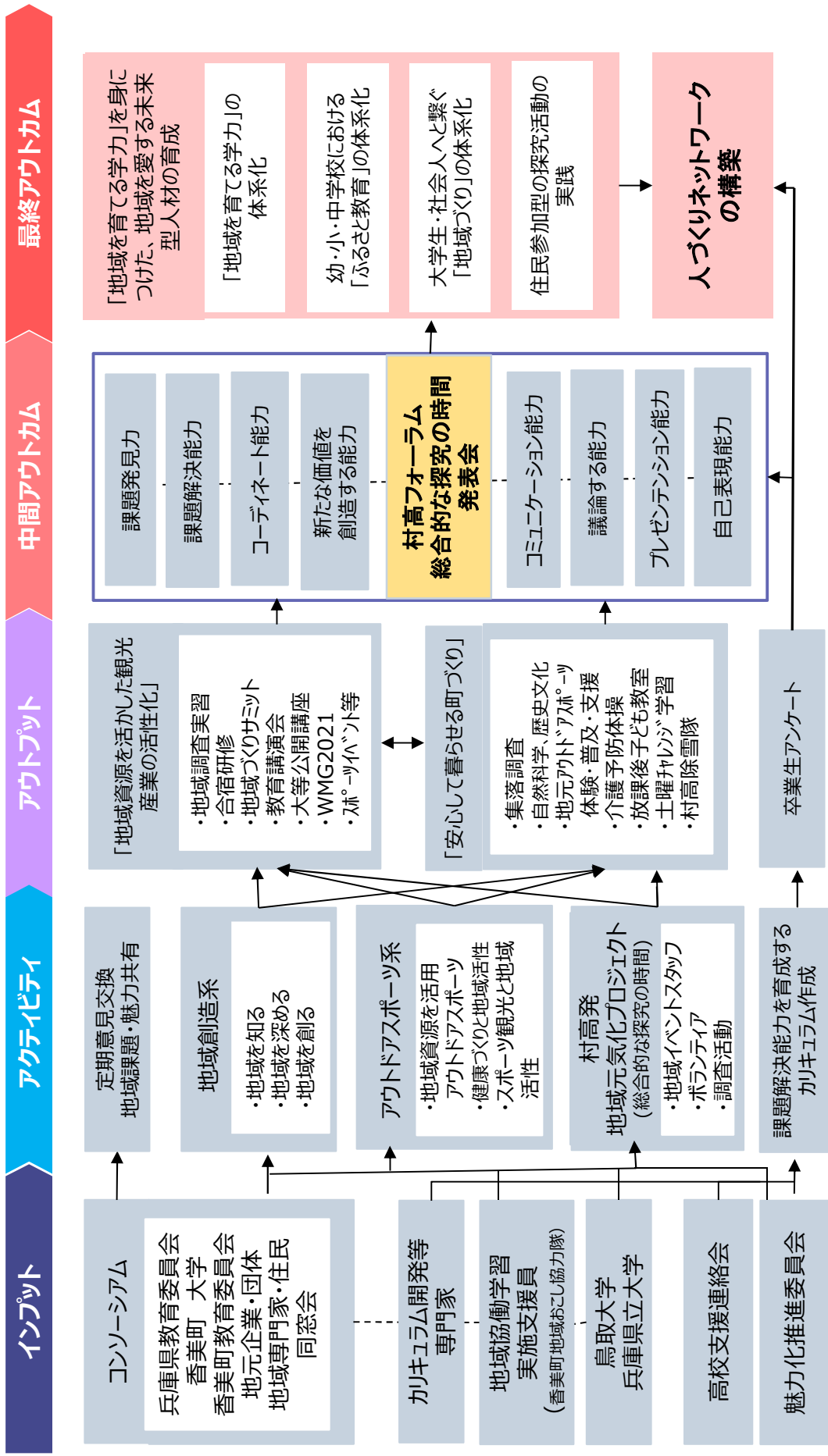


## 目指す生徒像

地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒。

## 地域を育てる学力を身につけた、 地域を愛する未来型人材の育成

# ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の研究開発





ビジュアルシート(取組みの様子)



地域創造系 地域学入門



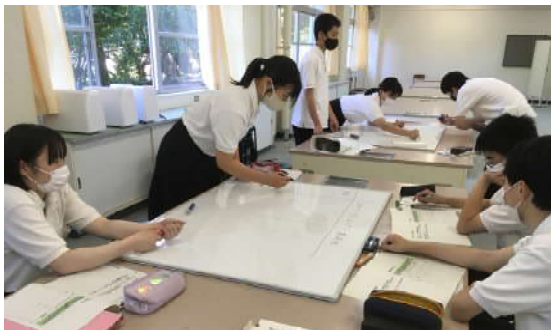
地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I (現地研修)



地域創造系 地域探求 I (現地研修)

ビジュアルシート(取組みの様子)



地域創造系 地域探求 II



地域創造系 地域探求 II



地域創造系 地域探求 II



地域創造系 地域探求 II



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



ビジュアルシート(取組みの様子)



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



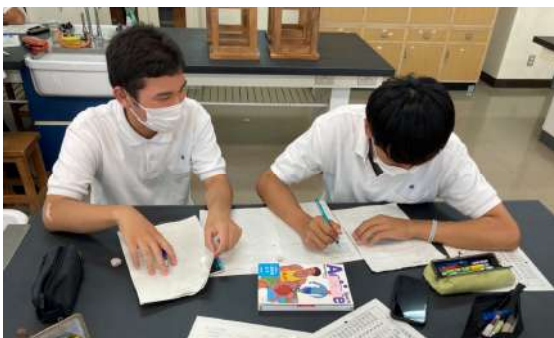
アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II

ビジュアルシート(取組みの様子)



総合的な探究の時間 民芸班



総合的な探究の時間 民芸班



総合的な探究の時間 紙漉き班



総合的な探究の時間 紙漉き班



総合的な探究の時間 吹奏楽団



総合的な探究の時間 吹奏楽団



総合的な探究の時間 食文化班



総合的な探究の時間 食文化班



ビジュアルシート(取組みの様子)



総合的な探究の時間 環境A班



総合的な探究の時間 環境A班



総合的な探究の時間 環境B班



総合的な探究の時間 環境B班



総合的な探究の時間 地域福祉班



総合的な探究の時間 地域福祉班



総合的な探究の時間 集落調査班



総合的な探究の時間 集落調査班



ビジュアルシート(取組みの様子)



村高フォーラム2021



村高フォーラム2021



香美町長講演会



香美町長講演会 (ワークショップ)



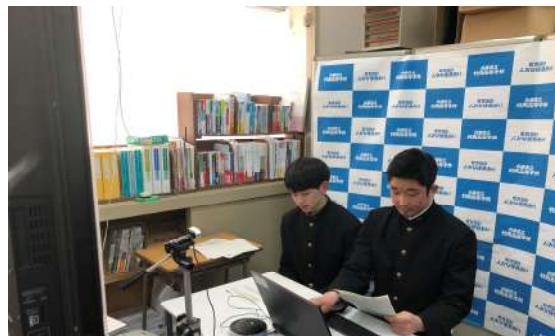
教育講演会



教育講演会 (ワークショップ)



総合的な探究の時間 発表会



総合的な探究の時間 発表会

ビジュアルシート(取組みの様子)



村高除雪隊



村高除雪隊



マイプロジェクトアワード 2021



マイプロジェクトアワード 2021



教育指針 「人みな使命あり」





アウトドアスポーツ



全国募集

# アウトドアスポーツと地域活動を学ぶ

～普通科・地域アウトドアスポーツ類型～



地域創造



兵庫県立

## 村岡高等学校

〒669-1311 兵庫県美郡香美町村岡区村岡 2931  
TEL 0769-94-0201 FAX TEL 0769-94-0203  
HP: <http://www.hyogo-c.ed.jp/~muraoka-hs/>



兵庫県美郡香美町より  
下宿費補助制度あり  
(4万円/月)



## 巻 頭 言

兵庫県立村岡高等学校長 牧野 徹

村岡高校が「地域との協働」を始めたのはいつからでしょうか。少なくとも、地域創造類型を設置した2011年には始まっています。ただ、地域との意見交換、お互いの情報発信の場である「村高フォーラム」を初めて開催したのが2005年なので、その時点には、すでにスタートしていたと言えます。2014年に地域アウトドアスポーツ類型に改編されて以降は、学校設定教科「地域探求」や「総合スポーツ学」といった地域を学びのフィールドとした授業が、週時程のカリキュラムにも組み込まれています。現在では、村岡高校と聞けば、「人みな使命あり」とバックプリントされたエンジ色のポロシャツを着て地域で活動している高校と認識されるまでになりました。

これまでの取組の足跡を辿ると、村岡高校は、「地域との協働」のパイオニア的存在として活動してきました。手前味噌ですが、今でも1年を通じて、いくつもの高校や大学が視察に訪れることから、その実績も評価されていると思います。ただ、この10年ほどの歳月の間に、全国でも特色ある取組を実践する高校が増え、その中で差別化されなくなり、活動の足跡が長い分、村岡高校は同じことを繰り返していると思われるかも知れません。しかし、それは違います。令和2年度から研究指定を受けている「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究開発名は、「ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む『村岡メソッド』の開発～」であり、「地域との協働」の企画から実施、検証、成果物など、最先端のノウハウを発信していくことが、村岡高校の役割の一つだと考えています。将棋界のレジェンド、羽生善治氏が永世七冠となったときのインタビューで、「たとえばマラソンとかを走っていたときに、トップになる必要はないと思うのですが、トップ集団ににいるということが非常に大事なのではないかと考えています」と語っていました。他校と比較したりするのではなく、日々、新しいものを目指し、ハイレベルで厳しい世界に身を置き、切磋琢磨して前へ進んでいくことが大切であり、その挑戦や活動を発信し続けることが大切だと考えています。

近年の探究活動では、SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取組が増えています。そこで示されている17の達成目標の内容も大切ですが、村岡高校ではSDGsの取り組み方、課題に対するスタンスを重要視しています。2000年に採択されたMDGs（ミレニアム開発目標）より、SDGsでは、すべての国々で地球規模の課題を自分たちの現状にあわせたターゲットとして取り組むことに重きが置かれています。例えば、地域の少子高齢化、過疎化の課題に対し、その市町村だけの課題ではなく、進学や就職で地元を離れた若者にもできることがある、さらには、一極集中となっている大都市の課題とも無関係ではない、日本国民全員がそれぞれの立場で自分の課題と捉えることができます。「これは、自分には関係ない」という発想でなく、「どこかで繋がっているかもしれない」といった視点を、本校での「地域との協働」で、さまざまな人と課題を共有し、地域の課題を自らの課題として取り組むことで、培ってきました。これからの社会で、必要とされる人材こそ、三年間の「地域との協働」を体験してきた本校生のような若者なのです。

今後も、本校は、「地域に学び、地域とともに協働し、地域になくってはならない学校」を目指します。特に、新学習指導要領がスタートする令和4年度からは、「何を学ぶか」よりも「誰と学ぶか」「何処で学ぶか」を改めて大切にしていきたいと考えています。今後も、村岡高校の教育活動にご理解を賜り、ご協力いただきますようお願いいたします。





# 目 次

ビジュアルシート

巻頭言

目次

<b>1 研究開発の概要</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(2) 研究開発の概要（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）・・・・・・・・	5
(3) 3年間の授業の流れ（村岡高校文科省指定事業）・・・・・・・・・・・・・・・・	7
<b>2 研究開発実施状況報告</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(1) 研究開発実施状況報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(2) 目標設定シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
<b>3 研究開発の内容</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(1) 各授業の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
(ア) 地域アウトドアスポーツ類型 地域創造系・・・・・・・・・・・・・・・・	19
a 地域探求 地域学入門	
b 地域探求 地域探求Ⅰ	
c 地域探求 地域探求Ⅱ	
(イ) 地域アウトドアスポーツ類型 アウトドアスポーツ系・・・・・・・・	25
a 地域探求 地域学入門	
b 地域探求 地域スポーツⅠ	
c 地域探求 地域スポーツⅡ	
(ウ) 「村高発 地域元気化プロジェクト」・・・・・・・・・・・・・・・・	31
協働のまちづくり（1年）、総合的な探究の時間（2、3年）	
a 民芸班	
b 紙漉き班	
c 吹奏楽団	
d 食文化班	
e 環境A班（棚田保全グループ）	
f 環境B班（森の健康診断グループ）	
g 地域福祉班	
h 集落調査班	
(エ) 表現「スピーチ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
(2) 成果の普及・広報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
・村高フォーラム、総合的な学習の時間発表会	
・成果物	
・新聞掲載	
・他校フォーラム等参加	
・地域みらい留学	
(3) 運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告・・・・・・・・	62
<b>4 評価・分析</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	75
(1) つけたい能力・生徒アンケート	
(2) 生徒アンケート集計結果	
(3) 評価・分析	
<b>5 その他 関係資料</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
・高校魅力評価システム 組織診断ポートフォリオ	
・令和3年度実施教育課程表・・・・・・・・・・・・・・・・	98

# 1 研究開発の概要

(1) 学校の概要

(2) 研究開発の概要

(地域との協働による高等学校教育改革推進事業)

(3) 3年間の授業の流れ(村岡高校文科省指定事業)

# 1 研究開発の概要

## (1) 学校の概要

### ア 学校名・校長名

- 1) 学校名 兵庫県立村岡高等学校
- 2) 校長名 牧野 徹

### イ 所在地

- 1) 所在地 〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡 2931
- 2) 電話番号 0796-94-0201
- 3) FAX番号 0796-94-0203
- 4) URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~muraoka-hs/>

### ウ 学校の基本理念

(ア) 校訓 英知 自律 友愛

#### (イ) 教育方針

- a 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる。
- b 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる。
- c 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる。

### エ 目指す学校像と重点目標

目指す学校像	重点目標
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支え元気にする人材を育成する。
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する。
心豊かな学校	協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる。

### オ 本校の研究テーマ

(ア) 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(地域魅力化型)

『ちいき大好きプロジェクト』 ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

(イ) 高校生ふるさと貢献・活性化事業

#### a 活動のねらい

- ・地域協働活動を通じて、「地域を愛し、地域に愛される学校づくり」を推進する。
- ・地域の人々や近隣の中学校、小学校との交流の場を作り、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- ・「総合的な学習(探究)の時間」「ボランティアサークル」を中心に福祉施設等を訪問し、高齢化の著しい地域でのボランティア活動を行い地域社会に貢献する。また、地域の清掃活動に積極的に取り組み、地域協働活動の機運と意欲を高める。

#### b 内容

- ・村高発 地域元気化プロジェクト(総合的な学習(探究)の時間)
- ・あいさつ運動
- ・海の日親子ボランティア
- ・ボランティアー村高
- ・オープンスクール

(ウ) 高校生就業体験事業

#### a 活動のねらい

- ・志望理由書、自己推薦書を通して自分を見つめ、進路決定を確かなものとする。

- ・就職希望者の地域企業でのインターンシップを実施し、勤労観を醸成する。
- ・専門学校講師による職業分野別体験を行い、職業についての知識と理解を深め、就業意識を高める。
- ・大学・短大・専門学校・企業の見学会や授業体験会を実施し、高等教育機関と職業について体験的に学ぶ。

b 内容

- ・総合型・学校推薦型入試対策講座
- ・ハローワーク講師による面接指導
- ・大学・専門学校・公務員講師による分野別職業体験
- ・インターンシップ
- ・ふれあい看護体験、ふれあい育児体験
- ・但馬地区事業所見学会、但馬地区高校内企業説明会参加

**(エ) 高校生特色づくり推進事業**

a 活動のねらい

- ・地域と連携し、本校の活性化・特色化を推進すると同時に地域の活性化について調査研究を行う。
- ・小、中学校との連携を密にし、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。

b 内容

(a) 学校運営連携協議会の開催（年2回）

- ・地域の有識者で構成した「学校運営連携協議会」を開催し、本校の課題並びに活性化策について協議する。また、学校運営連携協議会を受けて、「連絡調整会（高校支援連絡会）」（毎月1回）を開催し、取り組みの具体化を図る。

(b) 公開講座の開催

- ・公開講座（地域探求等）を開催し、地元講師、大学講師を招いて、地域を知り、地域を研究し、地域へ提言する探求活動を行う。

(c) 「教育講演会・高校生による地域づくりサミット」の実施

- ・本校生、地域住民、但馬内高校生が広く参加できる教育講演会・高校生による地域づくりサミットを実施し、地域団体・但馬地区高校等と協働した地域活性化活動の実践交流会を行う。

(d) 「地域探求・総合的な探究の時間発表会、村高フォーラム」の開催

- ・地域の方々の意見を幅広く聞く場を設け、村岡高校はもとより、地域も活性化する方策についての討論会を行う。また地域探求・村高発地域元気化プロジェクト実践発表会を行う。

(e) 小・中学校や地域との連携事業の推進

- ・地元関係団体や大学と連携して、地域調査および地域活性化の取り組みを積極的に推進する。
- ・マーケティングを活用した地域づくり  
香美町・町教育委員会・商工会等と連携して、地域資源の活用およびゴミ削減、リサイクル等の環境活動による地域活性化、地域づくりを学び、マーケティング手法により「ヒト・モノ・コト」を活用する地域づくりの方策を考える。
- ・国際的・芸術的・文化的アプローチをキーワードに、地域の文化財を地域・大学と協働して「石碑を巡る香美の旅」について探究活動を展開していく。
- ・「ワールドマスタースゲームズ2021関西」を舞台に「地域づくりの視点」「スポーツ観光の視点」「健康づくりの視点」から探究活動を展開する。
- ・「健康づくりと地域活性」をテーマに介護予防体操の普及・改善について香美町福祉課と連携して探究・実践する。

- ・射添紙復活に向けて、和紙デザイナー・地域住民とともに新商品の開発等に取り組み、地域住民や小中学生への広報・普及活動を行う。
- ・棚田保全活動  
香美町農林水産課、県民局と連携して棚田の保全、土壌調査及び観光資源としての研究と棚田米の広報。また、地滑り対策と後継者対策について広報・普及活動を行う。
- ・森の健康診断の実施  
香美町農林水産課・北但西部森林組合と連携して、人工林調査と間伐材などの森林資源の有効利用について調査・研究を行う。
- ・集落の魅力発信プロジェクトの実施  
香美町内の小規模集落を中心に、調査活動を行い、高校生の視点で集落の魅力を発見し、発信していく。
- ・合同芸術祭・湯舟川コンサートの実施  
本校及び中学校の吹奏楽部の演奏、地域の伝統芸能の披露、本校文化部の活動内容を発表する総合文化祭を開催し、地域、生徒の文化活動の向上を図る。
- ・部活動連携の実施  
近隣の中学校と本校で合同部活動練習会を実施する。また、専門指導者を招いて技術指導を受ける機会を設ける。
- ・あいさつ運動の実施  
香美町教育委員会が提唱する3つの町民運動の中の「あいさつ運動」を、小中学校PTAや香美町教育委員会と連携し、生徒会を中心に毎月1回実施する。

**(オ) 高等学校における通級による指導**

- ・全生徒に対応した全教員によるICT等を活用した、わかりやすいユニバーサルな授業の実施とその研修を積極的に推進する。
- ・学習サポート(授業における配慮・支援、個別の補充等)、面談による困り感への支援による生徒一人ひとりへの配慮を充実させる。
- ・通級による認知特性に応じたソーシャルスキル、ライフスキル等の指導を充実させる。
- ・普通校における「高等学校の通級による指導」を普及させるための教育課程等の整備を行う。

**(カ) オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業**

- ・オリンピック・パラリンピックについて学ぶ中で、スポーツの価値や精神を理解させる。
- ・スポーツ講演会や事前学習・振り返りを通じて共生社会を理解する能力と態度を養う。



**(2) 研究開発の概要** 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつむらおかこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
令和2～最大3年間	① 学校名	兵庫県立村岡高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年2クラス 合計6クラス	
普通科	41	54	58		153		
⑥研究開発構想名	ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発						
⑦研究開発の概要	地域活性の核としての高校の拠点機能化を推進し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>開発する「村岡メソッド」の「地域を育てる学力」とは、科学的概念と生活的概念が統一された、「生活の中で生きて働く学力」、「主体性や生きる意欲をともなった学力」のことを指す。したがって、地域住民とともに地域課題を実践的に解決するプロセス（地域づくりの過程）を通して「地域を育てる学力」は育まれると考える。</p> <p>本研究は、生徒自らが発見した魅力を活用した地域課題の解決策を考案し、実践することにより、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来を創出する基礎力である「地域を育てる学力」を育むことを目的とする。また、それらに寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>【現状の分析】</p> <p>本校は、兵庫県の北西部の中山間地域に位置し、県下でも有数の豪雪地域である香美町に設置されている。この地域には、スキー場などのアウトドアスポーツを楽しめる設備が多く、かつては、多くのスキー客が訪れ、町内は活気に満ちていた。しかし、スキー客の減少、高齢化や町内人口の減少により、町の活力が課題となっている。</p> <p>そのため本校では、高校生の視点で地域の課題を発見し、地域課題の解消を目指す取組を2011年度より推進してきた。また、2013年度からは、全校生による「村高発地域元気化プロジェクト」を立ち上げ、翌年度には「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」の2系列を設置することで、地域に学び、地域と協働する学校づくりを進めてきた。しかし、より実践的に課題解決能力を培うためには、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を活用して新たなコンソーシアムを設置し、組織的、継続的に地域と一体となった「地域づくり」と「人づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>【研究開発の仮説】</p> <p>本研究は、地域に学び地域との協働活動を実践する学校として、探究活動、課題研究を自治体や地域住民と進めていく。その活動の中で、地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を醸成させることで、自律的な態度で社会と関わり続け、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来の創出することができる「地域を育てる学力」を獲得できる。</p> <p>「地域を育てる学力」は、生徒の将来に渡って、主体的に地域のポテンシャルを見いだし、地域活性化に協働、参画する資質・能力として具現化され、当該資質・能力をさらに培うことで、それぞれの「ちいき」を愛し、地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人間の育成につながる。</p>					

<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画  地域課題の解決につながる探究活動を、多くの地域住民と協働して取り組むためには、地域が抱える課題を正確に捉えるとともに、その課題が香美町の考える課題、地域住民が考えている課題と共通するものであることを見極める必要がある。  そのため本校では、多くの地域住民が参加可能な「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」の2つを探究テーマとして設定している。以下の2点を実施する。</p> <p>①「ふるさと教育」と「地域を育てる学力」の体系化  香美町内の幼・小・中学校で行われている「ふるさと教育」を、高校で実施する「地域を育てる学力」として体系化し、さらに大学生段階・社会人段階へと繋ぎ、地域づくりの循環経路をつくる。</p> <p>②新たな「人づくりネットワーク」を目指した住民参加型の探究活動の実践  学校で得られる科学知を、地域の生活知と関連づけて理解するとともに、地域に存在する生活知や生徒自身も持っている生活知を、科学の知識体系の中で理解する学習が必要となる。そのため、地域における人との関わりを豊かにする活動が不可欠であり、多くの地域住民が参加可能な探究テーマを設定することが重要である。これらを実現すべく以下のような地域課題に取り組み、官民学協働での「人づくりネットワーク」を構築しつつ、「地域を育てる学力」の形成を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制  カリキュラム・マネジメントの推進にあたっては、校長のリーダーシップのもと、各関係機関との連携・協力を得て、校内ビジョン統括会議メンバーが、以下のようなPDCAサイクルのもと、評価・検証し教育内容の質の向上ために見直し、改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>P（計画）</u>：校内ビジョン統括メンバーを中心として、育成する資質・能力を学校全体で明確化し、カリキュラム開発専門家の助言を受け、教育内容の組織化を図る。上記の教育目標・内容は、学校運営連携協議会、高校支援会議等を通じて、地域社会との共有化を図る。</li> <li>・ <u>D（実施）</u>：担当教員が連絡・調整を図りながら、教育課程全体の有機的つながりを意識した教育実践を展開する。その際、地域協働学習実施支援員（教育コーディネータ：香美町地域おこし協力隊）を中心として、地域の人的・物的資源の活用を推進する。</li> <li>・ <u>C（評価）</u>：生徒のパフォーマンスの総体的な評価活動、地域住民の意識調査（アンケート、ヒアリング等）を実施する。評価活動と調査の結果に基づき、目標とした資質・能力育成の達成状況を、教育方法論を専門とする大学教員等を交えて検証する。</li> <li>・ <u>A（改善）</u>：校内ビジョン統括会議メンバーを中心としつつ、全教員（ビジョン委員会）で生徒と地域の実態を踏まえた教育実践の改善・充実を図る。上記の取組は、コンソーシアムや高校支援会議、地域政策学や地域教育学を専門とする大学教員等との意見交換を反映させつつ、随時弾力的に実施していく。また、研究成果報告会を開催し、検証を行い、全国サミットへも積極的に参加し、次年度に向けての改善・充実につなげていく。</li> </ul> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑨その他 特 記 事 項</p>	<p>事業後にも持続性するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 卒業後も講師、スタッフとして授業に参画しネットワークの一員になる。</li> <li>② 「村高フォーラム」を通して活動成果や「地域を育てる学力」の普及を小中学校、但馬地域の高校にも継続して行う。</li> <li>③ 町と連携し、提案した方策を町の事業として継続できるレベルとすることを目指す。</li> <li>④ 「人づくりネットワーク」を発展させ、地域人材の育成、強化を図る。</li> </ul>

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。



## **2 研究開発実施状況報告**

**(1)研究開発実施状況報告書**

**(2)目標設定シート**

## 2 研究開発実施状況報告

### (1)研究開発実施状況報告書

住所 神戸市中央区下山手通 5-10-1  
管理機関名 兵庫県教育委員会  
代表者名 教育長 西上 三鶴

#### 1 事業の実施期間

令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立村岡高等学校  
学校長名 牧野 徹  
類型 地域魅力化型

#### 3 研究開発名 ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

#### 4 研究開発概要

地域活性の核として、高校の拠点機能を強化し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み、「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。

#### 5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

#### 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
飯塚知香子	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関
西田 利也	兵庫県教育委員会高校教育課長	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
川戸 英明	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学副学長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者
西村 功	村岡区自治会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

#### 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会高校教育課	課長 西田 利也
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 今西 勝彦
兵庫県立村岡高等学校	校長 牧野 徹



兵庫県立村岡高等学校同窓会	会 長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教 授 筒井 一伸
NPO 法人 TUKULU	松岡 大悟
うづかの森 (民間企業)	代 表 西村 昌樹
やまもり村岡 (民間団体)	代 表 上田 治

## 8 カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	筒井 一伸	鳥取大学地域学部教授	都度依頼・謝礼支払い
地域協働学習支援員	高橋 大蔵	香美町地域おこし協力隊	香美町企画課 会計年度任用職員

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会 コンソーシアム連携協議会	組 織		開 催				開 催					開 催
カリキュラム開発専 門家							研 修					研 修
地域協働学習支援員	本校担当として常勤で支援 											

### (2) 実績の説明

活動日程	活動内容
令和3年4月15日	運営指導委員会、コンソーシアムを組織
令和3年6月29日	第1回会議 ・申請の経緯、事業方針を説明し、今後の事業内容に対し指導助言 ・会議日程について協議
令和3年10月9日	・体育館にて開催した「総合的な探究の時間、地域探求発表会」での本校生徒のプレゼンテーション、ポスターセッション、実演、体験を見学 第2回会議 (アンケート形式) ・発表内容や生徒の取組について、アンケートにおいて指導助言をいただく ・村高フォーラム2021での基調講演「国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性」とパネルディスカッション「地域と学校『教育のまち』を創る」を自由参観
令和4年3月8日	「総合的な探究の時間」発表会をオンラインで開催し、発表会を見学 第3回会議 ・今年度の取組について成果・評価・課題を総括・指導助言 ・来年度の取組について概要を説明し、協力体制について打合せ

- ・コンソーシアム及び運営指導委員会に担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。

- ・コロナ禍における、オンライン実施での指導・助言等を行った。
- ・国費に加え、県事業「県立高校特色づくり推進事業（インスパイア・ハイスクール）」にて追加予算を行い、より充実した取組を支援した。
- ・事業終了後、本事業の取組を持続可能なものにするために一定の事業経費を計上し、支援する予定。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目 地域創造系の探究活動												
学校設定科目 アウトドアスポーツ系の探究活動												
総合的な探究の時間 「村高発地域元気化プロジェクト」												

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

##### ア 地域創造系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、香美町の実情を把握し、高校生の視点で新たな価値観を見だし、課題解決する学びを通して「地域を育てる学力」を系統的に高める。

##### 《地域学入門（1学年）テーマ「地域を知る」》

- ・オリエンテーション、導入 4月
- ・水生昆虫調査（講義、実習）地元講師 西田 昭夫氏 6, 7月
- ・海洋生物、地層調査（講義、スノーケリング、シーカヤック実習）  
地元講師 本庄 四郎氏 8月
- ・獣被害について（講義）兵庫県立大学 教授 横山 真弓氏 8月
- ・但馬の植生調査（講義、調査）地元講師 菅村 定昌氏 6, 8月
- ・但馬の地質調査（講義、実習）地元講師 古藤 尚氏 6月 三木 武夫氏 7月
- ・村岡の歴史調査（講義、実習）地元講師 石松 崇氏 10, 11月
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・テーマ「SDGsによる持続可能な地域を目指して」講義、プレゼンテーション 鳥取大学地域学部 講師 石山 雄貴氏 9, 1～3月

##### 《地域探求Ⅰ（2学年）テーマ「地域を深める」》

- ・オリエンテーション 4月
- ・テーマ「マーケティングを活用した地域づくり」  
鳥取大学地域学部 講師 白石 秀壽氏

- ・研修合宿を日帰り研修に変更し、徳島県上勝町で研修を実施 8月  
地域資源の活用およびゴミ削減、リサイクル等の環境活動による地域活性化、地域づくりを学び、マーケティング手法を活用した地域づくりの方策を考える。
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・現地調査、プレゼンテーション、ワークショップ、講義等により地域活性のテーマを協議 9～3月

#### 《地域探求Ⅱ（3学年）テーマ「地域を創る」》

- a 国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性「石碑（石造物）を巡る香美の旅」  
鳥取大学地域学部 講師 アレクサンダー・ギンナン氏
- ・DVD作成についてのテーマ等の企画をワークショップ、プレゼンテーション、授業において協議 5月～7月
- ・動画撮影（班別活動） 7～8月
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・動画編集について研修 芸術文化観光専門職大学 准教授 藤本 悠氏 11月
- ・DVD作成 11～12月
- b 卒業論文「私の地域活性化プラン」原稿作成、校正（生徒に担当教員が指導）  
7月～1月

#### 《地域創造系全体の取組》

- a 地域創造系夏季調査実習（総合的な探究の時間とリンク）8月～9月  
集落の魅力発信プロジェクト「むらの風景 vol1 4～小代区の魅力発見～」におけるインタビュー調査  
講師 鳥取大学地域学部教授 筒井 一伸氏  
（協力アドバイザー）  
香美町役場小代地域局長 上田 和章氏  
カリキュラム開発専門家：鳥取大学地域学部教授 筒井 一伸氏
- b 地域探求講演会（町長講演会）8月  
香美町（地域）の代表者に現状と課題を講演していただき「地域に学び地域に協働する学校づくり」についてグループ討議を行う。  
講師 浜上 勇人氏 香美町長  
助言者 塩沢 健一氏 鳥取大学地域学部准教授
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月

#### イ アウトドアスポーツ系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」を目指し、地域固有のレクリエーション資源（自然）を学び、アウトドアスポーツの魅力を伝えられるリーダー育成に必要な知識・技術を身に付けるとともに、アウトドアスポーツイベントの運営に必要な知識・手法を学び、香美町教育委員会・民間企業等と連携した企画を立案、実施するなど、より実践的な学びを行う。

#### 《地域学入門（1学年）》

テーマ「地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験」「スポーツ基礎理論と実践」

- a スポーツと身体機能について（柔道整復学、理学療法学、鍼灸学、スポーツ外国語） 6, 10, 11月 講師 履正社医療スポーツ専門学校職員

- b アウトドアスポーツ体験 地元講師 西垣幸造氏 7, 10～1月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月
- d 栄養学 講師 みかしほ学園日本調理製菓専門学校講師 12月
- e 来年度の探究テーマについて講義と協議  
講師 鳥取大学地域学部准教授 関 耕二氏 1～2月

#### 《地域スポーツⅠ（2学年）》

テーマ「オリエンテーリングの普及および教育的効果」

- a オリエンテーリング講習（コース設計、リハーサル） 5～7, 10月  
香美町教育委員会 田中 利彦氏 井上 昌輝氏
- b 土曜チャレンジ学習事業での参加児童を対象としたオリエンテーリング体験  
9月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッション、体験に向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9～10月
- d 地元小中学生へオリエンテーリングの普及活動 11月
- e 報告書作成 12～2月

#### ウ 地域スポーツⅡ（3学年）

テーマ「健康づくりと地域活性（介護予防体操による身体機能改善）」

- a 介護予防体操による身体機能改善の進め方 6, 11月  
講師 鳥取大学地域学部准教授 関 耕二氏
- b 介護予防体操創作、確認・検証、動画撮影 6～7月
- c 指導者講習会 7, 11月
- d 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月
- e DVD、テキスト作成 11～1月
- f 報告書作成 12～1月

#### エ アウトドアスポーツ系全体の取組（総合スポーツ学）

- a 冒険教育 テーマ「地域の自然を活かしたスポーツインストラクター資格取得」  
・ツリーイング、キャンプ、レクリエーション、クライミング、ラペリング等の体験、指導実習 地元講師 西垣 幸造氏 とちのき村講師 森井勇希氏他 5～11月
- b 地域スポーツ テーマ「地域の自然環境を活かしたスポーツの技術習得」  
・ゴルフ、スキー、スノーボード、スノーシュー、クロスカントリースキー  
地元講師 井上 直樹氏他 5～2月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- d 土曜チャレンジ学習事業（香美町教育委員会事業）シャワークライミング、オリエンテーリング、ボルダリング 指導補助 7月～12月

#### オ 総合的な探究の時間「村高発地域元気化プロジェクト」の探究活動

生徒同志が議論して改善・充実を図っていけるよう、学年を越えた全校生徒を、興味・関心にもとづいて8班に分け、「自然と暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとして、班毎に課題解決に向けた地域協働活動に取り組む。

- a 民芸班：「南中ソーラン」の介護予防体操版の作成し、映像化する。
- b 吹奏楽班：音楽を通して地域との交流を深め、地域になくってはならない吹奏楽団を目指す。
- c 食文化班：「村岡米」など地元食材を活用した高校目線でのレシピを提案し、情報発信することにより地域経済を盛り上げ活性化につなげる。
- d 環境 A 班：うへ山棚田の保全、土壌調査及び観光資源としての研究と棚田米の広報。地滑り対策と後継者対策動画協力。
- e 環境 B 班：地域の森林環境保全に繋がる取組を行う。間伐材の有効活用（木の駅プロジェクト）と協力。
- f 地域福祉班：高齢化、子育て支援についての調査を行い、世代を超えた交流を目指す。冬期には独居老人宅や公共道路の除雪活動を行なう。
- g 紙漉班：「射添紙でつなごう村岡から世界へ」をテーマに紙漉き体験を通じて地域の魅力を発信し、地域の認知度を上げ地域魅力化につなげる。
- h 集落調査班：小規模集落の魅力を再発見する調査、魅力発信（コロナ禍により対象を若者へ変更）。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・地域創造系 学校設定教科 地域探求  
     学校設定科目 地域学入門（1年） 地域探求Ⅰ（2年）  
                     地域探求Ⅱ（3年）
- ・アウトドアスポーツ系 学校設定教科 地域探求  
     学校設定科目 地域学入門（1年） 地域スポーツⅠ（2年）  
                     地域スポーツⅡ（3年）  
     学校設定教科 総合スポーツ学（2，3年）  
     学校設定科目 冒険教育 生涯スポーツ スポーツ実践
- ・学校設定教科 協働のまちづくり（1年） 総合的な探究の時間（2，3年）

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とする取組について

- ア 協働のまちづくり（1年 総合的な探究の時間） 総合的な探究の時間（2，3年）  
     名称「村高発 地域元気化プロジェクト」 全校生 1単位
- ・学校設定教科「地域探求」での地域との協働による探究的な学びと「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）を密接に連携させ教科横断的に展開することにより、さらに効果的なものとする。
- ・地域課題の解決に向けた探究活動を効果的に進めていくためには、各教科で学習する知識を身に付け、活用することが求められるが、教科の学びを単独ではなく、互いに関連付け、総合的に活用する力を育成する。
- ・各教科・学校設定教科「地域探求」での活動を「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）と連携させて計画・実行・検証することにより探究活動を多面的に捉え、分析する学びに発展させることにつなげる。
- イ 学校設定教科「表現」 学校設定科目「スピーチ」3年生選択科目 2単位
- ・高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えるとともに、自分の言葉で表現できるようにする。
- ・Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

- ア 地域住民への広報

- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」でのプレゼンテーション、ポスターセッション
- ・土曜チャレンジ学習事業でのオリエンテーリング、クライミング、ボルダリング等の普及
- ・「村高だより」（学校通信）を毎月発行し、関連小中学校、地域局、村岡区全区長、地域の公共施設や商店へ配布及び掲示する。（約500部）
- ・HPでのブログ等により、本校の授業や学校行事、特色ある取組みを発信している。
- イ 他校生徒、地域住民、学識経験者等との交流、地域の魅力を再認識、資質向上
  - ・「村高フォーラム2021」での講演会、パネルディスカッションを実施。  
コロナ禍のため基調講演をオンラインで実施。パネルディスカッションは町内から海外まで12名の卒業生をオンラインでつなぎ「地域と学校/『教育のまちを創る』」をテーマに協議した。
  - ・地域探求講演会（町長講演会）において「香美町のまちづくり」について講演いただき、小中学校統廃合のメリット・デメリットについてグループ討議を行い、鳥取大学准教授より指導助言をいただいた。
  - ・研修合宿にかえ日帰り研修による「地元資源」活用による地域活性化について研修。
  - ・「HYOGO×WKC フォーラム 高校生SDGsフォーラム探求発表会2021」へのプレゼンテーション発表と動画公開において参加。
  - ・「第3回但馬地区高校生フォーラム」でのプレゼンテーション発表とパネルディスカッション参加。
- ウ その他
  - ・「ヒーローインタビュー」（類型の卒業生インタビュー）による、本校の教育活動、事業の認知、協力に関する意見交換を行う。

⑤ 成果の普及方法・実績について

- ・地域創造系1～3年生及び総合的な探究の時間「集落調査班」が集落の魅力発信プロジェクト「むらの風景 vol 4～小代区の魅力発見～」を調査、編集、発行し地域へ配布する。
- ・地域創造系3年生地域探求Ⅱにおいて、国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性として、「石碑（石造物）を巡る香美の旅」DVD・テキストを作成し発信した。
- ・アウトドアスポーツ系3年生が地域スポーツⅡにおいて「介護予防体操～南中ソーラン編～」DVD・テキスト作成し配布する。各地区の指導者を対象に講習会を実施。
- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成、町への提言・発信を行なう。
- ・「村岡高校の探求の歩み～村岡協働物語～」(仮称)を鳥取大学地域学部と共編し発行、発信を行なう。
- ・「全国高校生マイプロジェクトアワード2021」参加。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ・地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合  
2年目目標値 70%      2年目実績 75.2%
- ・高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合  
2年目目標値 60%      2年目実績 67.1%
- ・高校卒業後、地元に貢献したいと思う生徒の割合  
2年目目標値 70%      2年目実績 81.2%

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

- ・外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数  
2年目目標値 70回      2年目実績 115回

- ・地域課題について研究の取り組みを発表する機会  
2年目目標値 7回 2年目実績 10回
  - (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)
    - ・コンソーシアムの構成団体数 2年目目標値 8団体 2年目実績 10団体
- <添付資料>目標設定シート

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 課題

- ・コロナ禍の状況において、地域への発信や発表会、他校や先進校との交流が難しく実施出来なかった。
- ・地域イベントの中止等により、地域との協働や活性化する活動を探究し実践する「総合的な探究の時間」が2年連続で校内活動に終始せざるを得ない班もあった。計画していた校外の探究活動が不十分な活動となった。
- ・本校の既存の活動から更に活動を発展させ、コンソーシアム・外部指導者の拡大、カリキュラムの開発に取り組むことが難しい状況であった。
- ・少子化が加速し生徒募集の難しい状況が続いている。本校の取組の成果や生徒の成長について、地域や保護者等への効果的な広報や幼小中学生との活動を効果的に行なう必要がある。

### (2) 改善点

- ・ウィズコロナにおいて、今まで蓄積したICT等の会議システムやコミュニケーションツールの研修と積極的活用により、オンラインによる探究活動、発表会や交流の体制整備を行う。また、「Instagram」「Facebook」「YouTube」による発信を行う。
- ・本校の重視するフィールドワークや協働活動でも、感染予防対策を徹底し、さらにICTを活用して実施可能な方策を立て、生徒の内的動機付けによる自主的活動の基となる自己決定能力を育成する探究活動を確立させる。
- ・香美町、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施指導員との連携を密にし、卒業生・地域・団体等との連携と知見の集約を図るために地域(校外)のコーディネーター体制を確立させ、まちづくりを通じた人と人との連携を図る「人づくりネットワーク」を進める。
- ・「ヒーローインタビュー」等による卒業生をはじめとする人や地域、企業、大学とさらに連携を深め、関係人口の拡大を図る中で知見を集め、魅力ある探究活動を推進する。
- ・類型の学びによる地域活性策を総合的な探究の時間において実践し、さらに各教科との連携した横断的なカリキュラムを構築する。また本校の強みの協働的な学びを個別最適化した学びに活かしたキャリア教育において、生徒の進路実現を図り特色化・魅力化を推進する。
- ・地元幼小中学校との連携をさらに密にすると共に、活動を可視化することにより、地域や住民への理解を進め、本校の特色・魅力を発信する。

### 【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	TEL	078-362-3817
氏名	堂阪博文	FAX	078-362-4288
職名	指導主事	e-mail	koukouyouikuka@pref.hyogo.lg.jp

## (2)目標設定シート（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合						単位： %
a	本事業対象生徒：		60	70	80	80(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地域との協働活動の成果としての地域貢献意識の向上を目指す。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合						単位： %
b	本事業対象生徒：		50	60	70	70(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地域との協働活動の成果としての地域貢献意識の向上を目指す。						
(その他本構想における取組の達成目標) 高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合						単位： %
c	本事業対象生徒：		60	70	80	80(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地域との協働活動の成果としての地域貢献意識の向上を目指す。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数						単位： 回
a			60	70	80	80(2022)
目標設定の考え方：地域住民や学識経験者との交流や指導により多様な価値観の獲得と資質向上を目指す。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域課題について研究の取り組みを発表する機会						単位： 回
b			5	7	10	10(2022)
目標設定の考え方：他校生徒の交流や発表会等に参加し、プレゼンテーション、ディスカッション能力の向上を目指す。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位：
c						
目標設定の考え方：						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) コンソーシアムの構成団体数						単位： 団体
a			6	8	10	10(2022)
目標設定の考え方：関係団体、関係人口を増やし、地域との協働活動を推進する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位：
d						
目標設定の考え方：						

<調査の概要について>

### 1. 生徒を対象とした調査について

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
全校生徒数（人）	185	173	169	153	175
本事業対象生徒数			169	153	175
本事業対象外生徒数					



# 3 研究開発の内容

## (1)各授業の実践

### (ア) 地域アウトドアスポーツ類型 地域創造系

- a 地域探求 地域学入門
- b 地域探求 地域探求Ⅰ
- c 地域探求 地域探求Ⅱ

### (イ) 地域アウトドアスポーツ類型 アウトドアスポーツ系

- a 地域探求 地域学入門
- b 地域探求 地域スポーツⅠ
- c 地域探求 地域スポーツⅡ

### (ウ) 「村高発 地域元気化プロジェクト」

協働のまちづくり(1年)、総合的な探究の時間(2、3年)

- a 民芸班
- b 紙漉き班
- c 吹奏楽団
- d 食文化班
- e 環境A班(棚田保全グループ)
- f 環境B班(森の健康診断グループ)
- g 地域福祉班
- h 集落調査班

### (エ) 表現「スピーチ」

教科名	地域探求	科目名	地域学入門	単位数	1単位				
対象・学年	1年地域創造系9名			必履修の別	必履修				
1 仮説・ねらい	地域の調査(自然・歴史)や専門家からの講義による、探究活動の手法を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や課題発見能力を養い、自ら学びに向かう姿勢を身につける。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コワーイネート力	⑧自己表現力
		◎	○	○	◎	○	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション 地域の自然を知る			概要説明・プレゼンテーション(春季課題) 地質調査・植生調査・獣被害 水生昆虫調査 海洋生物調査				
	2学期	地域の歴史・文化を知る 地域を知る(まとめ)			現地調査(村岡商店街) プレゼンテーション(現地調査報告) プレゼンテーション(まとめ)				
	3学期	探究テーマ検討			地域の課題を見つける 探究テーマ検討				
3 実施内容	<p>(1)オリエンテーション</p> <p>①概要説明</p> <p>②プレゼンテーション テーマ「私のむらの魅力発見」4/27</p> <p>(2)地域の自然を知る</p> <p>①地質調査 講師：古藤尚氏 三木武行氏(兵庫県豊岡市ジオパーク普及啓発専門員)6/7 7/13 ・日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土とくらし/岡見公園の地質調査</p> <p>②植生調査 講師：菅村定昌氏(兵庫県生物学会但馬支部)6/14 8/6 ・但馬の植生/ハチ北高原大沼の植生</p> <p>③獣被害について 講師：横山真弓教授(兵庫県立大学自然・環境科学研究所)8/24 ・ツキノワグマの出没要因と獣害防止対策</p> <p>④水生昆虫調査 講師：西田昭夫氏(地元講師)6/22 7/21 ・昆陽川の水生昆虫調査/香美町土曜学習チャレンジ事業として実施</p> <p>⑤海洋生物調査 講師：本庄四郎氏(NPO法人 但馬自然史研究所)8/2 ・スノーケリング・シーカヤック実習</p> <p>(3)地域の歴史・文化を知る</p> <p>①現地調査 講師：石松崇氏(香美町教育委員会) ・村岡商店街を散策し、歴史・文化を学ぶ。</p> <p>②プレゼンテーション(現地調査報告) ・新たな魅力発信の枠組みを考える。</p> <p>(4)地域を知る(まとめ) 講師：石山雄貴講師(鳥取大学地域学部)</p> <p>①プレゼンテーション ・自然分野、歴史文化分野に分かれて発表/グループワーク</p> <p>(5)その他</p> <p>①夏季集落調査実習 7月19日(月)～ ・事前授業/講師：筒井一伸氏(鳥取大学地域学部教授) ・夏季調査実習(小代区の集落調査) ・中間報告/講師：筒井一伸氏(鳥取大学地域学部教授) ・調査結果まとめ/講師：筒井一伸氏(鳥取大学地域学部教授) ・集落調査の意義/講師：筒井一伸教授(鳥取大学地域学部教授)</p> <p>②町長講演会 8月5日(木) 講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授(鳥取大学地域学部) ・講演「香美町のまちづくり」 ・グループ討論「学校統廃合の是非について」</p> <p>③コミュニケーションワークショップ 12月16日(木) 講師：平田知之氏(芸術文化専門職大学専任講師)</p>								
4 生徒感想	<p>地域学入門を通して、住んでいても知らなかった地域の美しさや歴史を感じることができた。少子高齢化が進む現状であるが、これらの魅力を何とかして発信していかないと考える機会を持った。自分の暮らす地域の現状を色んな側面から知ることができた。その中で、問題を解決しようとする気持ちが培われた。また、人に説明をする難しさも気づき、今後これらの苦手分野を改善していきたい。</p> <p>集落調査を通して、人口減少と、それとともになくなりかけている伝統文化について学ぶことができた。そういった課題に対して、高校生のパワーで地域の活性化をしたいと考えた。</p> <p>地域学入門では現地に赴くことが多く、そこで新たに疑問が生まれたり、興味が湧いたりした。また、地域創生類型の他の1年生との結束力が生まれた。</p>								
5 評価	生徒評価(5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コワーイネート力	⑧自己表現力
	4月	3.9	3.7	3.6	3.7	3.9	3.7	3.7	3.2
	10月	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	4.2	3.9	3.8
6 成果と課題	<p>1年間の地域学入門の授業を通して、目に見えて成長が著しかった点は生徒の自主性だった。入学当初から何事にも真面目で自主的に取り組む集団だったが、講義を通して但馬地域の魅力や課題を学ぶにつれ、その自主性には磨きがかかり、魅力発信や課題克服のためのアイデアを次々と出していた。度々行われたグループワークでは一人一人が自分の意見をしっかり持ち、それを全体で共有することが多かった。その中で、少子高齢化という現状から目を背けず、自分たちに何ができるのかを必死で思索する姿勢が見られた。今後、さらなる成長が期待できる。</p> <p>一方で、提案される意見の中には少し現実離れしすぎているのではと思われるものも散見された。授業の取り組みには申し分ないが、目先の課題に集中しすぎて物事を多面的に見ることを疎かにする場面があった。多くの議論が必要されるような重大な問題ほど、一歩下がってその課題を俯瞰する、というような習慣付けが必要ではないかと考えた。そうすれば自ずと、さらなる創造的なアイデアが舞い降りてくると期待できる。</p>								

# 地域学入門

## 1. 地域学入門とは

地域を知る 地域を深める 地域を創る



地域の自然と歴史について学ぶ。「地域を知る」をスローガンに、各分野の専門家から「郷土」を知るための視点と探求方法を学ぶ。そして二次以降の「地域探求」学習の探求テーマとなる資源を見つけ出す!!

## 2. これまでの主な活動

学習内容	講師の先生	実施日
私の村の魅力発見・発表		4月27日
但馬の地質	古藤尚氏	講義：6月7日 実習：7月13日
但馬の植生	菅村定昌氏	講義：6月14日 実習：8月6日
水生昆虫	西田昭夫氏	講義：6月22日 実習7月21日
スノーケリング実習	本庄四郎氏	実習：8月2日
獣被害対策	横山真弓氏	講義：8月24日
但馬の歴史	石松崇氏	実施予定

## (1) 但馬の地質

### 《活動内容》

- ・地質の講義
- ・岡見公園での実習
- ・海の文化館での実習

### 《学んだこと》

- ・化石の発見から分かる日本列島の由来方
- ・地質から分かる時代の流れ
- ・但馬は海の家産物に恵まれている



## (2) 水生昆虫

### 《活動内容》

- ・水生昆虫の講義
- ・水生昆虫の採取
- ・昆虫の標本作成

### 《学んだこと》

- ・水生昆虫から川の水質を分析できること
- ・水生昆虫が薬品として利用されていること



## (3) スノーケリング・シーカヤック体験

### 《活動内容》

- ・スノーケリング 海の生物の観察
- ・シーカヤック 海岸周辺の地形の観察

### 《学んだこと》

- ・宇日海岸は昔ながらの海が魅力
- ・プランクトンが豊富なため、様々な生き物が生息していること
- ・山や川のごみが海に流れ着き水質汚染を招いていること



## (4) 但馬の植生

### 《活動内容》

- ・但馬の植生についての講義
- ・ハチ北での植生調査

### 《学んだこと》

- ・身近な植物が資源になっていること
- ・植物が絶滅の危機に陥っていること
- ・地元の植物を守っていかなければならないこと
- ・植物の特徴を理解し、人間の勝手に移入してはいけないということ



## 3. 学習の成果

### (1) 身近にある自然が資源や魅力になる。



柳の木は但馬に多く生息している。しかしこの木はカーボンニュートラルの新たな資源として注目されている。このように、私たちの身近にある自然が新たな資源になり、魅力として地域起こしに利用できる。



### (2) 私たちの生活が自然を壊しているのかもしれない。

ダムが作られることで私たちの生活は豊かになる。しかし、ダムがあったところに生息している動物たちにとって、生活場所を遮断されてしまう。私たちの生活が豊かになることで、自然を壊してしまうかもしれない。



### (3) 人間と動植物は共生していかなければならない。

地域学入門で、人間と植物たちの共生について学んできた。例えば、蜚や鮎は綺麗な川にしか生息できない。私たちが川を綺麗にすることで、それらの生き物を守ることができ、私たちもその綺麗な川や生き物を利用し、新たな観光資源として利用ができる。



## 4. 今後の展望

今年度の活動から得た観点を学びを通して、地域をより良く創造していける人材となるために、二次以降の地域探求におけるテーマを精選し、追究していきたい。

教科名	地域探求	科目名	地域探求 I					単位数	1単位
対象・学年	2年地域創造系生徒14名						必修の別	必履修	
1 仮説・ねらい	マーケティング手法を用いた地域活性をめざす『ひと・もの・こと』発信プロジェクト～香美の魅力を売る～に取り組み、地域の組織や人との連携を深めるとともに、地域に存在する魅力ある資源に新たな価値を見出したり、付加したりする能力や議論する力を養うとともに、自己表現力を身につける。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	マーケティングに関する学習			マーケティングに関する基本的な学習とケーススタディ				
	2学期	徳島県上勝町研修 活用する資源の選定と活用方法の協議 関係機関との協議			「葉っぱビジネス」の事例からマーケティング手法に関する理解を深める マーケティング手法を用いて売り出していく資源を決定 企業・自営業者・商工会議所の方々とともに企画を立案				
	3学期	マーケティング手法を用いた市場分析			資源が持つ魅力の分析、有効なターゲットの選定				
3 実施内容	<p>(1) マーケティングに関する学習 講師：白石秀壽講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>① マーケティングの3C</p> <p>② マーケティングの4P</p> <p>③ ケーススタディ「山田太郎氏、豆腐屋を継ぐ」</p> <p>(2) 徳島県上勝町研修に向けた事前学習 講師：白石秀壽講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>(3) 徳島県上勝町研修</p> <p>① 株式会社いろいろの取り組み 講師：横石知二氏（株式会社いろいろ代表取締役）</p> <p>② 上勝町の取り組み 講師：上勝町役場職員</p> <p>③ いろいろ農家の取り組み 講師：西蔭幸代氏</p> <p>④ ゼロ・ウェイストの取り組みと現地見学 講師：ゼロ・ウェイストアカデミースタッフ</p> <p>⑤ 研修のふりかえり 講師：白石秀壽講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>(4) 活用する資源の選定と活用方法の協議、プロジェクトグループの作成</p> <p>① 小代のキャンプ場を活用した自然体験</p> <p>② 村岡地区内の施設の有効活用</p> <p>③ 糞漬け商品の発信</p> <p>④ 獣被害対策とジビエ資源の活用</p> <p>(5) 関係機関との協議</p> <p>① 吉滝キャンプ場を活用した自然体験の企画立案 協力：西村太一氏（吉滝キャンプ場経営）</p> <p>② 村岡商店街の観光資源化の企画立案 協力：田畑善延氏（香美町商工会事務局長）</p> <p>③ 株式会社奥但馬の商品「唐三」の発信方法 協力：今井司朗氏（株式会社奥但馬社員）</p> <p>④ ミリヤゲストウスのナイトサファリ・ハター見学体験の発信方法 協力：田尻茜氏（ミリヤゲストウス経営）</p> <p>(6) マーケティング手法を用いた市場分析 講師：白石秀壽講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>① セグメンテーションによる顧客の焦点化</p> <p>② カスタマージャーニーへの効果的アプローチ方法の考察</p> <p>(7) その他</p> <p>① 夏季集落調査実習 7月19日（月）～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業／講師：筒井一伸 氏（鳥取大学地域学部教授）</li> <li>夏季調査実習（小代区の集落調査）</li> <li>中間報告／講師：筒井一伸 氏（鳥取大学地域学部教授）</li> <li>調査結果まとめ／講師：筒井一伸 氏（鳥取大学地域学部教授）</li> <li>集落調査の意義 / 講師：筒井一伸 教授（鳥取大学地域学部教授）</li> </ul> <p>② 町長講演会 8月5日（木）</p> <p>講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演「香美町のまちづくり」</li> <li>グループ討論 「学校統廃合の是非について」</li> </ul> <p>③ コミュニケーションワークショップ 12月17日（金）</p> <p>講師：平田知之氏（芸術文化専門職大学専任講師）</p>								
4 生徒感想	<p>地域探求 I で学び、印象に残ったことは「地域の魅力は自分の足元に転がっている」ということです。これは夏休みに行われた徳島県上勝町での研修で言われた言葉です。この地域では葉っぱ産業が盛んになっており、これも地域にある資源から思いついたものでした。私たちがこの上勝町のように人口減少や高齢化が進んでいても若者のアイデアで活気づけていけるような活動を行っていきたいです。今、私たちはそれぞれの班に分かれてどうやって町を盛り上げていくのか、地域の人との話し合いを進めて方策を考えています。私は小代にある「唐三」の商品を誰にどう売り出していくのかを、徳島で教えていただいたこの言葉を頭に入れてこれからも活動していきたいです。高齢化し、人口減少も進んでいるこの地域で急激に人口を増加させることは難しいけど、今いる地域の人を楽しませたり、活気づけることは今の私たちにでもできることだと思っているので、「唐三」を売り出す方法を考え、携わってくださった方々に笑顔を届けていきます。</p> <p>私たちは、白石先生からマーケティングの原理を学び、マーケティングの知識を得て、地域の特色を売り出すために、季節や人など色々なことを組み合わせて市場を分析し、どんな人に売り出していくのか、どのように顧客にアプローチするのかを考えています。また、地元の人と協議する中で、どうゆうことが実現できるのか、どうしたら実現できるのか、実現に向けて障害となっているものは何かといったことを考えました。限られた環境の中で作り上げることの難しさを学びました。協議に際して、地元の人たちが、私たちのやろうとしていることに対して真剣に向き合ってくれて、地元の人々の優しさが伝わってきました、私たち村岡高校生をどう見てくれているのかが分かりました。期待に応えられる取り組みにしたいです。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年1月	4.4	4.3	4	4	4.2	4	4	4.1
	2021年4月	3.9	3.8	3.9	3.9	4	4.2	4.3	3.9
	2021年10月	4.1	4.3	4.1	4.1	3.8	4	4.1	4
6 成果と課題	<p>マーケティング手法を用いて、香美町の魅力的な資源を発信し、その活動による効果を分析して、更なる発信方法の探究をするという活動であるというふうには自分自身はこの活動をとらえている。1年次の地域学入門で触れたことができたことや、創造系生徒が全員で行う夏季調査実習のなかで見つけてきた魅力的な地域の資源の中から探究テーマを設定できたことは、学習の継続性を意識させることができたとともに、探究活動を行う生徒たちのモチベーションを大きく向上させることができたと感じた。ただやはり希望通りの環境があるわけではなく、限られた環境の中で、探究テーマを変更せざるを得ないことについては、モチベーションの低下を招き残念な一方で、様々な制限があるなかでそれでも形を作り上げようとする姿に、新たな価値観を創造しようとする力、議論を通してより良いものを作り上げようとする力が磨かれていると感じた。今回の取り組みは紆余曲折が多く、出口が見えない。これは生徒が感じると同時に自分自身も感じている。ゴールが見えないなかで走り続けることはしんどいが、しかし前述したような努力をえる生徒たちが、着実に力を身につけて成長していると感じている。</p>								



# 地域創造系2年 地域探求Ⅰ

## 『ひと・もの・こと』発信プロジェクト

マーケティング手法を用いた地域活性化～香美の魅力を売る～

### 1. 地域探求Ⅰとは



### 2. 『ひと・もの・こと』発信プロジェクト

マーケティング手法を用いた地域活性化～香美の魅力を売る～

このプロジェクトは、香美町の魅力的な「ひと・もの・こと」を発信していくプロジェクトです。香美町に存在する資源を製品化し、これをマーケティング手法を用いて分析・発信促進することを目指しています。

私たちは、鳥取大学の白石秀壽先生のご指導のもと、マーケティング手法の学習、実習を行い、これをさらに深めるために徳島県上勝町に研修に行きました。

現在、これらの学びをもとに、いよいよ活用する資源を決定しました。活用する資源をもとに4つのグループをつくり、協力していただける地域の方々と話し合いながら、よりよく資源について発信していくためにマーケティング手法を用いようとしています。



### 3. 主な活動日程

日にち	講師	主な活動
2月14日	鳥取大学 白石秀壽氏	マーケティング学習①
2月17日	鳥取大学 白石秀壽氏	マーケティング学習②
3月2日	鳥取大学 白石秀壽氏	マーケティング実習『村岡高校を売り出す』①
3月22日	鳥取大学 白石秀壽氏	マーケティング実習『村岡高校を売り出す』②
6月10日	鳥取大学 白石秀壽氏	テーマ設定 魅力的な資源を選定する
8月3日	横山知二氏	徳島県合宿研修
9月27日		テーマ設定 魅力的な資源の売り出し方法の協議①
9月30日		テーマ設定 魅力的な資源の売り出し方法の協議②

### 4. 徳島県上勝町研修の活動内容と学び

#### ① 株式会社いとうりの取り組み

講師 横山知二氏

『築っばビジネス』を立ち上げた横山氏から、マーケティング活用の手法、さらに地域をプロデュースしていく際のポイントについて講義をしていただいた。

#### 学んだこと

- ・ 喜ぶ出口をつくり、仕組みを考える
- ・ 言われたことをするのではなく、自分で考えて行動することを習慣づける
- ・ 少数精鋭で事業を始めて、成功して巻き込んでいく
- ・ 輝ける舞台、役割を与えることが、その人たちの生きがいになる



#### ② 彩農家の取り組み

講師 西藤幸代さん

『築っばビジネス』に携わっておられる西藤さんにお話を伺った。西藤さんたち生産者のおばあちゃんたちは、パソコンやタブレットをスマートに使いこなし、受注から商品梱包などいきいきとこなされる。西藤さんに、やりがいや活動に対する思いを伺った。



#### ③ ゼロ・ウェイストの取り組み

2020年までに焼却ゴミと埋立てゴミを無くす最善の努力をすることを約束した『ゼロ・ウェイスト宣言』。ごみを出さない社会を目指し、瓶や缶などのさまざまな「資源」を住民各自が『こみステーション』で45種類以上に分別する活動をしている。現在、リサイクル率は80%を超えている。

#### 学んだこと

- ・ 地域の人々が一体化することで、達成できることも増える
- ・ ごみの分別やリサイクルを通して、住民同士の関わりや、住民と行政の関わり場ができる



#### ④ 研修全体を通して、何が自分たちの活動に具体的に活かせるか

今回の研修を通して、自分たちの目の前にあるもの、当たり前にあるものに目を向け、資源を発見し、たくさんの方が喜ぶ顔を思い浮かべながら、地域の方と協力し、達成できるまであきらめず、マーケティングの学習を活かして、香美町の資源、魅力をたくさんの人に伝えていきたいと感じました。



### 5. 今後の展望

## 『ひと・もの・こと』発信プロジェクト

マーケティング手法を用いた地域活性化～香美の魅力を売る～

活用する資源をもとに4つのグループをつくり、協力していただける地域の方々と話し合いながら、よりよく資源について発信していくためにマーケティング手法を用いようとしています。

#### <テーマ> キャンプ

##### 【活動内容】

- ・ スマホを使わない自然体験込みのキャンプ
- ・ 登山→山菜採取、昆虫採取
- ・ 溪流釣り

##### 【ターゲット】

- ・ 自然に興味のあるキャンプ好きな若者、親子

##### 【期待される成果】

- ・ 自然を満喫できる選択肢としての香美町

##### 【協力人(予定)】

- ・ 貫田のキャンプ場を運営されている西村太一さん



#### <テーマ> 施設活用

##### 【活動内容】

- ・ 御殿山での屋外カフェ、射添和紙でのライトアップ

##### 【ターゲット】

- ・ 地域の人

##### 【期待される成果】

- ・ 御殿山という桜の名所を有効に活用できる

##### 【協力人(予定)】

- ・ 商工会
- ・ 飲食店の方々



#### <テーマ> 商品販売・開発(ジビエ)

##### 【活動内容】

- ・ ジビエをゲストハウスなどに提供し都会から来た人に食べてもらう

##### 【ターゲット】

- ・ 都会から観光に来た人

##### 【期待される成果】

- ・ 豊富に存在する鹿や猪を活用できる
- ・ 獣被害の減少

##### 【協力人(仮)】

- ・ スミノヤゲストハウスを運営されている田尻茜さん
- ・ 地元猟師



#### <テーマ> 商品開発・販売(糶漬け)

##### 【活動内容】

- ・ 糶漬けをマーケティングを用いて売り出す

##### 【ターゲット】

- ・ 都会から観光に来た人

##### 【期待される成果】

- ・ 糶漬けに使うことで香美町の食材をより知ってもらいやすくする

##### 【協力人(予定)】

- ・ 小代で糶漬けを作っている今井司朗さん



### 6. 今後の活動予定

日にち	講師	主な活動
10月25日		協力していただける地域の方々と協議
11月10日	鳥取大学 白石秀壽氏	マーケティング手法を用いた企画のブラッシュアップ
1月頃		企画の実施や商品の販売、広告活動

教科名	地域探求	科目名	地域探求Ⅱ					単位数	1単位
対象・学年	3年地域創造系生徒14名						必履修の別	必履修	
1 仮説・ねらい	①地域との連携を深め、これまでの学習から地域課題の解決策をまとめるために、新たな価値を創造する能力や議論する力を養うとともに、自己表現力を身に着ける。 ②国際的・芸術的・文化的観点から香美町の文化財（特に石造物）を活用した地域づくりの方策を具体化する。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	「石碑(石像物)を巡る香美の旅」プラン作成			現地調査				
					企画プレゼンテーション				
					動画撮影				
	2学期	「石碑(石像物)を巡る香美の旅」動画制作			専門家による動画作成講義				
			動画作成						
3学期	「石碑(石像物)を巡る香美の旅」まとめ			動画編集・完成					
				卒業論文完成					
3 実施内容	(1)「石碑(石像物)を巡る香美の旅」プラン作成 ①現地調査／講師：石松崇氏（香美町教育委員会）・アレクサンダー・ギンナン氏（鳥取大学地域学部講師） ②企画プレゼンテーション／助言者：アレクサンダー・ギンナン氏（鳥取大学地域学部講師） ③動画撮影／講師：アレクサンダー・ギンナン氏（鳥取大学地域学部講師） (2)「石碑(石像物)を巡る香美の旅」動画制作 ①専門家による動画作成講義／講師：藤本悠氏（芸術文化観光専門職大学准教授） ②動画作成／講師：アレクサンダー・ギンナン氏（鳥取大学地域学部講師） (3)「石碑(石像物)を巡る香美の旅」まとめ ①動画編集・完成 (4)卒業論文 「私の地域活性化プラン」作成 (5)その他 ①コミュニケーションワークショップ 7月12日（月） 講師：平田知之氏（芸術文化専門職大学専任講師） ②夏季集落調査実習 7月19日（月）～ ・事前授業／講師：筒井一伸 氏（鳥取大学地域学部教授） ・夏季調査実習（小代区の集落調査） ・中間報告／講師：筒井一伸 氏（鳥取大学地域学部教授） ・調査結果まとめ／講師：筒井一伸 氏（鳥取大学地域学部教授） ・集落調査の意義 /講師：筒井一伸 教授（鳥取大学地域学部教授） ③町長講演会 8月5日（木） 講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授（鳥取大学地域学部） ・講演「香美町のまちづくり」 ・グループ討論 「学校統廃合の是非について」								
	4 生徒感想	・3年間の地域創造系の活動の中で多くの方が、授業にかかわってくれたことが私の地域創造系での学びを内容の濃いものにしてくれました。 ・私は将来、中学校の英語の教員になることを目指しています。そして、地元に戻り、教員の立場から地域に貢献していきたいと思っています。村岡高校での学びを活かし将来も地域に関わっていくことで、自分が生まれ育ったふるさとに恩返しをしたいと思っています。大学ではしっかりと学びを深め、大きく成長して、将来は地域に必要なとされる教員になりたいと思います。 ・高校に入る前から、地元のことは大好きでした。でも、ただ好きだけで止まっていた。3年間の地域探求の中で、地元に住んでいたのに知らなかったことや、驚きと発見で一杯になりました。自分たちの住んでいる地域のことを知るといことは、普通に住んでいるだけでは知ることが難しいと思います。地域探求でその機会を与えてくださって本当に、地域創造系に入ってよかったと思います。地元の素晴らしさを深く実感することができました。 ・高校卒業後は大学進学のため、香美町を去ります。しかし、だからこそ地元をより多くの人に知ってもらえるよう自分自身で何かを考え、行動していきたいです。私たち一人一人が香美町で生まれ育ったという自覚を持ち、地域の外に出ても、「関係人口」の一人であることを意識して生活していきたいです。							
5 評価	生徒評価（5点満点）	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年1月	3.4	3.6	3.7	3.5	3.8	3.4	3.5	3.4
	2021年4月	3.8	3.9	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.5
	2021年10月	4.1	3.9	4.1	3.8	4.1	4.2	4.1	3.7
6 成果と課題	1年次で「地域を知る」をテーマに学び、2年次で「石造物」を用いて地域活性化につなげることを試みた。3年次では、香美町内にある「石造物」について、香美町内だけでなく広く周知するために、動画やgoogleマイマップを用いた周知方法を考えた。成果としては、動画の内容をそれぞれ考え、紙芝居を用いた方法等、様々な表現方法を考えることができた。また、プレゼンテーション能力は3年間を通して培えた。コロナの影響は全体的には悪い方向に働いたが、普段踏み入れられないような場所にある「石造物」をオンラインで効果的に発信するという逆転の発想が生まれた。 課題としては、村高フォーラムなどを通しての発表や動画作成の担当が偏ってしまったことである。また、香美町の「石造物」の魅力を十分に伝えられたかの検証ができなかった。これらの課題を踏まえ、今後の地域創造系では役割分担をしっかりと行い、地域活性化へ向けた具体的な方法の検討を継続的に行っていきたい。								

# 3年 地域創造系 地域探求II

## 【目的】

- 石碑を用いて香美町のことをさらに知ってもらおう。
- 香美町に来てもらい、地域活性化に繋げる。

## 【方法】

- 香美町内の石碑を詳しく調べる ⇒ 現地調査やインタビュー

## 【これまでの活動】

- ① 入学課題、地域学入門での課題

(石碑や石造物を扱っている人が多かった)

- ② テーマを「石碑」に設定
- ③ リモートでの明日香村研修
- ④ 香美町の石碑巡り
- ⑤ PR 紹介方法の考案
- ⑥ 海外の石造物紹介動画の閲覧
- ⑦ 撮影の素材集め、情報収集



## 兔の塚・八幡山彫刻公園

<兔の塚>

<八幡山彫刻公園作品の一覧>



地元の方に兔塚の歴史についてインタビューしている様子

兔の塚 1号碑

作者：Cheung Wook Jang (韓国)



兔の塚 2号碑

実際に現地に足を運び説明を受けている様子

### まとめ

兔塚の地元の方にお話を聞いたことにより、当時の兔塚の様子や歴史を改めて学ぶことができました。また兔の塚に込められた思いや過去のエピソードなどを学習することができました。多くの彫刻を調べたことで彫刻の種類や八幡山彫刻公園の全般を知ることができました。

## 一二峠御廟



中の石碑

- 村岡区萩山にある。
- 江戸時代初期に村岡(当時の七美)を統治していた山名豊国の慰霊碑である。
- 小さな小屋の中に石碑がある。
- 毛虫が大量発生した際に、中の石碑を削って飲むと刺された患部が治るという噂が広まった。このため、多くの人々によって削り取られ、いびつな形になった。元は五輪塔であったといわれている。

## 岡見公園 in 香住



小人の墓



「小人の墓」とも読める文字が書かれた謎の石造物。正体は灯籠であることが分かっている。昔は崖の上にあっただが何らかの原因で崖に挟まってしまった。

漁場を荒らされて困り果てた漁師がイルカ退治にご利益がありそうな名前を考え、乙巳の変で鎌足らが蘇我入鹿を討った史実から入鹿とイルカをかけて祭った。



かまたりさん



現地調査の様子

## 香美町の古墳

### 壁画古墳



村岡区寺ヶ内の山の奥にある二つあるうち、私たちが見つけたのは地元の方でも見つけるのが難しいと言っていた古墳である！



古墳に入って左側に縦の模様がある！

## 【課題】

現地を訪ねてもらうことが難しい

(例)

八幡山彫刻公園⇒一部で整備されていない場所があること、街灯が少ないことといった危険がある。

三之谷壁画古墳⇒看板が落ちていたり、や木が倒れているところがあり、整備が追いついていない。



三之谷壁画古墳へ向かう途中

## 【展望】

- 発信方法について

当初の案

マップ・ガイドブック・オンラインのガイドサービス 等



しかし・・・

上記の課題や新型コロナウイルスの影響を踏まえ、直接現地に訪ねてもらうことが難しいと考えた。そのため、現地の様子を撮影し、動画で石造物の発信を行いたいと考えた。今後は、そのための動画作成を行う予定である。



教科名	地域探求	科目名	地域学入門	単位数	1単位				
対象・学年	1年アウトドアスポーツ系10名			必履修の別	必履修				
1 仮説・ねらい	<p>①地域の豊かな自然、観光資源、専門家の講義により、地域課題を発見しテーマ設定を行う。探究活動の手法を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や課題発見能力を養い、自ら学びに向かう姿勢を身に付ける。</p> <p>②地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験やスポーツ理論の体験学習により、スポーツを通じた地域活性化の探求心を育む。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	○	○	◎	○	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション 地域の自然を知る			概要説明・プレゼンテーション(春季課題)・レポートの書き方 地域の自然環境を活かしたアウトドアスポーツ体験				
	2学期	スポーツ理論			スポーツ関わる仕事を知る 栄養学について学ぶ				
	3学期	探究テーマ検討			健康づくりと地域活性 探究テーマ検討				
3 実施内容	<p>(1) オリエンテーション 4月27日(火)</p> <p>①概要説明 ②プレゼンテーション テーマ「私のお勧めのアウトドアスポーツ」 ③レポート作成方法について</p> <p>(2) 地域の自然を知る</p> <p>①デイキャンプ 7月29日(木) 講師：小林 裕二氏(講師美方高原自然の家「とちのき村」) ・仲間づくりプログラム ・野外炊事 ・沢登り ②チャレンジラペリング 11月8日(月) 講師：西垣 幸造氏(講師美方高原自然の家「とちのき村」)</p> <p>(3) スポーツ理論</p> <p>①スポーツトレーナー 6月2日(水) 講師：南 遥夏氏(履正社医療スポーツ専門学校) ②鍼灸師/スポーツ外国語 6月15日(火) 講師：西村 展幸氏・クレイグマクラレン氏(履正社医療スポーツ専門学校) ③理学療法士 10月28日(木) 講師：木下 拓真氏(履正社医療スポーツ専門学校) ④柔道整復師 11月2日(火) 講師：辻井 宏昭氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>(4) スポーツと栄養</p> <p>①栄養学 12月13日(月) 講師：兼田 憲伸氏(日本栄養専門学校)</p> <p>(5) 探究テーマ検討</p> <p>①運動と生活習慣病 1月19日(水) 講師：関 耕二氏(鳥取大学准教授) ②介護予防体操の意義</p>								
4 生徒感想	<p>今回、初めて沢登りを行い、はじめはどういうものかわかりませんでした。登るとたくさん岩があり水も流れているので、危険だけど、登るところが難しいところがあれば、手を貸しあったり応援したりして、無事全員けがなく登りきることができました。一人で登るよりもみんなで登るほうがやりがいがあって、すごくいい経験ができました。今回のデイキャンプを通して、アウトドアスポーツ系のメンバーのお互いの知らないところが知れたり、協力しあうことの大切さを改めて気づきました。また、仲間との交流を通じてアウトドアスポーツに親しむことができました。これからの授業でも仲間と支えあい、たくさんのが学べたらいいなと思います。</p> <p>今回の講義で、体のことや生活習慣病のことについて教えていただきました。そして、探究テーマを検討していきました。私たちは、村岡高校の3年生のアウトドアスポーツ系の先輩方が取り組んでいた「元気体操」を引き継ぎ、普及活動とより効果的な体操になるように体操の効果を検証し、改善した元気体操を創作していくことに決めました。そのためにもまず、踊り方や、気を付けるところを動画を見ながら練習しました。元気体操を実際に行ってみて、ひとつひとつの動きが対象筋肉や、効果があり高齢者の方にも座ったままできる体操になっていました。大きく動き、気を付けることを意識するとより一層効果を感じました。また、ゆっくりとした動きのほうが良いと思うので回数を減らすなどの改善してみるとよいのではないかと思います。元気体操については、3年生の方々が時間をかけて、工夫して作られたものです。私たちが効果を検証していき改善するところなどを見つけ、もっとよいものができるようにしたいです。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	4月	3.4	3.6	3.2	3.4	3.4	3.7	3.5	3.4
	10月	4.1	4.1	3.7	4.0	3.5	3.8	4.1	3.9
6 成果と課題	<p>地域学入門では、「地域を知る」をテーマに、地域の専門家から地域の魅力となりうる資源を教わったり、その資源とスポーツを結び付け地域活性の手法を学び、2・3年次における地域スポーツの学習に向けてその準備をしている。キャンプやラペリングなどの地域の自然を活用したアウトドアスポーツ体験により、基礎を学び、役割分担・責任感・リーダーシップ・協力など他者理解と自己理解を深めることができている。また、スポーツ理論や栄養学の学習を通して、高度な専門的知識を知り進路意識が高まった。地域学入門での学びは、体験的な学習を主としているため課題発見でとどまり課題解決能力の育成・向上までは到達していないという昨年度の課題解決に向け、早期に探求テーマを決定した。2・3年次に深みのある探求活動を展開し、地域からの要望に応え、地域活性に向けて取り組みたい。</p>								



# 地域学入門 (1年アウトドアスポーツ系)

1年生はこれまでに、3回の授業を受けました。  
履正社から講師の方に2回来ていただきとても良い勉強になりました。

DayCampでは、今年一緒に入った仲間たちと、1日活動して仲間の知らなかったことに気づくことができました。

## 履正社医療スポーツ専門学校の講義

### 第1回

#### 活動内容

##### 1、スポーツトレーナーについて(実習)

アスレティックトレーナー・・・スポーツ選手を対象としたトレーナー

「仕事内容」

応急処置

コンディショニング

アスレチックリハビリテーション

チームマネジメント

ライフフィットネストレーナー・・・一般人を対象としたトレーナー



## 2. ピラティス

- ① リブケージアームズ
- ② ロールアップアンドダウン
- ③ ローリングライカーボール
- ④ ASブリッチ
- ⑤ リバースプランク
- ⑥ ワールドグレートストレッチ
- ⑦ スタンディングフットワーク



## 第2回

### 活動内容

#### 1、鍼灸師について(実習)

鍼灸師とは・・・

はりや、お灸を使って筋肉をほぐす人

①はり師・・・鍼灸師の中のはり専門の人。鍼灸師の「鍼」

②灸師・・・鍼灸師の中の灸専門の人。鍼灸師の「灸」

ツボの押し方・・・痛気持ちいいくらいの強さで押す。

腕の痛みにオススメのツボ	肩の痛みにオススメのツボ	膝の痛みにオススメのツボ	腰痛におすすめのツボ
<b>腕横穴(うでわたり)</b> 人差し指と中指の間にある。かかとを肩の高さまで上げ、その間に指を挟むようにする。	<b>肩髃(けんよ)</b> 肩の骨と腕の骨の間にあり、腕を動かすときに痛みを感じる。	<b>膝眼(ひざのまは)</b> 膝の骨と脛の骨の間にあり、膝を動かすときに痛みを感じる。	<b>腰尻(こし)</b> 腰の骨と尻の骨の間にあり、腰を動かすときに痛みを感じる。
<b>手三里(てのすゐり)</b> 手首から肘までの真ん中にある。	<b>肩髃(けんよ)</b> 肩の骨と腕の骨の間にあり、腕を動かすときに痛みを感じる。	<b>血海(けっかい)</b> 膝の骨と脛の骨の間にあり、膝を動かすときに痛みを感じる。	<b>腰尻(こし)</b> 腰の骨と尻の骨の間にあり、腰を動かすときに痛みを感じる。
<b>肘髎(ひじのうら)</b> 肘の骨と腕の骨の間にあり、肘を動かすときに痛みを感じる。	<b>血海(けっかい)</b> 膝の骨と脛の骨の間にあり、膝を動かすときに痛みを感じる。	<b>腰尻(こし)</b> 腰の骨と尻の骨の間にあり、腰を動かすときに痛みを感じる。	<b>三陰交(さんいんこう)</b> 足の内側の真ん中にある。

## 2. スポーツ英語 (ケガ英語)

A broken arm・・・手の骨折

A back strain・・・腰痛

An ankle sprain 足首のケガ

A groin strain・・・太もも辺りにケガ

A pulled hamstring・・・太もも裏のケガ etc.



## DayCamp(デイキャンプ)

### 活動内容

#### ① 仲間づくりプログラム

1 自己紹介・・・アウトドアのメンバーの紹介

2 似顔絵

3 橋渡り



#### ② 野外炊事

ドラフト食材

2班に分かれて作った



#### ③ 沢登り



## まとめ

仲間と協力することでより団結力を向上させることが出来た。  
1人では出来なかった事も仲間の力を使って困難にも挑戦出来た。大自然のなかで活動することで普段しなかった自然の魅力やおもしろさ、新鮮さを感じる事が出来ました。



## 今後の活動予定

履正社医療スポーツ専門学校実習(2回)

11月ラペリング(長楽寺)

スポーツ栄養学

教科名	地域探求	科目名	地域スポーツ I					単位数	1単位
対象・学年	2年アウトドアスポーツ系11名						必修修の別	必修修	
1 仮説・ねらい	<p>①「地域スポーツ I」で香美町、香美町教育委員会、地元アウトドアスポーツ施設経営者などに「自然や暮らし（地域資源）を活用した観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとした活性化方策の提案とその実現に向けた地域との連携を一層深めることで、郷土愛を育む。</p> <p>②香美町で生涯スポーツの国際総合競技大会であるワールドマスターズゲームズ関西オリエンテーリング競技が開催予定である。オリエンテーリング競技を学び、健康増進のための普及活動を行うと共に地域活性につなげる。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③アプレベンション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コディネート力	⑧自己表現力
	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーリング概論 オリエンテーリング体験及び運営手法			オリエンテーリングの意義について学ぶ。 オリエンテーリング競技運営についての手法を学ぶ。				
	2学期	マップ作成 システム操作 オリエンテーリング普及活動			マップ作成の手法について学ぶ。 オリエンテーリングに必要な機材の操作について学ぶ。 村高フォーラムでオリエンテーリング体験コーナーを設置する。				
	3学期	オリエンテーリング企画検討			次年度の普及活動について検討する。 報告書作成。				
3 実施内容	<p>(1) オリエンテーリング基礎</p> <p>①オリエンテーリング基礎講座（概論） 日時：5月26日（水） 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）・井上昌輝氏（香美町教育委員会）・関耕二准教授（鳥取大学）</p> <p>②オリエンテーリング体験 日時：6月23日（水） 会場：宇和野高原 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）・井上昌輝氏（香美町教育委員会）・関耕二准教授（鳥取大学）</p> <p>③オリエンテーリング基礎講座（マップ作成） 日時：7月19日（月） 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）</p> <p>④オリエンテーリング基礎講座（システム操作） 日時：9月27日（月） 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）</p> <p>⑤オリエンテーリングの効果と課題（講義） 日時：1月24日（月） 講師：関耕二氏（鳥取大学准教授）</p> <p>⑥スキーオリエンテーリング体験 日時：1月31日（月）</p> <p>(2) オリエンテーリング普及活動</p> <p>①オリエンテーリング競技会運営手法 日時：8月25日（土） 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）・中村和弘（村岡区公民館） ・村岡区中央公民館の企画である土曜チャレンジ学習参加の小学生と共に、オリエンテーリングを体験しながら運営の手法を学ぶ。</p> <p>②オリエンテーリング体験会リハーサル 日時：10月5日（火） 講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）</p> <p>③体験会 日時：10月9日（土） 村高フォーラム参加の中学生、高校生、学校運営指導委員会及びコンソーシアム関係者に体験会を開催する。</p> <p>④オリエンテーリング普及企画を検討 日時：2月7日（月）・2月14日（月）</p>								
4 生徒感想	<p>今回、兎和野高原に行くのも本格的にオリエンテーリングを体験するのも初めてだったのでとても楽しみにしていました。今回のコースは高低差が約50メートル、距離が約2.5キロメートルのコースでした。スタート直前は自信満々でしたが、スタートしてすぐに一つのポイントがわからなくなってしまったり、地図とコンパスが正しく使えなかったりして、たまに友達の力を借りてしまいました。タイムロスに繋がるようなミスは何回もしてしまいましたが、その分を走力で補おうと必死に走りました。地図とコンパスを上手く使うことができればショートカットなどをすることができましたが、自分はそれほど理解力もなかったのでコース通りにポイントをまわりました。個人的には来年に開催されるワールドマスターズゲームズ関西にスタッフとして参加させてもらえるということで世界中の方々が集まるというのを聞いて、とても楽しみにしています。英語で海外の人とコミュニケーションをとるのは得意ではないですが、実際に海外の人と話して色々な文化に触れることは好きなので来年に海外の方とスムーズに話せるように英語の勉強を頑張りたいです。今回のオリエンテーリングの順位は生徒のなかでは、2位だったので少し悔しかったのですが、楽しく体験できたのでよかったです。兎和野高原のオリエンテーリングは建物やテントなどがたくさんあって、比較的ポイントがわかりやすかったのですが、実際は目印となるようなものがあまりないようなので、うまく地図とコンパスを使えるようになることと、走る体力をもっとつけて、一位を目指せるように頑張ります。</p> <p>今回は、小学生と一緒にオリエンテーリングをしました。高校生が小学生に一人ずつペアになって行きました。先生から出た2つの課題を頭に入れて行きました。その2つ課題は、1つ目は、今後は設置する場所から運営までのすべてを私たちがやらなくてはならないので、この企画の行い方を見て手法を学ぶことです。2つ目は、小学生の知識の引き出しをできるだけ質問して引き出してあげること、この2つの課題です。 精一杯、課題解決に取り組みました。しかし、あまりできなかったことがあります。小学生の引き出しをもっと聞いたらもっと引き出せたんじゃないかと後悔しています。次は、僕たちが運営する側なのでもっと考えながら出来たらいいなと思いました</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③アプレベンション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コディネート力	⑧自己表現力
	2021年1月	3.5	3.8	3.6	3.5	3.5	3.7	3.4	3.6
	2021年4月	3.7	3.7	3.4	3.6	3.6	3.9	3.8	3.6
	2021年10月	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2
6 成果と課題	<p>オリエンテーリングの基礎講座を学び、自分自身が体験したことで、仲間と過ごす楽しさに気づき、リーダー性や協調性を養うことができた。そして、今後の学習につなげるための、小学生とのオリエンテーリング体験において、課題発見能力や表現力などの力を伸ばすことができた。また、地域にオリエンテーリングの見識を深め、微力ながらも普及の一助となったのではないかと。残念なことは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ワールドマスターズゲームズの開催がさらに5年延期が決まったことである。ワールドマスターズゲームズ関西オリエンテーリング競技の開催年に合わせて普及活動を行い、本番当日もスタッフとして参加し、世界中の競技者の方々と触れ合い、地域の方と協力しながらオリエンテーリングを楽しみたい思いで活動してきたが、開催年が伸びたことで気持ちの整理と企画の再調整ををしていかなければならない。しかし、1年間オリエンテーリングを学んだことを無駄にしないためにも、引き続き学校や地域での活動や自分たちの企画を開催し、地域の自然を活用した生涯スポーツとして継続できるように努めていきたい。</p>								

村岡高校2年生 アウトドアスポーツ系  
オリエンテーリング

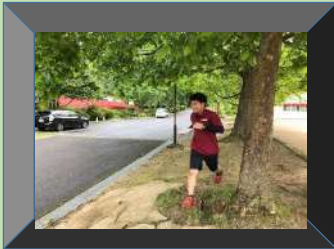
私たち2年生アウトドアスポーツ系は、来年に開催されるワールドマスターズゲームズ関西のスタッフとして参加します。オリエンテーリングを通して健康増進、地域の活性化に取り組んでいます。

**オリエンテーリングとは**

マップとコンパスを頼りにコース上に設置されたチェックポイントを回り、ゴールまでのタイムを競う競技です。

**オリエンテーリングの種類**

- ・フットオリエンテーリング
- ・MTBオリエンテーリング
- ・スキーオリエンテーリング
- ・スコアオリエンテーリング



**オリエンテーリングの歴史**

オリエンテーリングは19世紀頃にスウェーデンで軍隊の訓練として行われたのが始まりです。近代スポーツとしては1901年にストックホルムで競技会が開かれた事がきっかけでヨーロッパ中に広がり、1932年にコンパスが開発されて現在の形になりました。日本では1964年に東京五輪を契機に国民の健康・体力づくりのために徒歩ラリーという形でスタートしました。

**オリエンテーリングで使用する道具**

**コンパス**



**マップ**



**マップの見方**

これはオリエンテーリング専用の地図です。マップの北とコンパスの北を合わせ、行きたい方向にリングを回して矢印を合わせ、その状態を保ったまま進みたい方向に進みます。マップの△からスタートし、○のチェックポイント（フラグ）を順番通りに回り、◎のゴールを目指します。

**コントロール/フラッグ**



**フラグ・コントロール・SIカードについて**

チェックポイント（フラグ）とコントロールはセットになっていてSIカードをコントロールに差し込むことでそのチェックポイントに差し込むことでポイントをクリアしたことになります。

**SIカード**



**活動報告**

2021/6/23



私たちは学習のはじめに宇和野高原でオリエンテーリングを体験しました。自ら体験することで競技の雰囲気やルールを明確に把握することができました。

2021/7/19

マップ作成の講義を受けました。この講義では村岡高校の地図を使って白黒の地図に建物や川、道路など色で区別し、オリエンテーリングに必要な情報を地図に記載する方法を学びました。



2021/8/25



小学生のオリエンテーリングの体験会を、村岡高校で行いました。小学生にも楽しく体験してもらうためにコースの難しいところは高校生が教えながらゴールを目指しました。

これからもオリエンテーリングに関する様々な知識を学び、私たちが競技を企画し、運営を行っていきたい。今後も、オリエンテーリングの普及活動に取り組んでいきます。

**オリエンテーリングの魅力!!!**

**大自然の中で走り回る楽しさ!**

オリエンテーリングは世界各地でそれぞれ違った景色や自然環境で競技を楽しむことができ、その大自然の中を自由自在に走り回るといった解放感を得られます。また、非日常的な感覚を味わうことができます。



**走力と知力のバランス!**

オリエンテーリングはいち早くチェックポイントやゴールにたどり着くための走力とマップを読み取る能力や判断力が必要になってきます。そのため、結果を残すためには走力と知力のバランスが勝利のカギとなってきます。



教科名	地域探求	科目名	地域スポーツⅡ	単位数	1単位				
対象・学年	3年アウトドアスポーツ系17名			必修の別	必修				
1 仮説・ねらい	<p>①「安心して暮らせるまちづくり」を目指し、「健康づくりと地域活性」をテーマとした探究活動を行いながら、新たな価値を発見する能力や自己表現力を養う。</p> <p>②高齢者の健康づくりをテーマに、香美町がすすめている「元気体操サークル」の普及に取り組む。また、身体機能改善状況を分析し、元気体操～南中ソーラン編～の創作活動を行う。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コネクト力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	元気体操作成			元気体操動作分析 冊子構成 DVD試作品作成				
	2学期	元気体操普及活動			指導者講習会開催 地区訪問指導				
	3学期	元気体操冊子製本・DVD作成			動画撮影・動画編集 冊子添削・製本				
3 実施内容	<p>(1) 元気体操作成・動作分析</p> <p>①元気体操動作分析 日時：6月2日（水） ・元気体操の作成にあたり、香美町福祉課より改良点を指摘いただき、体操内容を変更する。 講師：鳥取大学 関耕二氏（准教授） 香美町職員 大西珠代氏（福祉課）</p> <p>②元気体操冊子構成 日時：6月16日（水）・7月27日（火） ・高齢者の機能を考慮しながら、元気体操の動作を分析し、対象筋肉や効果、注意点をまとめ、冊子を構成していく。 講師：鳥取大学 関耕二氏（准教授）</p> <p>③元気体操DVD試作品作成 ・代表者3名を選出し、元気体操DVD（試作品）の動画撮影を行う。</p> <p>(2) 元気体操普及活動</p> <p>①指導者講習会を実施。 日時：8月19日（木） 会場：村岡区老人福祉センター ・地域の指導員の方を対象に村高元気体操講習会を実施する。</p> <p>②西本町・板仕野地区にて村高元気体操講習会を実施。 日時：8月24日（火） 会場：各地区集会所 ・元気体操サークル参加の高齢者を対象に講習会を実施する。</p> <p>③小代地区にて村高元気体操講習会を実施。 日時：11月18日（木） 会場：いこいの里 ・香美町老人クラブ連合会女性部研修会にて村高元気体操講習会を実施する。</p> <p>(3) 元気体操冊子製本およびDVD作成</p> <p>①元気体操冊子の製本 日時：1月20日（木） ・テキストの文章表記を添削し、写真の最終確認を行う。</p> <p>②元気体操DVD作成 ・動画撮影 日時：1月20日（木） 会場：小代地域局（久保井講堂にて撮影） 社会福祉協議会の方も視聴 ・動画編集作業</p>								
4 生徒感想	<p>公民館などに出向いて村高元気体操を広める活動をするのは今回で3回目でした。そのためどういった伝え方をしたら、高齢者の方にわかってもらいやすいのかをわかっているつもりでした。しかし、今回のいこいの里での活動は高齢者の方の人数が多く、1人で3、4人の方に教えなければいけないという状況でした。今まで1、2人の方に向けて教えてきたので、1人1人に対する説明が少なくなってしまうため、高齢者の方からするとわかりにくかったかもしれない。というところが反省点であり少し悔いが残る部分でした。そのためやはり冊子作成の重要性というものを大きく感じました。もう1つ感じたのは完成度の高いDVDを完成させる必要性です。今の仮ver.だと動きにずれがあったりして、わかりにくいので動きを揃えて見やすい編集をすることで高齢者の方に対して高校生の人数が少ない場合でも伝わりやすいと思います。そしてDVDの音声と説明する人のマイクのボリューム調整も改善点であると感じました。この元気体操に関わる活動を通して、高齢者の方が健康を維持し、元気を保つことに大きな意味があることを感じました。村岡高校では地域資源を活用する活動していますが、人という資源が元気でいることが地域の活性化にも繋がっていくと思えました。次回は今回の改善点を活かし、冊子であったりDVDを完成させて行きたいです。</p> <p>香美町においても少子高齢化が進み、2045年には高齢化率が50%を超えると予想されています。このような状況下で高齢者を中心にスポーツを通して健康づくりを行い、香美町在住の多くの住民が元気になり、地域が活性化していくことを目指し、香美町と協働で取り組みを進めてきました。私たちは、高齢者のための元気体操の改善や体力測定の結果を分析し、誰が行っても楽しく飽きない体操、座ったままでもできる「元気体操 南中ソーランバージョン」を鳥取大学地域学部 関耕二准教授の指導のもと創作し、香美町福祉課と普及活動を行ってきました。この活動を通して、高齢者だけではなく多くの住民が元気になってほしいと願っています。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コネクト力	⑧自己表現力
	2021年1月	3.3	3.5	3.0	3.5	3.3	3.0	3.1	3.4
	2021年4月	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5	3.8	3.3	3.5
	2021年10月	3.5	3.7	3.8	3.6	3.5	3.9	3.5	3.2
6 成果と課題	<p>香美町福祉課の職員や鳥取大学の関先生の改善点等のアドバイスいただきながら、メンバーで意見を出し合い、創作活動を経るに当たって村高元気体操～南中ソーラン編～は昨年度のものからさらに洗練されていった。香美町は、多くのスポーツイベントがあることから、健康や体力に関心の高い地域であり、また香美町における健康づくりの活動は、これまで多方面で行われてきた。今回、考案した「村高元気体操」は、高齢者を対象とした体操であり、座位のバージョンで声を出しながら、みんなで楽しく実施できるものができあがった。コロナ禍で、思い通りの活動ができませんでしたが、身体活動を通じた体力や健康の維持・向上は益々、重要な課題になっている中、今回作成した体操によって、ただ身体を動かす身体活動や身体機能を維持・向上するのではなく、多くの地域の皆さんと一緒に体操を行い、楽しい時間を共有することで、活力ある地域への一助になったと思われる。作成したDVDとテキストを使用し、次の学年に引継ぎ、普及活動をさらに進めていくことで、地域住民がより健康に生活できる地域づくりに繋げていって欲しいと願う。また、この「村高元気体操」をさらに改良し、より効果的な体操にしていただきたいと思います。</p>								



### 3年アウトドアスポーツ系

#### 地域スポーツⅡ

#### 地域づくり×人づくり

#### ～若者と地域を造る～

##### 【趣旨】

香美町においても少子高齢化が進み、2045年には少子高齢化率が50%を超えると予想されている(2015年では 36.7%)このような状況下で高齢者を中心にスポーツを通して健康づくりを行い、香美町在住の多くの住民が元気になり、地域が活性化していくことを目指し、香美町と協働で取り組みを進める。

##### 【活動内容】

- 2月 1日 オリジナル元気体操試行錯誤中
- 2月 9日 オリジナル元気体操試行錯誤中
- 7月 12日 元気体操写真撮影
- 8月 19日 老人福祉センターにて高齢者元気体操指導者講習会を実施
- 8月 24日 西本町と板仕野の公民館に分かれて元気体操を指導

##### 【今後の予定】

- 町内各地区元気体操サークルに配布するDVDと冊子を作る
- 小代区公民館にて元気体操講習会
- 高齢者の方たちにより良い老後生活を送ってもらう為に香美町や社協に提言する



### 地域に向いて座ったまま出来る元気体操



2021年2月1日  
社会福祉協議会の方々と協力しオリジナル元気体操を考案しました。元気体操は主に南中ソーランを参考に考案しました。



どのように体を動かしたらどこに効くのかどのような効果があるのかを考案一人一人が丁寧に考案しました。

2021年7月12日

今回の目的は私たちが地域に向いて、オリジナル元気体操を広めるために指導する事です。高齢者の気持ちになり一人一人が一所懸命体操を考案しました。高齢者の方は激しい動きが難しいため動きの回数を減らしたり一つの動作をゆっくりにしました。



これは福祉センターで教える時の様子です。

2021年8月19日

高齢者の隣で、個別指導を行った。スクリーンに動画を写し、動きを一つ一つ確認し元気体操をしました。高齢者にとっての難しい動きなどが確認できました。



これは西本町にて体操をしに行った時の写真です。

### 実際に施設に出向き実践した内容

- ・高齢者の方に南中ソーランを指導
- ・一人一人前に出てポイントを伝えた
- ・マンツーマンで高齢者とコミュニケーション



(個人で教えている様子)



(ポイントを教えている様子)



(ソーランの映像を見ている)



(前に出て司会をしている)

実際に高齢者の方に伝えるのは難しくポイントなどを伝える際も大変な部分もあったがしっかりと伝えることができた。「地域づくり×人づくり」という今年のテーマに沿った活動がしっかりとできたと思います。



個人でアドバイス



生徒が楽しんでいる姿



前に出てポイントを伝える



特殊な動きを教える

### ～これからの活動～

- ・指導用DVDの作成・講習会の開催
- ・作成したDVDの配布
- ・町への提言、普及、活動など

### まとめ

1年生の時から、学んで来た南中ソーランを自分達で高齢者向けに改良し、できた振り付けの効果なども1人1人調べ老人ホームや公民館に招き指導と一緒に踊ってもらう等をして頂き反省やアドバイス等を頂き改良した上で何度も指導会に招く事により生徒だけでなく老人の方へ向けてもより良心的な体操を作る事に成功しました。何度も指導に行く事で体操だけではなくコミュニケーション等の世間話をする事によっても認知症予防効果が有ったりするなど体操の面だけでなく、それ以外にも私たちは得たものが有ったと思いました。



教科名	総合的な探求の時間 (協働のまちづくり)		科目名	民芸班			単位数	1単位	
対象・学年	1, 2, 3年生						必修修の別	選択	
1 仮説・ねらい	南中ソーランを地域のイベントで披露することで、地域の方々と交流を深め地域を活性化していく。また、地域の方々(特に高齢者)でも一緒に踊れる南中ソーランの開発を行うことでさらなる地域の活性化を目指す。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			新入生への指導				
		班別活動②			南中ソーランの全体練習				
	2学期	班別活動③			木遣り太鼓の練習(3年生)/南中ソーランの練習(1, 2年生)				
		班別活動④			木遣り太鼓の練習(3年生)/南中ソーランの練習(1, 2年生)				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別活動⑤			木遣り太鼓の練習(全員)				
		班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
	総合的な探究の時間発表会			ステージ発表					
3 実施内容	<p>班別活動① 新入生への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生と3年生による南中ソーランの披露</li> <li>・6人程度のグループに分かれ、1年生への南中ソーランの指導</li> </ul> <p>班別活動② 南中ソーランの全体練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を用いた踊りの改善</li> <li>・グループ毎の個別練習</li> <li>・全体練習</li> </ul> <p>班別活動③ 木遣り太鼓の練習(3年生)/南中ソーランの練習(1, 2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生による木遣り太鼓の練習</li> <li>・南中ソーランの練習(1, 2年生)</li> </ul> <p>班別活動④ 木遣り太鼓の練習(3年生)/南中ソーランの練習(1, 2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生による木遣り太鼓の練習</li> <li>・南中ソーランの練習(1, 2年生)</li> </ul> <p>班別活動⑤ 木遣り太鼓の練習(全員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6人程度のグループに分かれ、1, 2年生へ木遣り太鼓の指導</li> </ul>								
4 生徒感想	<p>・木遣り太鼓の練習は苦戦しつつも充実したものでした。昨年の動画を見ながら動きやリズムを覚えましたが、動画だとやや覚えにくかったです。しかし、先生方に指導してもらい自主練習も行うことで本番での成功に結びつけることができました。終わった後は達成感を味わうことができました。(3年生)</p> <p>・今年は女子も木遣り太鼓に挑戦するという例年にはない新しい挑戦ができました。短い時間の中でたくさんの練習をしたため、手の皮がむけるなど痛々しい場面はありましたが、練習に打ち込むことができました。その結果、後悔なく終われたので達成感で一杯です。(3年生)</p> <p>・昨年と今年の動画を見返してそれぞれの踊りを比較してみました。すると、1年生のときは体力の無さや踊りの表現力の無さに気づきました。でも2年生の踊りを見てみると最後まで踊り切れる体力もつき、細かい部分まで意識して踊れるようになっていました。目の前の課題をクリアすることで自分がステップアップできることをソーラン節を通して学びました。(2年生)</p> <p>・最初の頃は踊りの振り付けを覚えることに苦戦しており、自信がなかったため動きがぎこちなかったと思います。しかし、練習を重ねて改善していくことで少しずつ余裕が生まれ、他のことにも余裕をもって取り組めるようになりました。来年もまだまだ続いていくので頑張っていきます。(1年生)</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.7	3.8	3.5	3.5	3.6	3.8	3.6	3.8
	2021年10月	3.7	3.9	3.8	3.7	3.7	4	3.7	3.5
6 成果と課題	<p>今年もコロナ禍により、地域の方々の前で南中ソーランを披露する機会がほとんどなかった。披露できたのは第1回オープンハイスクールと村高祭、村高フォーラムの3回だけであった。そんな状況ではあったが、2・3年生は各自がよりよい踊りができるように練習を重ねるとともに、南中ソーランを1年生に指導することは例年通り行った。また今年初の試みとして、3年生男子だけでなく女子による木遣り太鼓の披露も行った。班別活動④では来年度以降に向けて、1, 2年生も木遣り太鼓の練習を行った。</p> <p>課題としては、「南中ソーランの細かい動きを上手に踊れるようになる」「声量をあげる」「木遣り太鼓の練習を重ねる」といったことが挙げられた。</p>								

# ～民芸班～

私たちは、村岡高校で「地域元気化プロジェクト」の一環として、男女バレーボール部とスキー部の部員を軸に活動しています。主に学校行事のオープニングや地域行事に出演し、南中ソーランと木遣り太鼓を披露します。

## ・南中ソーラン

民謡歌手の伊藤多喜雄が北海道の民謡であるソーラン節をアップテンポにアレンジした曲を用いた踊りの通称名です。稚内市の南中学校の教師と生徒が考案したことが名前の由来です。アレンジされ、派生したパターンも含め、国内の学校の運動会や体育祭等で広く踊られることでも知られています。



男子南中ソーラン

## ・木遣り太鼓

伊豆諸島の一つである三宅島で育まれてきた太鼓です。三宅島のどかな島ですが、地殻の変動が地震を引き起こし、マグマの活動は地鳴りの噴火となり、その強大なエネルギーは非常に厳しさを人々を圧倒します。このように穏やかさと厳しさの両面を持った島の中で育れてきたのが、「木遣り太鼓」です。



男子木遣り太鼓



女子南中ソーラン



練習風景

## 仮説 南中ソーランを通して地域活性化を目指す

- ①完成度を上げる
- ②高齢者の方とも一緒に踊る
- ③女子も木遣り太鼓を披露する

## 活動内容

本来であれば、村岡ダブルフルウルトラランニングやみかた残酷マラソンといったイベントで地域の方々に披露する予定でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症のためオープンハイスクールと村高祭、村高フォーラムでの披露となりました。私たちは学校内での総合的な探究の時間を利用し南中ソーランや木遣り太鼓の練習をしています。新型コロナウイルス感染症の影響で披露できる場は少ないですが、その数少ない場で全力を出せるように工夫して練習しています。

### ①完成度を上げる

全員で自分達の踊りを映像で確認し、反省点・改善点を出し合いそれを意識して練習したり、二人一組になり、踊っている姿をもう一人が動画を撮りお互いに改善点を言い合っって一人一人がレベルアップを目指しています。



二人一組で練習している様子

### ②高齢者の方とも一緒に踊る

具体的には、昨年、先輩方によって作っていただいた「座って踊れる南中ソーラン」の練習をしました。

### ③女子も木遣り太鼓を披露する

3年生による木遣り太鼓では、放課後の時間を使って練習しました。最初は、全員が初心者だったため、何度も練習を重ねました。今年は、女子の演舞でも木遣り太鼓を披露しました。



木遣り太鼓練習の様子



高齢者バージョンの演舞

## ①オープンハイスクール

オープンハイスクールに来てくれた中学生、保護者の方に南中ソーランを披露しました。このときは、男女混合で披露しました。男子の力強い踊りと女子のしなやかな踊りが合わさってまた一味違う演舞となりました。



オープンハイスクールの様子

## ②村高祭一日目

私たち民芸班はオープニングで南中ソーランを披露しました。一日目は男子全員で披露し、村高祭のスタートを盛り上げています。見どころは、なんと言っても男ながらの力強い演舞と太鼓です。男子は大人数なので声も音も大きく迫力があり、思わず魅入ってしまいました！



村高祭リハーサルの様子

## ③村高祭二日目

二日目は女子全員がオープニングで南中ソーランを披露しました。女子の南中ソーランは男子の南中ソーランとはまた違うしなやかで軽やかな、それでいて力強い演舞です。もちろん木遣り太鼓も女子全員で全力で行います。女子は今年初めて木遣り太鼓に挑戦しました。女子だけの演舞が見られるのはここだけなので見る価値は大いにあります。



木遣り太鼓(女子)

## まとめ・今後の展望

新型コロナウイルス感染症が終息したときに様々なイベントで披露し、地域の方々に元気になって欲しいと考えみんなで意見を出し合いました。そして、スマートフォンなどを使ってお互いに動画を撮り合ったりして一つの演技に課題を見つけ改善し、地域の方々に笑顔と元気を届けるため一生懸命練習しています。その結果、昨年に比べ完成度の高い演技になりました。そして、昨年度作成した高齢者向けの椅子に座ったバージョンは新型コロナウイルス感染症のため高齢者の方々と一緒に踊ることができませんでした。来年度こそは一緒に踊るために今から更に完成度を高めていきたいと思います。今後も民謡集団蘇武一丸となって頑張ります。



村高祭リハーサル

## 人みな使命あり



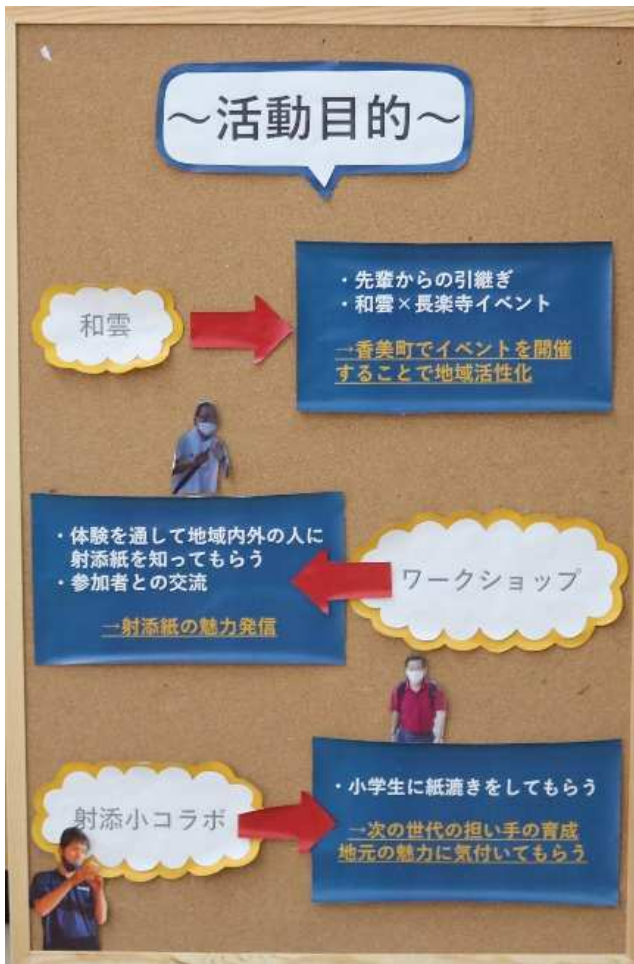
練習の様子



スマートフォンを使った練習の様子

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)		科目名	紙漉き班				単位数	1単位
対象・学年	2,3年生							必履修の別	必履修
1 仮説・ねらい	<p>自らが紙漉きを体験しその技術を高めていくことで、紙漉き体験企画を通じて地域内の人間を巻き込み新たな交流を生み出すことと主な目的として活動を展開する。 また、地元の小学生との紙漉き体験の交流を通じて紙漉き技術を次世代へと繋げ、未来への架け橋となる効果も期待する。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション 班別活動① 班別活動② 班別活動③ 班別活動④			概要説明・班編成 「カミドコロながす」にて2年生の紙漉き体験 仮説・昨年度の振り返り・今年度の活動計画立案 射添小5年生の児童との紙漉き体験 近くの商店へのポストカード配布				
	2学期	班別活動⑤ 村高フォーラム			ステージ発表の討議 ステージ発表・ポスター作成				
	3学期	班別討議 活動報告書作成 総合的な探究の時間発表会			検証・改善 個人レポート作成・活動報告書作成 ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① ・元地域おこし協力隊員である本田秋香さんと新3年生の指導のもと、新2年生の紙漉き体験を行い、地元小学生への体験指導を行うときのシュミレーションを行った。</p> <p>班別活動② ・昨年は新型コロナウイルスの影響もあり、紙漉き体験イベントにあまり人が集まらなかった。紙漉きの活動を知ってもらうためにこれまでのSNSでの発信方法に加え、作成したポストカードを近隣商店に置かせてもらう形で自分たちの活動を知ってもらい、イベントへの集客を目指す方向に決まった。</p> <p>班別活動③ ・射添小学校5年生の児童との紙漉き体験を2・3年生の指導のもと行った。</p> <p>班別活動④ ・紙漉き班が考案した水に浮かぶ「和雲」を全面に出したポストカードと、紙漉き班の活動を知らせるポスターを近隣の施設に置いてもらうために自分たちでアポイントを取り、配布のお願いに出向いた。</p> <p>班別活動⑤ ・本年度の活動を振り返り、自分たちの活動の何を伝えたいのか、うまくいった点・うまくいかなかった点を話しあい、発表の内容を厳選した。</p>								
4 生徒感想	<p>・大変なことも多いが、とても楽しい活動であった。今年の反省を踏まえて、多くの人に紙漉き体験を通じて、紙漉きのことを知ってもらい、好きになったもらうために、みんなで協力して頑張っていきたい。</p> <p>・紙漉き班に入ってから紙漉きに対する価値化が活動を通じて変わり、紙漉きの魅力もたくさん発見することができた。紙漉き体験を通じて、紙漉き体験が人と人との距離を縮め、楽しく交流できることに繋がっていると体で感じる事ができた。</p> <p>・紙漉き班の活動を通して、人それぞれで感じる気持や安らぎを共有することのうれしさなどを感じる事ができ、また、紙漉き体験でみんなが自然に笑顔になっていて、このような暖かい気持ちになれるのは地域の方と直接交流できているからだと深く感じた。</p> <p>・紙漉き班で活動してきて、人と繋がったり、話したり、一緒に何かすることはこんなに楽しいんだということを実感した。ポストカードを使った宣伝では見つけてくれた人が報告してくれ、紙漉きに興味を持っていてくれるところを見ると嬉しかった。</p> <p>・小学生の意欲や気持を活かすには、自分も意欲をもって取り組むこと、自分から進んで取り組もうとすることが何よりも大切だと感じた。里山meets#02では、オンライン配信を見てくれた方もいて嬉しく感じるとともに、この活動は人と人との繋がりが生まれ、自分たちもその場を作り上げているということが一番のやりがいになっていると感じた。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.8	3.6	4.1	3.5	3.9	4.1	4.1	3.7
	2021年10月	4	4.1	4.5	3.9	4.1	4.6	4.4	4.2
6 成果と課題	<p>昨年度企画した「里山meets」(⑧八幡山公園)は新型コロナウイルスの影響もあり、身近な人しか集まらず企画の告知方法に課題を残した。その反省を踏まえ、SNSに加えポストカードを利用した告知をした上で「里山meets#02」(⑧長楽寺)を企画したが、緊急事態宣言中であったため、ライトアップのオンライン配信のみを行った。</p> <p>次の「里山meets#03」(⑧うづかの森)では、告知方法を変えた成果もあり10数名の方がイベントに参加してくれた。参加者のみなさんはほとんどの方が初対面であったにもかかわらず、紙漉き体験を通じて自然と笑顔になり交流を深めていったことが印象的であった。</p> <p>商品を売るのではなく、紙漉き体験を通じての新たな交流の機会を設けることをコンセプトに活動しているため、対面での活動が主となってくる。そのため、対面での活動が難しいときのオンラインでの体験活動などを模索していく必要がある。</p>								





教科名	総合的な探求の時間 (協働のまちづくり)		科目名	吹奏楽班				単位数	1単位		
対象・学年	1, 2, 3年生							必修の別	選択		
1 仮説・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を通して地域の方との交流を大切にする。</li> <li>地域になくはない吹奏楽団を目指す。</li> <li>演奏者も聞いている方も楽しめる演奏を目指す。</li> </ul>										
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力		
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎		
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容						
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成						
		班別討議			仮説・計画立案						
		班別活動①			基礎合奏						
		班別活動②			合奏練習①						
	2学期	班別活動③			合奏練習②						
		班別活動④			合奏練習③						
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表						
	3学期	班別活動⑤			アンサンブル練習						
		班別討議			検証・改善						
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成						
総合的な探究の時間発表会			ステージ発表								
3 実施内容	<p>班別活動① 新入生を迎えて、3学年そろっての基礎練習・基礎合奏を行った。</p> <p>班別活動② 新型コロナウイルスの感染拡大により、なかなか地域で演奏をする機会が得られなかったが、秋頃の演奏活動再開を想定して選曲、練習を行った。</p> <p>班別活動③ 全体での基礎練習・曲合奏を行った。フォーラムへ向けての練習も行った。</p> <p>班別活動④ 曲練習を行うと同時に、今年度のような特殊な状況の中でできる音楽活動について考えた。</p> <p>班別活動⑤ アンサンブル練習を行うと同時に、出石特別支援学校みかた校との交流会の実施方法について考えた。</p>										
	4 生徒感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだまだ自分たちは、演奏する技術や、相手に曲を届けることが未熟で、反省しないといけないと思いました。</li> <li>中学校の先生からの話では、中学生が私たちの演奏を聴いて高校生はやっぱりすごいと言っていたと聞いて、とてもうれしかったです。</li> <li>今年も村高生だけの村高祭となりましたが、元気のある演奏で会場を盛り上げることができて良かったです。</li> <li>私は3年間を通してこの町の大切さや、元気を再確認しました。</li> <li>コロナ禍があるからこそ、より自分たちがレベルアップしようとする気持ちが高まったり、お互いに音を聞きあって地域の方々がいい演奏を聴いてもらおうと自分たちで頑張ってきたと思います。</li> <li>来年は今年中止になったイベントが開催されるかも知れないので皆でモチベーションを上げて頑張りたいです。</li> </ul>									
		5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
			2021年4月	3.6	3.9	3.5	3.4	3.4	3.7	3.6	3.4
			2021年10月	3.8	3.9	3.9	3.7	3.6	3.9	3.8	3.6
6 成果と課題		<p>今年度は、コンクール等は予定通り開催されたが、通常の演奏会、依頼演奏等は昨年度よりもさらに厳しい状況だった。マラソン大会の応援演奏等も無くなり、自分本位でない「聞き手の事を考えた演奏」の実践が難しかった。</p> <p>しかし、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストなどで大勢の人に自分たちの演奏を聞いてもらったり、文化祭や、村高フォーラムなど少ないながらも演奏機会を得たことで、自分たちの演奏で「聞き手に喜んでもらえること」を実感できたと思われる。</p> <p>また、昨年は開催できなかった出石特別支援学校みかた校との交流会は、今年も実際に行き来することはできなかったが、お互いの活動の映像を送りあう、という形で交流することができた。コロナ禍の中での新しい演奏の形が実践できた例である。</p>									



# 吹奏楽団

## 吹奏楽団の目的

- 音楽を通して地域の方々との交流を大切にする
- 地域になくてもはならない吹奏楽団を目指す

### 反省点

- 練習不足 (取り決めの遅さ)
- 個人、団体の技術の向上
- 早めに計画し、行動する
- 基礎練習、基礎合奏の徹底

～今年の目標～

バランス良く、自分たちに合った練習予定を立て、  
余裕をもって演奏する！

## 今後の活動内容(予定)

活動	活動
10月	村高フォーラム
12月	アンサンブルコンテスト但馬地区大会
2月	ホワイトコンサート
3月	湯舟川コンサート
4月	入学式演奏、新入生歓迎演奏
6月	みかた琵琶マラソン、但馬吹奏楽祭
7月	吹奏楽コンクール但馬地区大会
8月	オープンハイスクール演奏
9月	村高祭演奏、但馬高校音楽連盟合同発表会、 村岡ダブルフルワルトランニング演奏

## これまでの活動の様子

このボードには、吹奏楽団の過去の活動の様子を捉えた写真が複数貼られています。写真には、ステージ上で演奏している様子、楽器を演奏している様子、そして観客と交流している様子などが写っています。写真の周りには、音符や楽器のイラストが貼られています。

## コロナ禍での活動

《出張演奏をするために必要なもの》

- 1 人前で吹くことに自信をつける  
→ 部内ソロコンサートや最小編成での合奏
- 2 企画力を身につける  
→ 普段から曲想を考えて一人一人がアイデアのストックを持っておく

## 今後の吹奏楽団

1日のスケジュール(平日)

個人(基礎)	合奏(基礎)	個人(曲練)	合奏(基礎)
30分	15分	45分	30分

【基礎練習メニュー】

- マウスピースでのタンギング
- ロングトーン
- スケール
- リップスラー
- タンギング(楽器ついで)
- ハーモニー練習
- アルペジオ
- パッセージ
- インターバル
- etc...

## 今後、コロナが収まってから

### 目的

吹奏楽の楽しさを知ってもらう

- 1 小代中学校  
企画 ・楽器紹介、楽器体験  
・イントロクイズ etc...
- 2 出石特別支援学校みかた校  
企画 ・参加型の演奏  
…手作りの小物楽器をプレゼント  
・流行りのポップス、定番曲の演奏
- 3 老人ホーム  
企画 ・演歌、昭和歌謡曲の演奏  
・参加型の演奏  
…手作りの小物楽器をプレゼント

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	食文化班					単位数	1 単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必履修の別	選択	
1 仮説・ねらい	地域食材を活用し、高校生目線でレシピを考案し、コロナ対策を徹底しながら情報発信を心掛け、地域活性化につながるようみんなで熱く取り組んでいく								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			コンクール応募作品考案				
		班別活動②			コンクール応募作品試作(調理)				
	2学期	班別活動③			地元料理研究家木谷先生の料理教室				
		班別活動④			但馬五国特産品マップ作り、活動のまとめ				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
総合的な探究の時間発表会			ステージ発表						
3 実施内容	班別活動① コンクール応募作品考案 ・「うまいもん甲子園」に応募するため、班ごとに地元食材を利用したレシピを考案								
	班別活動② コンクール応募作品試作(調理) ・班ごとに決めたレシピをもとに試作し、応募のための写真や書類も完成させた								
	班別活動③ 地元料理研究家の木谷先生による料理教室 ・但馬地域の食材を利用した調理実習～海の幸と山の幸～ ・木谷先生による調理実習(ハタハタ、アジ、ジャガイモ、シーチキン等を使った料理)								
	班別活動④ 但馬五国特産品マップ作り ・但馬5地域それぞれの特産品をわかりやすく伝えるため、地域ごとの特産品のイラストをグループで作成し、特産品マップを作成した ・今までの活動のまとめ								
4 生徒感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木谷先生による実習が楽しく、また地元食材を知るきっかけになりとてもよかった。</li> <li>・地元食材をわかりやすく伝えるきっかけとして特産品マップの作成は良かった。ただ、コロナ禍のため、外部との交流が制限されて見してもらった機会がなかったのは残念であった。</li> <li>・普段調理しない魚を自ら調理することで、地元の食材の魅力と調理方法を学べた。</li> <li>・うまいもん甲子園コンクール応募への取り組みで、班ごとに協力して計画を立て試作品を作ることができた。</li> <li>・コロナ禍で回数が少なく、活動としてはあまり活発にできなかったが、できることを見つけて活動に繋げることができた。</li> <li>・地域の食材を使って料理＝地産地消できた。このことから、地域活性化に努めようと頑張れたが、発信につながるものが少なかった。</li> <li>・コンクールに出品するレシピ考案と試作調理の時、3年生の先輩方の前で緊張することもありましたがアドバイスや助言をもらえる良い時間でした。</li> <li>・活動を通して、食文化班の目的、地元の食材を研究したうえで商品開発に取り組むという目的の達成へ近づけたと思う。</li> </ul>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.6	3.7	3.3	3.3	3.3	3.7	3.5	3.3
	2021年10月	3.9	3.9	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.6
6 成果と課題	コンクールへの応募により、地元食材を使った独創的な作品を考案し調理することができた。ただ、試作後のレシピ改善の機会を作るなど、もっと時間をかけるべきであった。木谷先生の料理教室は恒例になっており、生徒が楽しみにしている活動の一つである。今後も継続できたらと考えている。但馬五国マップは地元の食材を幅広く知るきっかけになったが、展示する機会がなく作成しただけという結果になった。普段作る機会のない美方大納言を使ったスイーツやヒキジケキ作りは生徒の調理への興味を高めることができた。全活動を異学年で取り組むことで、責任感や協調性が養われ、食文化以外の学びも得ることができたように思う。コロナ禍ということもあり、地域との交流がほぼない状態で、活動内容や成果を発信する機会がなかったのが残念であった。今後は、インターネットを通したリモートでの発信を実現化し、地元の食文化の魅力や活動内容を伝えていく工夫をしていく必要がある。								



## 食文化班の活動

(目的)

地域食材を活用し高校生目線でレシピを考案し、コロナ対策を徹底しながら情報発信を心がけ、地域活性化につながるようみんなで熱く取り組んでいく。

(今年の目標)

ご当地！絶品うまいもん甲子園に応募

- ① 地元の食材を使って地域活性化に取り組む
- ② 身近な食材、地元の食材を知る
- ③ 身近な地元の食材を用いたレシピを考案する



ご当地！絶品

## うまいもん甲子園

今年は、例年のコンクールではなく、うまいもん甲子園に応募しました。4つのグループに分かれて、それぞれが地元の食材を活かした作品を作り上げました。作品は以下の4つです。

タコス



サンドイッチ



焼きそば



タコライス



美方大納言を使ったスイーツ作り

美方郡の名産物である美方大納言を使ったスイーツを2種類作りしました。



## 但馬地域の食材を活かした調理実習

但馬地域の食材を活かした料理を作るということで、講師に木谷先生を招いて調理実習を行いました。

《メニュー》

- イワシのフライ
  - 鮭とキャベツの炒め物
  - シーチキンを使ったコロッケ
  - ハタハタの南蛮漬け
- の計4品をつくりました。



今後とも、但馬地域の食材を活かしたメニューを高校生の視点から考えていこうと思います。また、地域との繋がりを大切にして活動していきたいと思いました。

## 【活動の振り返り】

1:ご当地！絶品うまいもん甲子園

2:美方大納言を使ったスイーツ作り

3:木谷先生の料理教室

## 【今後に向けて】

1:コンクールなどを通して但馬の食材の魅力を発信する

2:地元の食材を普段の料理に積極的に使用する

3:全国高校生料理コンクールに積極的に応募する



教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	環境A班	単位数	1 単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必修の別	選択				
1 仮説・ねらい	1. 棚田保全を通して、より美味しく安全なお米を提供するとともに、棚田の価値と地域経済を向上させる。 2. 棚田の持つ地滑り防止機能を学ぶ。 3. 美味しいお米を生産できる土壌を探る。								
地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力	
	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
1 学期	オリエンテーション				概要説明・班編成				
	班別討議				仮説・計画立案				
	班別活動①				田植え活動				
	班別活動②				地すべり防止講義				
	班別活動③				草取り ワークショップ				
	2 学期	班別活動④				水田土壌講義			
		班別活動⑤				棚田稲刈り実習			
		班別活動⑥				水田土壌調査			
		村高フォーラム				ステージ発表・ポスター発表			
	3 学期	班別討議				検証・改善			
		活動報告書作成				個人レポート作成・活動報告書作成			
		総合的な探究の時間発表会				ステージ発表			
3 実施内容	班別活動① 田植え 講師：小林 良斉 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田） ・うへ山の棚田での田植え活動  班別活動② 地滑り防止講義 講師：松岡 晃治氏（豊岡土地改良センター農村計画課） ・地すべりのメカニズムと棚田が持つ地すべり防止機能について ・日頃から適切に棚田を管理することで、地すべりを防ぐことにつながる  班別活動③ 草取り、ワークショップ 講師：小林 良斉 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田） ・棚田1面分の除草を実施 ・SNSを活用した棚田保全PR  班別活動④ 水田土壌講義 講師：山本 定博 教授（鳥取大学農学部） ・米作りに最適な土壌とは？ ・土の色・匂い・感触から判断する  班別活動⑤ 稲刈り 講師：小林 良斉 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田） ・棚田半面分の稲刈りを実施 ・稲をある程度まとめて束にする ・束にした稲を稲架に掛け、天日乾燥させる  班別活動⑥ 水田土壌調査 講師：山本 定博 教授（鳥取大学農学部） ・村岡区の田んぼにて、土壌調査を行った。 ・土壌状態を分析する方法について、実践的に学んだ								
4 生徒感想	・手で植えたので、田植えの大変さを感じました。今の時代は機械でできるので、とても便利に田植えができていたと思いました。棚田を管理している方から、水の管理や日当たりが米作りには大切だというお話を聞きました。自分たちの植えた稲がしっかり育つための条件を学習できて、とても勉強になりました。  ・ワークショップでは、棚田の良さを発信し、後継者や興味をもってくれる人を集める方法を考えました。来てくれる人が喜んでもらえることを高校生たちで考えたので、自分たちのアイデアが出て面白かったです。また、人をひきつけるユニークなキャッチコピーが出てきました。さらに、色々な視点から考えた後に、深く掘り下げられたので、発信するために必要なことが分かりました。  ・春から育てていた稲を刈る時期がやって来て、夏も元気に育っていたことを感じました。1つの植物を育てるのにものすごく手間がかかっているのだと思えて、食に感謝したいと思いました。稲刈りは力仕事ですごく大変でした。多くの束にしてから結ぶので、素早く、丁寧に仕上げるのは難しかったです。頑張って刈った稲たちがとてもたくさんで、すごく達成感が湧き、うれしかったです。  ・土壌調査では、自分達が育てた稲がどのような土で育ったのか、その土に合う条件は何なのかということ学びました。粘土の色が変わっているところもよく分かりました。土が稲の根を張るために必要だったり、酸素や水を吸収するための大切な条件になっていることに気づけました。稲でも何でも、基盤があるからこそ、良いものが育っていくのだと感じました。								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3
	2021年10月	3.8	3.6	3.6	3.8	3.6	3.9	3.8	4
6 成果と課題	生徒たちは田植え、草取り、稲刈り、そして土壌調査等を通して、棚田保全活動の意義を実践的に学ぶことができた。それらの学びから、仲間と協力しながら、問題解決にチームとして立ち向かう姿勢を育むことができたことも、成果としてあげられる。また、昨年の課題であった、SNSを活用した棚田保全のPR活動について議論することができた。高校生の視点から考えられたフレッシュな意見が出たこともあり、行動に移していく糸口が見つかったと考えられる。 今後の課題としては、棚田のPR活動を進めていくことがあげられる。棚田が持つ様々な価値を多くの人々に発信していきたい。								

～環境 A 班 棚田班 棚田の活動～

～活動目標～

- ・ 棚田保全を通して、より美味しく安全なお米を提供するとともに、棚田の価値と地域経済を向上させる。棚田の持つ地滑り防止機能を学ぶ。
- ・ 美味しいお米を生産できる土壌を探る。



～本年度の活動内容～

- ・ 5月14日 田植え
- ・ 6月25日 地滑り防止講義
- ・ 7月14日 草取り、ワークショップ
- ・ 7月28日 水田土壌講義
- ・ 9月17日 稲刈り
- ・ 11月5日 水田土壌調査(予定)



～棚田とは～

山の斜面や谷間の傾斜面に階段状に作られた水田のことをいう。一枚一枚の面積が小さく、傾斜地で労力がかかるため、過疎・高齢化ともなっていて、1970年代から減反政策として耕作放棄され始め、今は40パーセント以上の棚田が消えていると言われています。



～武勇田とは～

うへ山の棚田保全を目的に立ち上がった地元の人たちのグループ。ボランティアを募集し、景観保全などの活動を活発に行っている。今、若者が少なく棚田を保全できる人が少なくなっている中で、美しいうへ山をこれからも残していくためにはどうすればよいか話し合いました。



～地滑り防止講義～

棚田が持つ地滑り防止機能や保全の取り組みについて、豊岡土地改良センターの松岡さんに話をしてもらいました。棚田には保水機能があり、地滑りを防止する役割があるということを教えていただきました。棚田の耕作を放棄すると、棚田は水を溜めることができなくなり、地滑りなどの災害が発生しやすくなります。そのため、棚田の保全活動は災害への対策も兼ねており、日頃から棚田を管理・保全していくことで、地滑り防止に貢献できることがわかりました。

～ワークショップ～

但馬には地滑りが起きやすい場所が点在しています。これに対して県民局は、①「地滑り対策工事」を進めつつも、これからも棚田で農業をつづけられるような取り組み②「棚田保全支援事業」を考えておられます。

そこで、私たちはこの事業を上手く進めるためにどうしたらいいかワークショップを行いました。

話し合いの結果、Instagram や Twitter、テレビCM、田んぼアートなどの案が出ました。キャッチフレーズの中には、『ノーライス・ノーライフ』等のユニークな案がたくさん上がりました。



～水田土壌講義～ Save Our Soils! 私たちが土壌を守れば、土壌は私たちを守る。

土壌は、地球上の環境と生命の基盤ですが、人間がかかる圧力によって急速に劣化してきているそうです。国内外の土壌の持続的な利用やおいしいお米を生産できる土壌条件について、鳥取大学農学部、山本定博教授にお話を聞きました。11月には現地に行って土壌調査を行う予定です。



～今年度の活動の様子～

田植え

- ・ 苗を等間隔に植えるのが難しかった
- ・ 泥の感覚が楽しかった



草取り

- ・ 稲の周りにある草を取った
- ・ 稲を踏まないように気を付けた
- ・ 稲と似た草があったので気を付けた



稲刈り

- ・ カマで丁寧に刈った
- ・ 稲を藁で束にし、稲木にかけた



～私たちの提言～

- ・ 日本の棚田百選に選ばれているうへ山の景観を保全する。
- ・ この活動を知ってもらうことで後継者が増える可能性がある。
- ・ より美味しく安全なお米を道の駅などで販売したり、インターネットなどで広報活動することで、地域経済を向上させる。
- ・ コミュニケーションや人との繋がりを通して、うれしさややりがいを感じ、原動力とし、棚田の価値を多くの人と共有する。
- ・ 高校生や若い人たちがもっと棚田を活性化させる。
- ・ 棚田の持つ地滑り防止機能を、多くの人知ってもらう活動をする。
- ・ 土壌の持続的な利用を目指しながら、おいしいお米を生産できる土壌条件を探究する。



～まとめ・感想～

昨年までと同様にうへ山の棚田の保全活動として、田植えから稲刈りまでを行いました。今回の活動で、お米を作る大変さと大切さを学びました。お米を作る体験は普段出来ない貴重な体験で、いい経験となりました。米作りの一連の流れを経験して米作りの楽しさを感じたとともに、やりがいのある仕事だと思いました。これからも、うへ山の棚田を大切に武勇田の方たちと協力し、守ってまいります。

今年から棚田の保全の他に、新たに県民局が行っている地滑り対策工事と棚田の持つ地滑り防止機能を学びました。講師として、豊岡土地改良センターの松岡さんにお越しいただき、棚田が持つ地滑り防止機能と保全への取り組みについてお話をいただきました。また、おいしいお米を生産できる土壌条件を探る活動として、鳥取大学農学部の山本定博教授にお話を聞きました。11月には現地に行って土壌調査を行う予定です。

～今後の課題～

- ・ 棚田保全
- ・ 継承者、後継者
- ・ 地域経済
- ・ 美しい景観、環境、集客
- ・ 食の安全



教科名	総合的な探求の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	環境B班	単位数	1単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必修修の別	選択				
1 仮説・ねらい	森の健康診断(人工林の混み具合調査)が災害に強い森をつくる第一歩となり、地域の環境保全にもつなげていく取り組みをすすめる。また、森の健康診断をもとに伐採した間伐材を利用した木の駅プロジェクト等に取り組むことによって地域内に経済効果を生む。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			森の健康診断講義				
		班別活動②			森の健康診断				
		班別活動③			伐採現場見学				
	2学期	班別活動④			ワークショップ				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別活動⑤			振り返り、活動報告書作成の準備				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 森の健康診断講義 講師：永松 大 教授（鳥取大学） ・板仕野地区の山林で、森の健康診断の実習</p> <p>班別活動② 森の健康診断 ・板仕野地区の山林で、4班に分かれて森の健康診断を実施</p> <p>班別活動③ 伐採現場見学 ・長瀬地区で森林組合が実際に伐採を行っている現場の見学</p> <p>班別活動④ ワークショップ 講師：西谷 雄紀 氏（香美町農林水産課） ・森林環境譲与税についての講義を受けた。 ・森林環境譲与税の活用について、班別討議と発表を行った。</p> <p>班別活動⑤ 活動の振り返り、活動報告書の準備 ・森の健康診断について、各班のまとめの報告を行った ・活動報告書の作成のための役割分担を行った</p>								
4 生徒感想	<p>・現地の健康診断では、雨が降っていて板仕野の調査が非常に困難だったものの、最後までどういった状況なのかを知りたかったので、根気強く、班の皆と共に頑張った。結果、森林は過密ということが分かったが、それで活動が終了したことが非常に残念であった。さらに木の伐採までを行いたかった。</p> <p>・ワークショップでは、森林環境譲与税の使い道について話し合いをしたり、森林の役割について学んだ。生徒一人一人がどう使うべきなのかを提案し、それをグループで吟味し、互いに発表しあった。木の国や、木のコンビニ、地元の木材を使った「Murao家具」といったユニークな案が出て、とても面白かった。</p> <p>・伐採現場の見学では、木を倒す方向を決めることで、木をきれいな状態出荷できること、木が痛む原因のほとんどが切り株の当たることによるダメージであるということを知った。</p> <p>・ワークショップでは、香美町の職員の方から様々な話を聞き、それを踏まえて木のできる小物や食器などたくさんのアイデアが出て、有意義な時間となった。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.6	3.9	3.4	3.4	3.5	4	4	3.8
	2021年10月	3.8	3.8	3.8	3.9	3.5	3.9	4.1	3.7
6 成果と課題	<p>昨年度は現場で実施できなかった森の健康診断が、本年度は実施でき経験を引き継ぐことができたことが成果である。しかしながら、健康診断の結果を次につなぎ活動ができていないことが課題として残った。また、木野駅プロジェクトの活動にも参加できなかった。 マンネリ化している活動の新しい展開を考えていくことも課題として残っている。</p>								



## 活動目的

### はじめに

我々、環境B班 森の健康診断では森の環境保全を目的に活動しています。

今年はワークショップ、森の健康診断、長瀬へ伐採場の見学などの活動をしました。

### 森林の役割

- ・土砂災害防止機能
  - ・水源かん養機能
  - ・生物多様性保全機能
  - ・地球環境保全機能
- の大きく分けて4つあります。



## 森の健康診断

### 森の健康診断とは

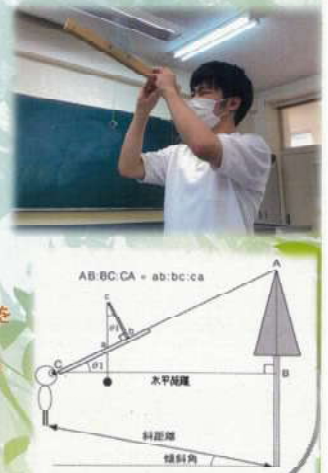
森の健康診断とは、植生調査や木の密集率を調べることで災害に強い森かどうかを判断する活動のことです。

### 板仕野での森の健康診断

今年は、板仕野で鳥取大学の永松大先生監修の元、実際に森に入り尺蔵などの道具を使い森の健康診断を行いました。

### 尺蔵の使い方

1. 1人が木のてっぺんが見える場所に尺蔵と30m巻尺、角度計を持って立ちます。
2. 木までの斜距離を測ります。
3. 木の幹の自分の目の高さの所を見て、傾斜角を測ります。
4. 尺蔵のストローを通して木の先端を見て、メモリの先端の値を記録します。
5. 換算表と式を使って樹高を計算します。



## ワークショップ

### ワークショップ

国からの支給されている森林環境贈与税の香美町での使い道について話しました。4班に分かれて案を出し合っ、各班ずつ発表しました。



### 振り返って

ワークショップをして出た案

猫カフェ、ツリーハウス、村岡ブランド製品、木の家具、小物、食器など、...

ワークショップを通しての感想

伐採された木を有効活用できる案が班ごとにたくさん出てきて良かったです。小代地域局の方から出た案に対してコメントを頂きました。これらの案を通して、香美町の地域活性化に貢献していきたいです。これからも役場の方と協力して地域についてアイデアを出していきたいと思いました。



## まとめ

### 伐採現場の見学

長瀬への伐採現場の見学では、木を切る機械の種類や特徴などを教えてもらいました。昔植えた杉を伐採してより花粉の少ない品種に植え替えるそうです。

### 森の健康診断

森の健康診断では、板仕野の森の込み具合調査の結果、1ヘクタール当たりの適正本数を大きく超え、超過密状態であることがわかりました。来年の活動では実際に間伐をしたいと思います。

### 振り返って

去年はコロナウイルスの影響で実際に森に入ることかできませんでした。今年は森の健康診断を行うことかできました。ですが間伐を行うところまでいかなかったのて来年は実際に木を切り、木の駅プロジェクトのサイクルを行いたいです。





教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	地域福祉班	単位数	1 単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必履修の別	選択				
1 仮説・ねらい	<p>①子どもたちや高齢者とのふれあいの場を設け、自分たちの計画した遊びや活動を通して交流をする。</p> <p>②上記の交流を通して「世代を超えた交流の場」を作り、更には地域の人々の世代を超えた交流を盛んにし、地域の活性化につなげていく。</p> <p>具体的な活動として 1) 射添小学校放課後子ども教室における小学生との交流 2) 高齢者施設や独居老人宅への花の配達 3) 公共施設への花の配達</p> <p>を行う。例年、高齢者施設訪問等を計画していたが、昨年同様コロナ禍で訪問することができなかったため、引き続き「花の定期便」を実施し</p>								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			購入計画				
		班別活動②			花植え作業				
	2学期	班別活動③			花の配達				
		班別活動④			活動の振り返り				
	3学期	村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 購入計画書の作成と配達先の選定 (A, B, Cそれぞれのグループでの討議)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>購入計画書の作成ー花の種類、腐葉土の量、プランターの種類・数の決定</li> <li>購入先との連絡調整</li> <li>配達先の選定・・・昨年度まで訪問をさせていただいていた高齢者施設、保育園、コロナ禍で日々尽力されている医療機関等、独居老人宅等を中心に選定</li> <li>水やり当番表の作成</li> </ul> <p>※①と②の間に、代表者が購入先の量販店に花の苗、腐葉土、プランターを購入に出向いた。</p> <p>班別活動②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>花植え作業ー予定していた花植え作業日が野球部の試合と重なり、残留組数名で花を植える作業を行った。</li> <li>※植え付け後は、当番が夏季休業中も含めて朝、夕2回の水やりを行った。</li> </ul> <p>班別活動③ 花の配達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に連絡を取っていた事業所等に各グループに分かれて、全員で配達を行った。(一部車利用)</li> </ul> <p>班別活動④ 活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班別活動①～③の総括</li> <li>ア. 反省と次年度へ向けての改善点</li> <li>イ. 活動を通して学んだこと</li> <li>ウ. 評価すべき点</li> </ul> <p>村高除雪隊 2月7日東上地区(通学路の除雪)20名参加 2月10日板仕野地区(消火栓・集会所の除雪)21名参加</p>								
4 生徒感想	<p>・僕は、入学したときにこの学校の特徴として地域に関連した授業があると聞き驚きました。中でも、「地域福祉班」がしている活動に強く衝撃を受けました。その理由は、他の班とは違い、直接地域の人(高齢者や子供)と関わっているからです。僕は人との関わりが好きなので僕にピッタリの班だと思所属しました。所属したての時は、面白い雰囲気緊張が解け先輩たちも優しくとても安心感がありました。具体的に地域の人と関わっていると感じた所は、「花の宅配便」や「射添っ子」です。花の宅配便では、直接独居老人宅を訪ねるのでそれぞれの訪問した家でいろいろな話を聞きました。嬉しかったことはやはり花をもらった老人の方が笑顔になったことです。笑顔をもらったことで日々の生活の疲れが吹き飛ばすような感じで元気をもらいました。一から花を育てるのは大変で、ポーチュラカという種類の花が見栄えが悪く他の花で代用しました。この経験からすべてうまくはいかないのだなと思いました。中でも大変だったのが水やりで夏休みの間も学校に行かなければならなかったので行けないことが多く、とても苦労しました。しかし、苦労したからこそその達成感は努力の大切さを学ぶことができました。射添っ子では、放課後を使い子供たちのところに行くわくわく感がありました。遊びを考えて準備していてもなかなかうまくいかないことがありました。特に、小学生は好奇心が旺盛で自由に動くのでなかなかいいことを聞いてくれず大変でした。子供の言うことをすべて受け入れてしまうとなかなか進まなくなるのでしっかりと断ることが大事なのだということも学びました。さらに、小学生は流行りのものに興味が惹かれやすいので遊びに流行を混ぜて企画するといいなと思いました。僕も小学生の頃はそうだったのがじっとしていることが嫌だったので、遊びに移るときにスムーズにできるように分担しておくなどあらかじめ対策しておくことが大事だなと思いました。子供はとても純粋でなんだから僕たちへの言うことを聞いてくれるので本当は素直なのだ実感しました。香美町は今全体的に少子化しているので僕たちが遊びを考えて楽しませることで少しでもさみさを和らげてあげられたらいいなと思います。この一年間で様々なことを通して貴重な体験ができてよかったです。これからも地域のためにできることを精いっぱい頑張りたいと思います。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	3.8	3.8	3.3	3.4	3.4	4	3.7	3.6
	2021年10月	3.9	3.7	3.7	3.6	3.6	3.9	3.8	3.7
6 成果と課題	<p>花を育てるために、購入計画、購入先との連絡、水やり等世話の分担、鳥獣被害にあわないための工夫等を異学年集団の班で話し合い進める中で、責任感や協調性、仲間との協力、自然との共生、共存といったことを学ぶことができた。育てた花を施設や独居老人宅への配達を行うことで、地域の方とふれあいを深めることができた。特に今年度から実施した独居老人宅への配達では、家を探すのに、地域の方に声をかけ、助けていただく場面も多く、より地域を知るきっかけになったと思われる。放課後子ども教室での小学生との交流については、どんな活動をしたら小学生たちが喜ぶかを班で話し合い計画し、実施することで小学生とのふれあいだけでなく、生徒自身が活動を通して人前で説明しゲーム等を運営することで成長する姿を見てとることができた。</p> <p>コロナ禍ということもあり、地域との交流ができていく状態であったのが残念であった。今後は定期便、子ども教室との交流を継続しながら、オンラインなどでの交流も視野に入れて活動の幅を広げ、高校生を軸とした世代を超えた交流の実現を目指したい。</p>								

# 地域福祉班

## 活動目的

- ・世代を超えた交流の場を作る。
- ・コロナ禍で地域社会の人と人のつながりが希薄になっていると考えられる。

⇒高校生が地域とのつなぎ役になる

## 花の定期便

### 目的

- ・花を育てて、日頃お世話になっている地域の方々に届ける。
- ・花を通して、その後の交流につなげる。
- ・花を届けることで地域活性化につなげる。

### 届け先

- ・こぶし園 ・村岡病院
- ・宝樹保育園 ・独居老人のお宅

### 活動内容

5月14日(金)

購入計画

6月25日(金)

花の受け取り

7月14日(水)

花植え作業・水やり

9月17日(金)

花配り



## 良かった点

- ・社会福祉協議会の方々とつながりをもつことができた。
- ・わずかな時間であったが、お話をすることができた。
- ・地域住民の深い繋がりを知れた。



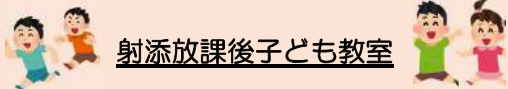
## 改善点

- ・水やりを忘れていたことがあった。
- ・一部の配達先に事前連絡をしていなかった。
- ・花の品種の選択を間違えた。



## 感想

花配りを通して地域の方々にたいへん喜んでもらえ、交流もはかれた。また、地域住民の方々の助けによって独居老人宅へ花を届けることができ、地域の深い繋がりを知ることができた。



## 射添放課後子ども教室

射添放課後子ども教室(いそっこ教室)とは

高校生が放課後に小学校を訪問し、小学生と遊びを通して交流する。

### 目的

- ・子どもとの接し方を学ぶ。
- ・子どもとの交流の場を増やす。

### 活動内容

- ・じゃんけん列車
- ・風船バレー
- ・なんでもバスケット

## 良かった点

- ・最近はゲームが普及し、子どもたちの遊びの場がインドアになりつつある中、体を思い切り動かす良い機会となった。
- ・低学年から高学年まで年齢に関係なく、気軽に参加できる遊びを考えることができた。



## 改善点

- ・子どもたちとのやりとりがうまくいかなかった場面が多かったため、子どもたちの興味を引く内容を考えていく。
- ・準備が不十分なものもあったため、計画を立てて、配置や役割分担、説明の仕方を工夫していく。

## 感想

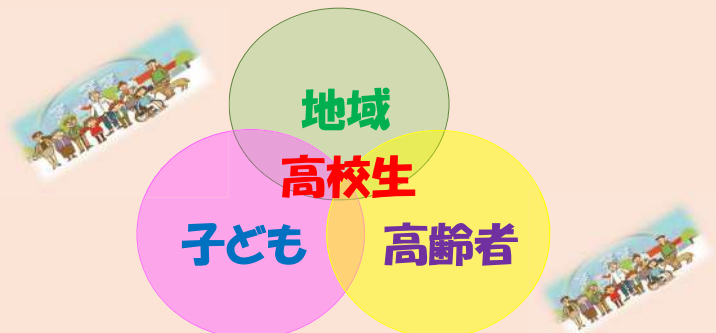
コロナ禍で中止が続いているが、今年度は7月に一度交流の機会をもつことができた。子どもたちと一緒に楽しむことで元気ももらえた。このような社会情勢中、人と人との関りの大切さを学んだ。



## 全体のまとめ

世代を超えた交流を増やすという名目で活動に取り組んだ。

昨年度から施設を訪問することができない中、「花の定期便」を企画し花を介して高齢者との関りを継続している。いそっこ教室も中止が続いてなかなか交流ができていない現実がある。人との関りが制限されるこの社会情勢の中、花を受け取った高齢者さんの笑顔やいそっこ教室の子ども達の元気な笑い声に、この交流の意味を感じることができた。コロナが終息した時には、高齢者・子ども・地域の全員が笑顔で交流できるように高校生が世代を超えた交流の実現に取り組んでいきたい。





教科名	地域探求	科目名	集落調査班	単位数	1単位				
対象・学年	1, 2, 3年			必修修の別	必修修				
1 仮説・ねらい	集落散策や地域の方へのインタビューを通してその地域の魅力を高校生の目線で発見し、その魅力を集めたガイドブックを作成することで「より多くの人に香美町の存在、そしてその魅力を知ってもらい」ことをねらいとし活動を行った。また、その過程で生徒自身に課題発見能力やその解決能力を培わせるとともに、より良く伝えるために必要な力について気づきをもたらすことでそれを涵養させることを目標とする。								
地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力	
	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
1学期	オリエンテーション				概要説明・班編成				
	班別討議				仮説・計画立案				
2学期	班別活動①				インタビュー調査の実施・改善点の協議				
	班別活動②				インタビュー調査の実施・改善点の協議				
	班別活動③				ガイドブック原稿の作成				
	班別活動④				ガイドブック原稿の作成				
3学期	村高フォーラム				ステージ発表・ポスター発表				
	班別討議				検証・改善				
	活動報告書作成				個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① インタビューの実施・改善点の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー調査①（対象者：城山区長 中村正直さん）5/14</li> <li>・インタビュー調査を実施しての振り返り 改善点の共有</li> </ul> <p>班別活動② インタビューの実施・改善点の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー調査②（対象者：林本さとかさん）7/12（対象者：中村美和子さん）7/14</li> <li>・インタビューをもとに、何をこの地域の魅力として売り出すのか（ウリ探し・魅力探し）を決定</li> <li>・活動の目的や方針を確認、地域ならではの魅力を再検討</li> </ul> <p>班別活動③ ガイドブック原稿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー結果よりガイドブック掲載文章を作成</li> <li>・「香美町の宣伝人」「田圃回帰をしたい人」「子育て世代」「外国人」の4つにターゲットを分け、それぞれの集落の魅力に応じて読む人が自分に合った集落を見つけられるように工夫</li> <li>・書き方の統一、内容の精査</li> </ul> <p>班別活動④ ガイドブック原稿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブック原稿のレイアウト</li> </ul>								
4 生徒感想	<p>今回の集落調査の活動を行っている中で嬉しかったことが一つある。それは、城山地区に聞き取り調査で訪れた際、区長さんに「こうやって、村高生が集落のことを知ろうとしてくれて、それを発信しようとしてくれていることが本当に嬉しい。」と伝えられたことだ。今まで私たちは地域の方々が集落を訪れて活動をしている私たちを見て、どう思っているのかわかりませんでした。しかし、この言葉を聞いて集落調査班の生徒のみならず、村岡高校の生徒が地域に必要とされていることを実感し、純粋に嬉しく思った。</p> <p>反省点としては、1回目の聞き取り調査の時に活動の趣旨をうまく伝えられていなかったため、私たちが聞き取った内容やインタビューを受けてくださった方の話されている内容とが中々かみ合わなかったことが挙げられる。また、インタビューを行う立場であるはずの私たちが終始聞き手に回ってしまっていたところも反省しなければならない点である。この経験を踏まえ、インタビューする際は、自分たちが聞きたい内容をより明確にして伝える必要があると感じた。</p> <p>今後は現在作成中のガイドブックを完成させ、香美町内外の人に手に取ってもらい小代区という地域を知ってもらうことを皮切りに、香美町の魅力が広く伝わっていくことを期待している。</p> <p>1回目の聞き取り調査では区長さん・副区長さん・村のものしり博士である井口さんにお話を伺い、城山地区の資源や歴史・魅力的な人などについての情報を多く頂いた。しかし、情報を整理していく中で、魅力をより良く伝えていくためには「過去の話」よりも「現在から未来へのベクトル」でインタビューを行わなければならないと考えた。そこで、2回目の聞き取り調査の対象者を「子育て世代の女性」に決定し、城山地区で子育てをされている林本さんと中村さんにインタビューを行った。1回目の聞き取り調査の反省を踏まえながらインタビューを行ったため、私たちが聞きたいテーマと合致した聞き取り調査を行うことができた。具体的には、今回の集落調査の活動を通して田舎で子育てをすることの良さを知ることができたと言える。</p> <p>「田舎」という言葉を聞くと多くの人が真っ先に子育ての面にかかわらず「不便」というイメージを思い浮かべるのではないだろうか。しかし、林本さんや中村さんへのインタビューを通して、城山地区及び田舎で子育てをするメリット、反対に今後城山地区に移住し、子育てをする方がいた時のために必要なことやデメリットなどを聞くことができ、不便な環境で育つことによって培える確かな力があるのだと感じた。また、城山地区に生まれている人は数にするととも少ないが、少ないからこそ世代間を超えてのつながりやコミュニケーションが生まれることを学んだ。このような点から、昨年度の活動で学んだ「人の温かさ」が子育ての面でも深くかかわっているのだと気づくことができた。</p> <p>また、この集落調査班の活動を通して、インタビュー能力やコミュニケーション能力が向上した。初めのころは自分たちが事前に用意した質問に頼りすぎてしまい、インタビューの中で疑問に思ったことを聞くことに中々頭が回らず、会話のキャッチボールができなかったため、聞き手に回るが多かった。だが、インタビューの回数を重ねていく内に会話が途切れてしまうことなくインタビューを行えるようになり、活動を通して成長できたと感じている。</p> <p>総じて、今年度の活動を通して、小代区に対する自分自身の興味や関心がより一層増したと言える。昨年度は「人」、そして今年度は「集落」と2年に渡り小代区の調査を行ってきたことで感じた魅力など多くの発見があり、充実した活動ができたと感じている。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	4月	3.7	3.5	3.8	3.8	4.3	4.3	4	4.1
	10月	3.8	3.8	4.1	3.6	3.9	3.6	4	3.9
6 成果と課題	<p>まず第一に、昨年設定した課題である《成果物としての「ガイドブック作り」だけを目標に据えるのではなく、この学習活動を自ら省み、その中でどのような力が身に付いたのか見出し、そしてそれを活用することで次に繋げていくことのできる生徒をいかに育てるか》という点において、大いに実りある活動となったと言える。実際に活動を行う中で様々な課題を見つけ、多面的なアプローチでその解決に向け行動できる生徒の姿を見て取ることができたこと、そして生徒自身の感想にも身につけた力について述べられていることがその根拠である。</p> <p>今後の展望としては、活動を通して培った力を活用することで与えられた枠組みを超えて新たな価値を創造できる生徒を育てることができれば、さらに有意義な活動に発展していくと推測できる。それを現実させるべく、まずは我々指導者が過去を踏襲しつつも新たな動きをもたらすことができるようにしていきたい。</p>								

# 村高発！地域元気化プロジェクト(総合的な探究の時間) 集落魅力発信プロジェクト

1. 研究・活動の目的・動機 兵庫県立村岡高等学校 集落調査班

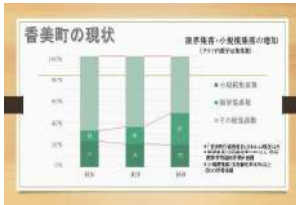
私たちが住んでいる兵庫県香美町では、高齢化と人口減少が進行し、それに伴う集落の小規模化により消滅の危機にある地域が増えています。そこで私たちは小規模集落に活力を与え、未来に残していくために、集落の魅力を高校生ならではの視点で発見し、発信するガイドブックを作るプロジェクトに取り組みました。

今年は、小代地区の調査を行い、小代集落の連携を強め、新たな魅力を発見できるようにガイドブックの作成を目指しています。

## 2. 研究・活動の方法

### プロジェクトの概要

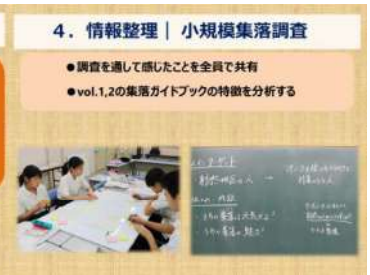
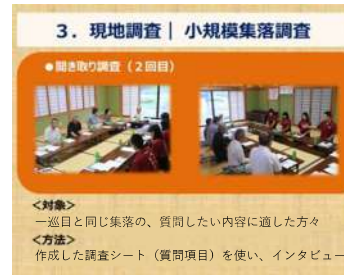
#### 取組概要



## 3. 研究・活動の経過



**作戦会議**  
2巡目は「地域住民の未来への思い」について焦点を当て、より良いインタビューをするために質問項目を精選しました。  
**Point**  
誰にインタビューするのか!?



## 5. 魅力抽出 | 小規模集落調査

**集落の「ウリ」(魅力)を探す**

● 調査対象の各集落の人・産業・自然・行事等から集落のウリ(魅力)を決める

● ターゲットを集落ごとに決めてパンフレット原稿を作成する

例  
① 高津: 魚好きの人  
② 高津: インスタグラマー  
③ 小代: 緑地好きの人  
④ 山田: 癒されたい人  
⑤ 和野: 豊かでワイワイ楽しみたい人 など

**魅力抽出**  
現地調査・資料調査結果を踏まえ、集落の魅力を抽出する特設授業を行いました。  
**Point**  
誰に魅力を発信するのか!?

## 6. 魅力発信 | 集落ガイドブック「むらの風景」vol.4 原稿作成中



## 4. 研究・活動の成果の概要

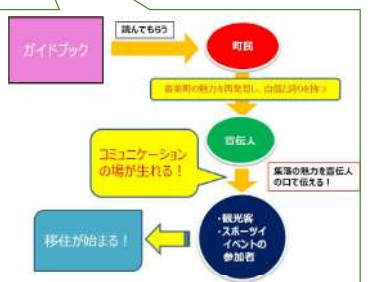
**集落の魅力発信プロジェクトを通してわかったこと**

- 集落の魅力は、そこで暮らす人々の中にある。
- 魅力を再認識・再発見することで自信と誇りを取り戻す。
- 集落内外の人々が魅力を共有することで、「絆」・「つながり」が生まれ、人々の交流・流れができ、移動が起こり、地域が活性化される。



## 5. 今後の課題

- ① ガイドブック活用法を明確にし、小代地区の方に提案する。
- ② 町民と観光客・イベント参加者等のコミュニケーションの場をどう生み出すか。



## 6. まとめ

私たちが取り組みをすすめている「集落の魅力発信プロジェクト」で一番大切なことは、**高校生(自分の年代にあった)目線で物事を捉えること**です。「集落ガイドブック」がありきたりなものにならないように、**自分たちの視点をしっかりと持ち、さらに他の視点からの意見を取り入れる柔軟性を大切に、集落ガイドブック「むらの風景」vol.4の作成に取り組んでいきたい**と思います。

教科名	自己表現	科目名	スピーチ				単位数	2単位	
対象・学年	3年16名				必修修の別	選択			
1 仮説・ねらい	<p>①さまざまな表現方法を実践的に習得し、自分の意見を正確に表現出来るプレゼンテーション能力などの資質や能力を育てる。</p> <p>②高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えると共に、自分の言葉で表現できるようにする。</p> <p>③Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	—	—	◎	—	◎	◎	—	◎	
2 年間計画	【スピーチ1単位】				【夢ゼミ1単位】				
	学 期	と り く み	内 容		と り く み	内 容			
	1学期	(1)スピーチ	発声・スピーチ		(1)私の夢	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(2)自己紹介	自己紹介文作成・スピーチ		(2)動機・実現計画・将来展望	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(3)面接練習	面接カード作成・模擬面接		(3)私の夢の具体化	原稿作成・作文作成			
	2学期	(4)スピーチ	学校祭から学んだこと等		(4)未来へのステップを具体化	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(5)ディベート	概要説明・実践		(5)仕事以外の私の夢	原稿作成・全体発表			
(6)プレ意見発表		原稿作成・発表		(6)将来設計	原稿作成・全体発表				
(7)意見発表準備		原稿作成		(7)私の未来設計	原稿作成・作文提出				
3学期	(8)意見発表	意見発表 (5分以上)							
3 実施内容	【スピーチ1単位】 (特別非常勤講師：毛戸公彦)				【夢ゼミ1単位】 (特別非常勤講師：岡 伸二郎)				
	1学期	(1)スピーチ ①自己紹介 (1分) [オンライン授業] ②私のおすすめの○○○(2分) ③気になるニュース(3分)			1学期	(1)私の夢 ①原稿作成 ②全体発表			
		(2)自己紹介 (PR) をつくろう ①自己紹介 (PR) を作成 ②他者からみた自分 ③自己紹介スピーチ				(2)動機・実現計画・将来展望の明確化 ①原稿作成 ②グループ発表 ③全体発表			
	2学期	(3)面接練習 ①面接カード作成 ②面接練習			2学期	(3)私の夢の具体化 ①原稿の作成 ②作文提出 ③全体発表			
(4)スピーチ ①村高祭から学んだこと			(4)未来へのステップを具体化する(10段階) ①原稿作成 ②グループ発表 ③全体発表						
3学期	(5)ディベート ①原子力発電は必要か。 ②田舎に高速道路は必要か。			3学期	(5)仕事以外の私の夢 ①原稿作成 ②全体発表				
	(6)プレ意見発表 ①プレ意見発表準備 ②プレ意見発表 (2分)				(6)将来設計 (年代別) ①原稿作成 ②全体発表				
	(7)意見発表準備 ①意見発表原稿作成				(7)私の未来設計 ①原稿作成 ②作文提出				
	(8)意見発表 (5分以上) テーマ：①私の人生 ②私の趣味 ③私の好きな食べ物 ④住みたい理想のまち								
	(9)自己評価カード記入								
4 生徒感想	<p>・授業を通して、話す力、聞く力を身につけることができた。採用試験では、話し方が上手だと褒められました。また人生や夢について伝えることができ、一番楽しい授業でした。</p> <p>・人前で話すことが苦手で、緊張したり、話す内容を忘れたりして、話すことが嫌だった。しかし、授業を受けてきて、人前で話したり自分の意見を言うことが少しは克服できたと思う。話す力も聞く力も大切なので、この経験を大事にして人生で役に立ていきたい。</p> <p>・授業を通して、話をするコツをたくさん学びました。自分が思ったことや感じたことを素直に言葉として出せることはよいことだと感じました。</p> <p>・私の夢を発表するときはとてもしんどかったのですが、いっぱい質問をいただいたおかげで、いろいろ考え直すことができ、大きく変わったことができた気がします。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	2021年4月	—	—	3.8	—	3.9	4	—	3.6
	2021年10月	—	—	4.0	—	4.0	4.1	—	3.8
6 成果と課題	<p>・コロナ禍でスピーチの授業はたいへん難しく、当初行う予定だった発声練習や姿勢・視線等の基礎トレーニングができなかったが、これから予想される「withコロナ」の時代に対応できる授業形態を模索したことは有益であった。</p> <p>・自己表現 (スピーチ) は経験を積み、それ相応の成果は上がるが、議論する力やコミュニケーション能力をさらに高めていくことが重要である。特に、うまく話をしようとするのではなく、「自分の意見を正確に伝える」「他人の意見を正確に聞き取る」ことが求められる。</p> <p>・将来のことを真剣に考える傾向が薄らいる傾向が見られるが、キャリアプランニングをどう組み立てさせ、実現するような具体的な計画を立てさせて、自分の言葉で語ることが今後の課題である。</p>								

## **3 研究開発の内容**

### **(2) 成果の普及・広報**

- **村高フォーラム、総合的な探究の時間発表会**
- **成果物**
- **新聞掲載**
- **他校フォーラム等参加**
- **地域みらい留学**



### 3 研究開発の内容

#### (2)成果の普及・広報

#### 村高フォーラム2021

- 【期 日】 2021（令和3）年10月9日（土）  
    《午前》 総合的な探究の時間・地域探求 発表会  
    《午後》 村高フォーラム
- 【場 所】 兵庫県立村岡高等学校体育館（香美町村岡区村岡2931番地）
- 【主 催】 村岡高等学校・村岡高等学校PTA・村岡高等学校同窓会（明倫会）
- 【共 催】 鳥取大学地域学部
- 【後 援】 香美町・香美町教育委員会
- 【テーマ】 「地域づくり×人づくり」～若者と地域を創る～
- 【趣 旨】 日本全体で高齢化と人口減少が進み、全国各地で具体的な対策が検討され始めている。特に過疎地においては「地域」と「学校」の存続が危ぶまれる状況があり、自分が住む地域で活躍し、地域を創っていく若い担い手を育てていくことが急務となっている。このような問題意識を基に、地域をはじめ関係する皆さんと意見交換を行いながら地域と協働する学校づくりを模索する。

#### 【プログラム】

- 1 総合的な探究の時間・地域探求発表会（10：00～12：30） 司会【生徒会】
  - ①オープニング：民謡集団 蘇武
  - ②総合的な探究の時間 発表（環境A、B班、食文化班、地域福祉班、集落調査班、紙漉き班）
  - ③地域探求・地域学入門発表（地域学入門、地域スポーツⅠ、地域スポーツⅡ、地探Ⅰ、地探Ⅱ）
  - ④ポスターセッション（体育館パネル展示見学）
  - ⑤全体会（各代表者による感想発表会）
  - ⑥フィナーレ：吹奏楽演奏



## 2 村高フォーラム2021

第1部 開会

総合司会：[村岡高校総務部長]

第2部 学校概況説明

「村岡高校の現状と課題」 牧野 徹 [兵庫県立村岡高等学校長]

第3部 基調報告 「国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性」

報告者 アレクサンダー・ギンナン [鳥取大学地域学部国際地域文化コース講師]

第4部 討論会「地域と学校/『教育のまち』を創る」

村高ヒストリー～過去・現在・未来～

司会 筒井一伸 [鳥取大学地域学部地域創造コース教授]

コーディネーター 小泉元宏 [立教大学社会学部現代文化学科准教授]

助言者 山根俊喜 [鳥取大学地域学部教授/副学長]

主催者 牧野 徹 [村岡高校校長]

コメンテーター 山川良子 [鳥取市河原町総合支所地域振興課]

### 《パネリスト》

会場参加 上治遼哉 (52期生/小代区在住：香美町役場/地創1期生)  
東 竜也 (53期生/村岡区在住：出石特別支援学校事務職)  
西谷友貴 (55期生/鳥取市在住：鳥取市役所)

オンライン参加 邊見 聖 (52期生/兵庫県川西市：民間企業)  
井上陽菜子 (53期生/青森県：地域おこし協力隊)  
藤原 礼 (54期生/兵庫県養父市：但馬農業高校事務職)  
今岡真菜 (55期生/埼玉県：小学校教諭)  
田中和磨 (56期生/愛媛県：大学4年)  
藤井陸矢 (57期生/大阪府：大学3年)  
鉄屋 陸 (58期生/島根県：大学2年)  
上田遥菜 (59期生/山梨県：大学1年)  
西村大地 (59期生/ロサンゼルス)

第5部 閉会 挨拶 西村芳和 [明倫会(同窓会)会長]



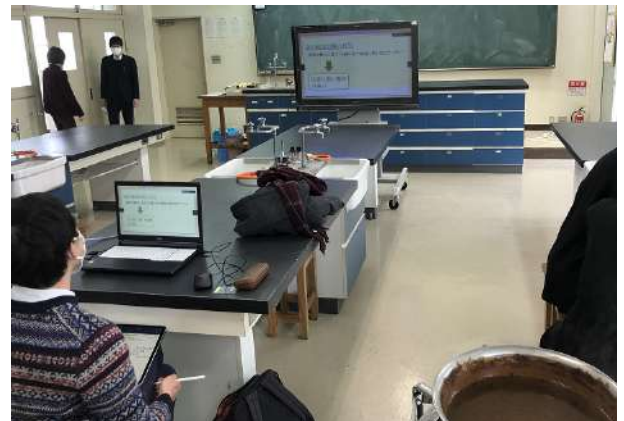
## 「総合的な探求の時間」発表会実施要項(オンライン)

日 時 令和4年3月8日(火) 2, 3校時(9:40~11:20)

場 所 発表者: オンライン室(管理棟2階)  
視聴者: 生徒/各HR教室  
運営指導委員、コンソーシアム、学校運営連携協議会、  
学校評議委員/会議室

### 日 程

- 1 開会(9:40)
- 2 学校長あいさつ
- 3 生徒発表・質疑応答
  - ①民芸班           ②紙漉き班           ③環境A班[棚田]           ④環境B班[森健]
  - ⑤吹奏楽班       ⑥食文化班           ⑦地域福祉班           ⑧集落調査班
- 4 講評[総合的な探求の時間に関して]
  - ①運営指導委員       ②その他
- 5 全体講評[総合的な探求の時間の課題と展望]  
石山雄貴氏(鳥取大学地域学部人間形成コース 講師)
- 6 閉会(11:20)





成果物



元気体操 DVD



元気体操テキスト



香美の旅 DVD



香美町集落ガイドブック「むらの風景 Vol. 4」



「村高発地域元気化プロジェクト」活動報告書



卒業論文「私の活性化プラン」



### 遊びながら学ぶゲーム

#### ふるさと教育教材4点制作

村岡高生

村岡高(香美町村岡区)の地域アウトドアスポーツ類型地域創造系の生徒は26日、地域について考える「地域探求」授業の成果を発表した。本年度は3年生12人が遊びながら地域について学べるゲームなど4点を完成させた。数日中に岡区内の公民館や小中学校に配布され、ふるさと教育に役立てられる。

同コースは2011年に設立。グループごとに地域課題の調査、解決方法の検討などを行い、3年時には卒業制作としてふるさと教育教材を開発する。

本年度は小代、村岡岡区在住のさまざまな分野の専門家を冊子にまとめた「ものしり博士ガイドブック」を3年ぶりに制作。生徒が



制作したガイドブックなどを披露する西谷さん(左)と山本さん(右)。26日、香美町の村岡高。

約2年かけて行った取材を基に、それぞれのプロフィールや活動内容、子どもたち

に伝えたいことを分かりやすく紹介している。A5判フルカラーで全30頁。「アユの人生ゲーム」は、稚魚になって一生を疑似体験できる小学校中学年向けの教材。すくすくの駒を進

め、ポイントを稼ぎながらゴールを目指す。道中には難易度に応じてポイントを獲得できる選択式のクイズも用意されている。

同ゲーム作りに取り組んだ福井若菜さん(18)は「小学生に内容を理解してもら

えるように、ふりがなを付けるなどの工夫をした。地元の魅力を学んでもらいたい」と話す。村岡区の小学生を対象に体験会を行った西谷奈純さん(18)は「クイズの内容をメモする児童などもいて、ちゃんと学んでくれているんだと思う、うれしかった」と笑顔で話していた。

(前田一樹)

日本海新聞

村岡  
0796  
98-1010

## 棚田が地滑り防止に

### 豊岡土改センター 村高生に保全の大切さPR

棚田が持つ地滑り防止機能について、但馬県民局の豊岡土改センターは、村岡高(香美町村岡区)で出前授業を行った。生徒らは耕作放棄地が地滑りの原因になることを学び、棚田の保全活動について理解を深めた。

(竹内道子)

同センターによると、但馬の松岡界隈(39)が農馬地域の地滑りの危険箇所。作業が行われている棚田での面積は、農全体の4割を占める。耕作放棄地の増加により、地滑りが発生しやすくなること、保全活動の重要性を説明した。

生徒らは「アユ」などの「かわの恋」が収穫される。この日は同校の1年生20人が参加。同センターで、地下水の水を下げるために同センターが設置し



地すべり対策として設置された集水井を見学する生徒ら。香美町村岡区板仕野。

た集水井や水路などを見学した。同地区の棚田は、耕作放棄地となっており、今後増加する可能性も懸念される。

同校では総合学習の一環として、同区内の棚田で米栽培

# 能力引き出す心理学ぶ 村岡高 川谷さんが講演



自分の潜在能力を引き出す方法を説明する川谷さん。香美町村岡区の村岡高。

アスリートへのメンタル面の指導を行う会社代表、川谷潤太さん(39)＝尼崎市＝の講演会が、香美町村岡区の村岡高で開かれた。生徒らは、自分の能力を引き出すのにメンタルが重要な役割を果たすことなどを学んだ。

講演は、スポーツの価値や国際社会への理解を深めることを目的とした、県の「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント展開事業」の一環。この日は全校生徒149人が参加した。

川谷さんは、脳科学や心理学などをベースに教育団体などへの講演会や、プロ野球選手などへのメンタル指導を行っている。岡山県の創志学園高で運動部のマネジメントを担当し、硬式野球部の3季連続の甲子園出場を後押しした実績もある。

講演では川谷さんが、人間の脳は意識したことを記憶し、その情報を基に自分自身が作られていくと説明。自

分の苦手なことばかりに意識を向けず、得意分野を見つけて伸ばし自信をつけることで、試合などで最大限の力を発揮できると強調した。

川谷さんの明るく前向きな講演に、生徒たちは反応を示しながら聞き入っていた。フルマラソン完走が目標の同校3年、南垣斗磨さん(18)は「『ぶきぬ』というイメージを持って、目標に挑戦し続けたい」と目を輝かせた。(竹内源子)

# 日本海新聞

# 文化祭の演劇作りへ

## 村岡高生、芸文観光大で授業

香美町村岡区村岡の村岡高(牧野徹校長)の生徒が6日、県立芸術文化観光専門職大(豊岡市山王町)を訪れ、演劇的手法を用いた授業を受けた。同大の教員から、9月の文化祭で披露する演劇の作り方を学んだ。(井上雅大)



村岡高の生徒に演劇の作り方を指導する河村助教(中央) 6日、豊岡市山王町の県立芸術文化観光専門職大

同大の地域振興拠点「地域リサーチ&イノベーションセンター」が、但馬地域の全高校で取り進むコミュニケーション授業の一環。授業内容は各校の要望に応じて決まる。

村岡高では毎年、文化祭で全クラスが演劇を披露しており、脚本作りや配役なども生徒が主体となって取り組んでいる。この日は、生徒会に所属する2、3年生12人が参加。同大職員の案内でキャンパス内を見学した後、河村竜也助教(41)の授業に臨んだ。

河村助教は演劇を作るポイントとして、チームで協力することの大切さを指摘。「チームで同じイメージを共有しないと、どこかで破綻してしまう」と強調した。

村岡高の生徒は即興劇にも取り組んだ。3年生で生徒会長の田尻響さん(18)は「とても楽しみにしてきた。表現や気持ちの作り方などを文化祭に生かしたい」と意気込んだ。



# 座ってできる南中ソーラン 楽しく踊って介護予防

村岡高生 高齢者に振り付け指導

香美町村岡区の村岡老人福祉センターで19日、高齢者介護予防のための体操講習会が開かれた。同町のシニアダンスサークルの指導者が、高齢者に振り付けを教える。一緒に踊って交流を深めた。



左右で違う手と足を前に出す振り付けを教わる参加者ら＝19日、香美町村岡区の村岡老人福祉センター

講習会では、村岡高生16人が、同町の元気体操サークルの参加者24人に、南中ソーランの振り付けを指導。踊りには介護予防の要素が取り入れられており、左右違う手と足を動かすことで、頭の体操にもなる。など、二つ一つの動作を解説した。

参加者らは、生徒に細かい動作を教えるも、いながら村岡高生らから体操を学んだ。同町香中ソーランを披露している。2019年に、地域の高齢者から「一緒に踊りたい」という声を受け、同校の生徒が昨年、高齢者がいすに座りながら楽しめる南中ソーランの振り付けを考えた。

## 日本海新聞

(竹内涼子)



水に浮かぶ和紙「和雲」をうっとり眺める生徒ら＝20日、香美町村岡区川会の長楽寺

# 水面に浮かぶ 和紙の明かり

村岡高生がライトアップ

長楽寺

水に浮かぶ立体の和紙の中に発光ダイオード(LED)を置いた「和雲」のライトアップが20日、香美町村岡区川会の長楽寺で行われた。同町の村岡高生が柔らかな光を放つ和紙のライトを水に浮かべて眺め、癒やしのひとときを過ごした。

同区の長須地区に伝わる射添和紙の復活に取り組む「紙処ながす」の本多秋香さん(43)が、村岡高の紙すき班の協力を受けて毎年実施。和雲は和紙に特殊なろうを塗り、水をはじいて水面に浮かぶように工夫されている。

会場には、和雲約60個の他、長須地区の小学生や高齢者らが作った和紙の灯籠も約20基設置された。生徒らは、水に反射する光に包まれた会場の中で、写真を撮ったり、顔を近づけたりしながら、幻想的な雰囲気を楽しんだ。

今年から紙すき班に入り、初めてライトアップに参加した同校2年の宮脇隼さんは「きれいで、見ているだけで心が落ち着く」と、うっとり眺めていた。

(竹内涼子)



# 心を癒やして

## 高齢者に花をプレゼント

20日の敬老の日を前に、野徹校長の生徒が17日、香美町岡区の村岡高(牧)同区内に住む1人暮らしの

1人暮らしの高齢者に花のプランターを届ける生徒 =17日、香美町村岡区村岡

高齢者らに自分たちが育てた花のプランターをプレゼントした。生徒は緊張した様子で花を手渡し、高齢者との交流を楽しんだ。

同校の地域探究学習の一環で、地域福祉班の生徒による活動。新型コロナウイルスの影響で地域の高齢者との交流の機会が減る中、花で心を癒やしてもらおうと昨年からはじめた。6月にポット苗を植え、夏休みも分担して水やりをするなどして大切に育てた。

この日は生徒17人が、マリーゴールドやニチニチソウなどのプランターを持って、地図を見ながら訪問した。同区内の特別養護老人ホームむらおかこがし園などの福祉施設や、1人暮らしの高齢者の自宅約30軒を回って花を手渡した。

同区内の小谷博さん(87)は生徒の姿を見ると顔をほ

ころばせ、笑顔で受け取った。「花が好きなのでとてもうれしい。本当にありがたい」と何度も感謝の言葉を伝えた。

活動に参加した3年生の仲井優人さん(17)は「自分たちが育てた花で、元気になってもらえればうれしいと話した。(竹内涼子)

# 日本海新聞

村岡 専売所通信部 ☎(0796)98-1010

# 勇気振り絞って

## 村岡高生 懸垂下降で心身鍛錬

香美町村岡区の村岡高(牧野徹校長)の生徒が8日、同町村岡区川会の長楽寺橋から40mの高さをロープで下りる懸垂下降に挑戦。3年生の指導を受けながら1年生10人が果敢に挑み、心身を鍛え上げた。



懸垂下降に果敢に挑む村岡高生 = 8日、香美町村岡区川会の長楽寺橋

とを狙いとする冒険教育の一環。10月25日の授業で、同町小代区新屋の尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」の講師から安全器具の装着方法などを学んだ3

年生が、この日初めて挑戦する1年生に指導した。

1年生は、ハーネスの装着や降りるスピードの調節方法などを教わりながら橋の欄干に立った。見晴らしの良さに足がすくむ生徒もいたが、勇気を振り絞りゆっくりと降下した。最初は緊張していた生徒も回数を重ねることに慣れ、すがすがしい笑顔を見せた。

1年生の和田春幸さん(16)は「3年生が安全に装置を取り付けてくれたので緊張が解け、楽しく体験できた」と話した。(竹内涼子)



村岡 専売所通信部 ☎0796 98-1010



# 地域振興へ理解深め 村岡高生が 意見交換



区長の質問に答える村岡高生(手前)＝香美町村岡区の村岡高

香美町村岡区の村岡高(牧野徹校長)で9日、同校生徒と同地区区長との意見交換会が初めて開かれた。区長は高校生の活動を参考にし、地域振興や課題解決につながるヒントを探った。

同校の1〜3年生6人が参加。同協議会のメンバーから「地域の印象は」と質問を受け、姫路市出身の生徒は「すれ違っ人が、あいさつしてくれる温かい地域だと感じる」と答えた。

3年生の鉄屋仁さん(18)は「話し合いを重ね、私たち若者も積極的に地域振興に関わっていかねばならない」と思ったと話した。岸本会長(69)は「高校生が地域のことを深く考えてくれていると分かり、頼もしく感じた。これから生徒さんと話し合う機会を増やしていきたい」と力を込めた。(竹内涼子)

総合学習の一環で、棚田

**日本海新聞**

# 村岡除雪隊、今年も出動 若い力で一気に



防火水槽に積もった雪をスコップで排水路に運ぶ村岡高生＝10日、香美町村岡区板仕野

香美町村岡区の村岡高(牧野徹校長)の生徒有志でつくる「村岡除雪隊」が10日、同区板仕野で活動した。スコップやスノーダンプを使って手際よく雪をかき、歩道などの安全を確保した。10年以上からの取り組み。1月下旬〜2月上旬、独居老人が住む地区からの要望に応じ、出向いて除雪している。この日は同校野

球部や卓球部などに所属する1、2年生21人が、積雪量約1以上の同地区で作業に励んだ。水分を含む雪に悪戦苦闘しながらも、互いに声を掛け合った。1時間ほどで作業を終え、雪に覆われた防火水槽なども姿を現した。同地区の岡田政和区長(69)は「住民が交代しながら雪かきをしているが、追

いつか困っていた。地域のためにこうして力になってくれる生徒がいることが本当に頼もしい」と感謝していた。同校2年生で生徒会長を務める田中遼さん(17)は「活動を後輩にも引き継ぎ、村岡高の力で地域の雪に関する困り事を解決していきたい」と額の汗を拭いた。(竹内涼子)

# 日本海新聞

村岡 専売所通信部  
☎(0796)98-1010

## 1 目的

- (1) 高校生のグローバルな社会課題等への関心を高め、コミュニケーション能力や課題発見能力、問題解決能力の向上を図る。
- (2) 持続可能な社会の担い手になるため、SDGsを基にして、地球市民としての在り方や生き方を、高校生が考えるきっかけとする。
- (3) 開発教育や課題研究に取り組む高校と大学、国際機関との交流を促進し、ネットワークの形成を図り、教育内容の充実を図る。

2 主催兵庫県教育委員会、WHO神戸センター（WKC）

3 幹事校 兵庫県立兵庫高等学校

4 実施方法オンライン開催（参加者は各校より参加）

5 内容当日のオンラインイベントと課題研究発表動画のWeb公開

(1) オンラインイベント（令和4年2月11日（金）13：00～15：40）参加 2年生4名

(2) 研究成果発表動画のWeb公開（令和4年2月14日（月）～）

- ①「村高後地域元気化プロジェクト（総合的な探究の時間）」環境A班（棚田保全）の取り組み
- ②「村高後地域元気化プロジェクト（総合的な探究の時間）」環境B班（森の健康診断）の取り組み
- ③「村高後地域元気化プロジェクト（総合的な探究の時間）」紙漉き班の取り組み
- ④「村高後地域元気化プロジェクト（総合的な探究の時間）」集落調査班（集落魅力発信プロジェクト）の取り組み





兵庫県立生野高等学校 地域との協働による高等学校教育改革推進事業  
令和3年度 第3回 但馬地区高校生フォーラム実施要項

1 目的

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 地域魅力化型」指定校としての本校の完成年度の取組を広く公開するとともに、但馬地区の高校生の探究活動・課題研究の取組発表等を通して、知見を高める交流を図る。

2 日時 令和4年2月11日(金・祝) 13:00~15:50

3 場所 生野メインホール 朝来市生野町口銀谷 594 番地 6

4 日程

13:00~13:45	受付 (13:00開場) ポスターはこの間自由にご覧いただけます。
13:50~14:00	開会行事
14:00~14:45	プレゼンテーション
14:55~15:35	パネルディスカッション
15:35~15:50	閉会行事

5 参加内容

(1) プレゼンテーション

地域ストドアスポーツ類型アウトドアスポーツ系 森本裕太 (3年生)  
「地域活性化のための村高元気体操~南中ソーラン編~」

(2) パネルディスカッション

地域ストドアスポーツ類型地域創造系 鉄屋 仁 (3年生)





## ヒーローインタビュー

村高フォーラム 2021 年にて開催が決定したものです。インタビューを行うのは校長牧野、インタビューを受けるのは村岡高校の各年度の卒業生 2 人オンラインにて行っています。インタビュー対象者 2 人以外にも、ゲストとして他の年度の卒業生や大学の教授等も参加しています。インタビュー内容としては、各卒業生の頑張ったことや苦労したこと、現在の目標や夢などについて 30 分から 1 時間ほどで会話していきます。開催頻度は 2021 年 11 月から毎月 1 回、2022 年 3 月現在では 5 回開催しております。このヒーローインタビューを通して、卒業生が実際に経験した生の話が聞けることで、村岡高校と卒業生の関係を深めること等に繋がっています。



## その他の取り組み

- 1 ・令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定校とのオンライン意見交換会 11月29日（月）  
・令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット 1月20日（木）
- 2 「地域みらい留学」への参加  
【主催】（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム、内閣府、地域みらい留学推進協議会  
【共催】島根県教育委員会、【共催】総務省、文部科学省 【協力】日本財団  
◎登録料（88万円）については香美町の高等学校魅力化支援事業（年間150万）より支出

「地域みらい留学」とは

都道府県の枠を超えて、社会課題の先進地である地域の学校に入学し立場や世代を超えた多様な人々と充実した3年間を過ごすことを目的とした事業。

都市圏をはじめとする多様な地域から生徒が入学することで以下の点で期待できる。

- ・地元の高校存続の観点で、定員数を担保することが可能になる。
- ・地元の高校生にとって、地元の高校が多様性のある魅力的な選択肢となる。

- ・「地域みらい留学フェスタ2021オンライン」にて中学生、保護者への説明会を実施。  
合計6回（6/5・6、6/26・27、8/28・29）下宿生と共に本校のプレゼンテーションと質問に答える。中学生と保護者の参加者延べ239名
- 3 オープン・ハイスクールの開催  
兵庫県の公立中学校、スキー部の西日本大会等に出場している中学校へ学校パンフレット、全国募集ポスターおよびオープン・ハイスクール案内を送付している。
  - ①オープン・ハイスクール1回目 令和3年7月31日（土） 参加生徒58名  
生徒による学校紹介、授業体験、部活動見学、進路相談会、下宿見学等を実施
  - ②オープン・ハイスクール2回目 令和3年10月9日（土） 参加生徒8名  
総合的な探究の時間・地域探求発表会、村高フォーラム見学、アウトドアスポーツ体験  
生徒による学校紹介、進路相談会、下宿見学等を実施
- 4 兵庫県内の公立野外活動施設、アウトドア施設へ全国募集ポスターを配布し掲示依頼する。



## **3 研究開発の内容**

### **(3)運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告**

- ・第1回学校運営連携協議会
- ・第1回コンソーシアム、学校運営連携協議会
- ・第2回運営指導委員会、コンソーシアム、学校運営連携協議会
- ・第3回運営指導委員会、コンソーシアム、学校運営連携協議会、  
第2回学校評議員会



### 3 研究開発の内容

#### (3)運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」  
令和3年度第1回兵庫県立村岡高等学校学校運営指導委員会

- 1 日 時 令和3年6月29日（火） 15：30
- 2 会 場 兵庫県立村岡高等学校 会議室
- 3 議 題 令和3年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」研究開発の進め方について
- 4 送付資料 1)「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」資料  
2) 令和3年度学校経営の重点  
3) 令和3年度学校要覧  
4) 令和2年度学校自己評価
- 5 出席者

高等学校と地域との協働によるコンソーシアム

氏名	所属・職	備考
飯塚知香子	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関
堂阪 博文	兵庫県教育委員会高校教育課指導主事	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
川戸 英明	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学副学長	学識経験者
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

村岡高等学校

事業者	校長	牧野 徹
(司会)	教頭	岡田 厚志
(記録)	事務長	鶴田 宏
地域アウトドアスポーツ類型責任者 総合的な探究の時間総括	教諭	板坂 寿彦
地域創造系責任者	教諭	今井 典夫
アウトドアスポーツ系責任者	教諭	西村 誠

#### 6 議事

- (1) あいさつ 牧野村岡高等学校長 堂坂高校教育課指導主事
- (2) 自己紹介
- (3) 運営指導委員長の選出 ※ 設置要綱第5条  
昨年度に引き続き、委員長 山根俊喜氏、副委員長 横山真弓氏を選出
- (4) 令和2年度活動報告（岡田教頭）

ア 目標値と実績（研究開発実施報告書第1年次〔以下「報告書」と記載。〕）p. 16

※ 実績は、目標値をクリアしている。

イ 目標設定シート（報告書 p. 18 に掲載）

※ この事業は、R2～4年度の3箇年事業であり、来年度で完成となるが、事業終了後も持続可能なものとなるよう継続してもらいたい。生徒、学校、地域の未来を創る事業である。（堂坂指導主事）

(5) 令和3年度の取組について

- ・仮説・計画・実施・評価・改善のサイクルを目指した「総合的な探究の時間」を実践する。
- ・「報告書」p. 81以降に生徒アンケート結果を掲載している。「村岡高校 つけたい能力」（8項目）に関するアンケート回数を増やして、こまめに分析し、生徒の成長度合いを分析し活動に反映させる。

(6) 令和3年度活動計画（板坂教諭）

資料「村岡高校が取り組む地域づくり（2021年度）」により説明

(7) 質疑応答

- ・昨年臨時休業中、コロナ禍での工夫したこと、新しい取組は？  
→地域創造系では、オンライン授業を開始し、プレゼン、Zoomによるグループディスカッションも行えた。  
集落調査は、ターゲットを若者に変更して実施。新しい試みにより良い取組となった。  
今年度は、体操や観光・魅力発信といった分野での動画配信に取り組む。
- ・今の若い人には、日本全体、兵庫県を見るマクロな視点、そして、集落、オンリーワンを見るミクロな視点といった幅の広い視野を持って欲しい。「関係人口」は、外の方との定期的な交流を行う人口群を指す。観光（自然、食、人、レジャースポット等）がキーになる。  
→ 教育活動を達成するには、学校にある資源だけでは、難しい。地域の方を招いての授業では、生徒がモデルにしたいと思うような、地域で頑張っている人、魅力ある大人にスポットを当てている。
- ・香美町3区のうち、香住区よりも村岡区や小代区出身の方が地元に戻りたい者の方が多い。受けてきた教育で、意識の変化が出ているのではないか。
- ・卒業生アンケートについて、分布は分かるが、もう少し踏み込んで、理由を回答させる内容にしてはどうか。
- ・民間会社は、世の中の変化に着いていけなければ、潰れてしまう。一方、地域では、何かやろうとする時、誰かがやってくれると思う者が多く、パワーが感じられない。地域にもパワーとスピード、他にない視点を持つ、変化に耐えられることが必要。
- ・中学生になると、香美町に住みたいと思う子どもの率が下がる。このような状況で、地域を巻き込む村岡高の取組は、町としても有り難い。ふるさとを離れても、地元を応援してくれる人が多くなることを願っている。

(8) 指導助言（高校教育課 堂坂指導主事）

- ・教育コーディネーター不在は、先生方に連絡調整等で多大な時間と労力が掛かっていると思う。早急に対応が必要である。
- ・村岡高は、県下唯一、全国募集している高校である。先生方のPRもあり、他県で、村岡高の名前を知っている人も多いが、これが入学志願者数に繋がっていない。何が課題なのか。
- ・都会から田舎への移住促進パッケージの一つに、学校も含めて考慮される時代である。
- ・この事業は、令和4年度の3年目で完了するが、その後の取組へと繋げていきたい。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」  
令和3年度第1回コンソーシアム連携協議会並びに村岡高等学校学校運営連携協議会

1 日時 令和3年7月19日(月) 15:45

2 会場 本校会議室

3 議題 令和3年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」研究開発の進め方について

4 送付資料 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」資料  
令和3年度学校経営の重点  
令和3年度学校要覧  
令和2年度学校自己評価

5 出席者

(1) コンソーシアム連携協議会

所 属	役職・名前	備 考
兵庫県教育委員会事務局高校教育課	高校教育改革班 指導主事 堂阪博文	
香美町教育委員会事務局教育総務課	副課長 山田貴広	
香美町企画課	副課長 今西勝彦	
兵庫県立村岡高等学校	校 長 牧野 徹	
兵庫県立村岡高等学校同窓会	会 長 西村芳和	
国立大学法人鳥取大学地域学部	教 授 筒井一伸	
NPO 法人 TUKULU (香美町町会議員)	松岡大悟	
民間企業 うづかの森	代 表 西村昌樹	
民間団体 やまもり村岡	代 表 上田 治	

(2) 村岡高等学校運営連携協議会

所 属	役職・名前	備 考
香美町教育委員会事務局教育総務課	副課長 山田貴広	(1)と兼務
地域中学校代表	香美町立村岡中学校 校長 中島保男	
地域小学校代表	// 兎塚小学校 校長 山根成章	
アウトワード・バウンド 協会	尼崎市立美方高原自然の家 「とちのき村」所長 西垣幸造	
香美町若者懇談会顧問	(株)西村工務店 代表取締役社長 西村昌樹	(1)と兼務
香美町民生委員児童委員会	会長 西村 功	
村岡高校同窓会明倫会	会長 西村芳和	(1)と兼務
//	副会長 諏訪信彦	
村岡高校 PTA	会長 西尾高雄	
兵庫県立村岡高等学校	校長 牧野 徹	(1)と兼務

(3) 本校職員

岡田教頭、 鶴田事務長、 類型責任者・総合的な探究の時間総括 板坂教諭、  
アウトドアスポーツ系責任者 西村教諭



## 6 議事

### (1) 開会あいさつ

ア 兵庫県立村岡高等学校 牧野校長      イ 村岡高校同窓会明倫会 西村会長

### (2) 報告 本校 類型責任者 板坂教諭

文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」1年次事業報告  
研究開発実施報告書 p.19 以降により、各授業での実践を報告。

### (3) 今年度の事業計画

配付資料「村岡高校が取り組む地域づくり(2021 年度)」

### (4) 協議

- ・アウトドア体験を通じての気づきや学びを体験者から引き出す活動をしている。村高の生徒がアウトドアスポーツ体験に来るが、印象は、田舎の高校生らしさがいいと感じている。一方で、社会に出て、人中で揉まれる中で自己主張ができるかなと応援したくなる一面もある。
- ・ ① 村岡高校は、生徒を全国募集しているが、学校の魅力をどのように PR しているのか？  
→ 全国募集する「地域みらい留学」に加入し、広報活動。昨年度、今年度は、オンラインでの説明会。  
また、全国募集用のポスターを作成し、効果的は広報活動を検討している。  
兵庫県の全中学校、西日本の近隣のスキー部がある中学校へも資料を送付している。
- ・ ② 卒業生の Uターン(村岡へ帰りたい)、また Iターン(村岡へ行きたい)の状況は、どうか？  
→ 香美町出身者が「コネクション・香美」(通称「コネカ」)というコミュニティを作って活動しています。
- ・村岡高校は、地域で活動し地域が活性化している。ただ、村岡高校の生徒や活動が、地域の人にどれだけ浸透しているか。
- ・3年生の半分以上が、地元外の高校へ進学している。頑張れば頑張るほど、地元に残らず空洞化が起きている。地域アウトドアスポーツ類型について、学習する内容が、進学や就職にどう繋がっているのか PR した方がいいと思う。
- ・ハチ北で空き民宿を所有していたので、村高生へ下宿として提供をしている。今年度、1年生男子2名、女子2名の応募があった。全員元気に登校している。
- ・気に掛けていることは、授業から離れたところで、どれだけ地域と関わっているのかだと思う。
- ・下宿生を地域に紹介するなど工夫している。私生活の中で地域の方と交流できる場面があればいいと思っている。
- ・4年前に香美町の高校を卒業し、大学で他所に出て行った者たちが地元に戻ってきて、「コネクション・香美」という団体をつくらせている。この地域の宝だと思っている。
- ・毎年、志願者数が減ってきている。村岡高校を残すためには、地域との関わりを売り(アピールポイント)にするのがいいとの結論に至った。生徒の全国募集に打って出るには、地域との関わりが強い高校という戦略であった。
- ・地域づくりに必要な要素として、地域、学校、行政などがあるが、村岡高校の場合、条件は全て揃っている。
- ・将来像が描けているのか。保護者のニーズも見据え、生徒募集をしなければならない。
- ・以前、村岡高校の生徒と座談会を行ったことがあるが、ポテンシャルが高い、将来のビジョンをしっかり持っているとの印象を受けた。
- ・学んだことが社会に出て役に立っている者もあると思う。中学生向けの進路説明会で、このような人の声を届けて、村岡高校を PR してもらうのは、どうか。

- ・高校に入って何をやりたいのか、明確な目的を持っている生徒の方が、夢の実現力は高いと思う。
- ・村岡高校と関わって 11 年目になる。生徒は、年々、真面目になってきている。言われたこと、書かれたことは、きちんとできている。しかし、「自分が」という視点が薄れてきている。
- ・高校に受検生を増やすことを求めているとはいけない。生徒数の増には、様々な要素が絡み合っており、高校が単独で解決できる問題ではない。例えば、県外から移住してくる家族がいて、居住先を考える要素として子どもの学校がある。このようなケースは、行政の移住促進施策に関係してくる。
- ・高校が生徒募集のポスターを作っていることに違和感もある。商工会、キー場経営者、地元の住民など、それぞれの視点で作られたポスターがあていい。
- ・R3.4.1、第 5 次となる「過疎地域持続的発展の支援に関する特別措置法」が施行された。過疎地域が、「廃れていく可哀想な地域」から「価値地域、将来にわたって持続させたい地域」へと捉え方が変わった。そして、人材確保、人材育成の点で文部科学省も参画している。
- ・高校の持つ機能は、生徒に学力をつけることが第一義だが、地域にある学校として地域と関わりを持つことも、機能の一つにある。大学にはよくあるが、高校にも附属の研究センター、シンクタンク機関があってもよいと思っている。この会議を発展させ、この役割を持たせてもよいと思う。

#### (5) 指導助言 高校教育課 堂阪指導主事

- ・村岡高校は、地域があるからこそ、カリキュラムに価値が出る、魅力を持つと思っている。
- ・今日、授業参観していて楽しかった。それは、この生徒たちの未来を想像して楽しかったのだと思う。村岡ノットを目の前で実感できた。
- ・文科省指定事業も2年目となった。他県の例として、島根県の隠岐島前高、広島県の大崎海星高、北海道の大空高など公立高で全国募集している学校があるが、共通して言えることは、コンソーシアムが作戦会議になっている。
- ・国の動きとして、文科省が現在の高校普通科を、「普通科」を「学際科学(仮称)」と「地域協働(同)」「文理融合(同)」に、早ければ令和4年春にも再編する動きがある。
- ・村岡高校では、教育コーディネーターが、まだ見つかっていない。先生方が、通常の授業をしながら、魅力化事業に取り組んでいる。今日お集まりの皆さんの人的ネットワークの中で、ふさわしい方がおられたらご紹介ください。

#### (6) 閉会あいさつ 牧野校長

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）  
 令和3年度第2回兵庫県立村岡高等学校運営指導委員会、コンソーシアム会議並びに  
 学校運営連携協議会

- 1 日 時 令和3年10月9日（土） 10：00  
 2 会 場 兵庫県立村岡高等学校  
 3 議 題 令和3年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」  
 研究開発における今後の取組みについて  
 4 資 料 （1）村高フォーラム資料 ア 要項 イ 発表資料  
 （2）アンケート

5 出席者

(1) 運営指導委員

氏名	所属・職名	備考
堂阪 博文	兵庫県教育委員会高校教育課指導主事	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
水垣 清和	香美町企画課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学地域学部学部長	学識経験者
西村 功	香美町民生委員児童委員会会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

(2) コンソーシアム

氏名	機関名	職名
堂阪 博文	兵庫県教育委員会高校教育課指導主事	関係行政機関
山田 貴広	香美町教育委員会教育総務課	副課長
西村 芳和	兵庫県立村岡高等学校同窓会	会 長
筒井 一伸	鳥取大学地域学部	教 授
松岡 大悟	NPO 法人 TUKULU	
西村 昌樹	うづかの森（民間企業）	代 表
上田 治	やまもり村岡（民間団体）	代 表

(3) 村岡高等学校運営連携協議会

氏名	組織・団体	役職
川戸 英明	香美町役場	企画課長
山田 貴広	香美町教育委員会	教育総務副課長
中島 保男	地域中学校代表	村岡中学校長
西村 昌樹	香美町若者懇話会顧問	(株)西村工務店代表取締役社長
西村 功	香美町民生委員児童委員会	会長
山根 俊喜	鳥取大学	副学長
西村 芳和	村岡高校同窓会 明倫会	会長
西尾 高雄	村岡高校PTA	会長

(4) 学校訪問、研修

鳥取県立中央育英高等学校 教諭 西田太郎 教諭 高濱法子  
 兵庫県立淡路三原高等学校 教諭 権田夏美

6 日 程

受付 9：30

- 1 10：00～12：30 総合的な探究の時間、地域探求発表会 参観（体育館）  
 2 13：30～16：00 村高フォーラム 自由参観

## 7 総合的な探究の時間・地域探求発表会、村高フォーラムについてアンケート集約

### (1) 「総合的な探究の時間」各班の取組について

#### ①環境A班(棚田の保全活動、水田の土壌調査)

- ・WS＝共有という目的を学生が、明言できたのはよかった。また、土壌についての講義までが含まれたのは、深化としてよかった。
- ・土壌に調査の範囲が広がるようだが、自然環境との関連性が明らかになればと期待している。
- ・全国の水源等と比較し、この場所がどれだけ魅力的であるかアピールする。  
(保全活動と水田の土壌調査がいかに大切か知りました。)
- ・活動内容の投稿とあわせて、棚田の意義(地すべり防止講義、水田土壌)も併せて投稿してみたいかがでしょうか。また、香美町には、日本の棚田百選がもう一つ「西ヶ岡の棚田」(和佐父)もあります。この棚田は、本当に過疎化・高齢化により棚田がなくなってきています。このことについても、触れていただき、問題定義してほしいと思いました。
- ・鳥取大学の先生方のご講義で知識面の理解を充実させ、付せて意見共有するワークショップやSNS情報発信で生徒が主体的に活動している流れが素敵だと思いました。

#### ②環境B班(森の健康診断、木の駅プロジェクト)

- ・WSで木の駅プロジェクト関連の話し合いをしたと言うことでしょうか？少しWSの位置付けがわからなかったです。
- ・ワークショップで提案されたアイデアが具現化されれば、さらに良いものになると思います。
- ・先日、滋賀の大学で発表されていたが下草の保水力調査に発展できないか。
- ・国内の木を使用し、建築を盛んにするには、ドローン技術も取り入れられたらいいですね。
- ・香美町、特に村岡・小代は本当に山が多いです。しかし、山の管理が全くできていなくて荒れ放題です。ワークショップで話し合った意見を一つでも実現していただき、地域活性化に繋がればうれしいです。
- ・鳥取大学の監修のもと測定を行なうことで、その後に行うワークショップはより現実味のある意見になったと思います。アイディアは興味深かったです。

#### ③食文化班(地元食材を活かした商品開発)

- ・活動を通して生徒が得ている「気づき」と班の目的が少しズレてきているのかもしれませんが、むしろ地元への関心・愛着・フードロスへの関心？
- ・地元のユニークな食材探しも「うまいもん甲子園」を勝ち抜く一つの方法だと思う。
- ・美方大納言に注目してくれた事は大変うれしいです。環境班と協力して、生産量を増やす取り組みを考えてみる事も検討してほしいと思います。
- ・生徒が「自分でできた」と達成感を持てるフォローをなさっているのが素晴らしいと思いました。

#### ④地域福祉班(地域調査と問題解決の提案)

- ・Wフルの山根さんはじめ地域の方々の声かけを実感できたことは、大変よかったと思います。少し活動内容の一体性を考えてもいいかもしれません。
- ・地域には、菊作り名人などがいるので交流を深め、地元ならではの花づくりをしては？
- ・地域に寄り添うことを続けることで、ここでの暮らしを求める若者が増える気がします。
- ・「花の定期便」「放課後子ども教室での活動」等、地域に密着した取り組みは大変素晴らしいと感じました。これからも学校活動以外にも活動の幅を広げて、地域に入って色々参加してほしいと思います。

#### ⑤集落調査班(集落の魅力発見・発信)

- ・現在から未来へのベクトルという視点をプレゼンの中で述べたのは、よかったです。
- ・村岡・小代両区がカバーできた段階で、卒業生の協力も得て「まとめ」をしてみればよいと思う。
- ・地域に寄り添うことを続けることで、ここでの暮らしを求める若者が増える気がします。



- ・若者の目から見える地域の魅力をたくさん見つけて、町内外に情報発信してください。

#### ⑥紙漉き班（射添紙の復活プロジェクト）

- ・小学生を鏡にして生徒自身が、このプロジェクトの意義を感じられたのはよかった。また、SNSでの失敗等先輩の経験を活かしているのは他のプロジェクトに比べて評価できる。
- ・射添紙の起源をはじめて知ったが、より深く調査するとおもしろいことが分かるような気がする。
- ・地域に寄り添うことを続けることで、ここでの暮らしを求める若者が増える気がします。
- ・地元の小学校との紙漉き体験等は、ここでしか経験できない貴重な取り組みだと思えます。地道な活動かもしれませんが、頑張ってもらいたいと思います。
- ・休憩後に紙漉きを体験させてもらい、生徒さんがイキイキと教えてくれて大変嬉しかったです。

#### ⑦民芸班（演舞、和太鼓演奏）

- ・全員で蘇武の山頂からの景色を見て欲しい。何か参考になるはず。・毎回、感激します。演劇舞台にも立ってみては、いかがでしょう。
- ・オープニングにふさわしい演技でした。コロナ禍で披露できる場面がない中、しっかりと練習できており、生で見られて大変感動しました。
- ・オープニングの演舞・和太鼓演奏は圧巻でした。力強い生徒の気持ちが伝わってくるようでした。一体感が素晴らしかったです。地域の伝統を大切に受け継ぐ重要性を再認識しました。

#### ⑧吹奏楽班（訪問演奏、小学校への技術指導）

- ・もう少し人数が増えればと思います。
- ・演奏は素敵でした。さすが、高校生ですね。コロナ禍で訪問演奏、技術指導は難しいかもしれませんが、早く活動できるようになったらいいですね。

### (2) 地域探求・地域学入門（地域創造系・アウトドアスポーツ系）

#### アウトドアスポーツ系

##### ①地域学入門（アウトドアスポーツ体験、スポーツ基礎理論の習得、栄養学）

- ・特色ある取組です。ぜひ、3年間しっかりと勉強していただき、自分の進みたい道を見つけ、後輩たちの模範として頑張ってもらいたいと思います。
- ・コロナウイルスの影響で活動が制限される中、できる活動を楽しむ生徒さんの姿が印象的でした。

##### ②地域スポーツⅠ（WMG2020関西に向けてオリエンテーリングの普及活動）

- ・町が取り組んでいるワールドマスターズを題材にした取組は、今しかできないものです。
- ・まさにアウトドアというイメージで、ダイナミックな活動に驚きました。

##### ③地域スポーツⅡ（介護予防体操による身体機能改善、元気体操DVD作成と普及）

- ・3回もDVDを見てしまいました。80代の人には、難しいかもしれませんが、60代・70代の人にとっては、とても楽しくできる体操だと感じた。
- ・明るいテンポの演奏とあっており、コロナで自宅に居る時間が長くなりフレイル予防には、とても良いと感じた。あとは、きれいなバックを背によいDVDを作ってください。
- ・アウトドアスポーツ系全体を通して、一貫したテーマが見えてこない気がする。
- ・地域の抱えている問題（高齢化）を的確にとらえ、スポーツを通じた健康づくりを進めており、さすがだと感じました。現在の高齢者以外にも、高齢者予備軍（私たち50～60代）を対象にした元気体操もあっていいですね。

#### 地域創造系

##### ①地域学入門（地元の自然・歴史・文化の学習、獣被害、SDGsによる持続可能社会）

- ・地域の抱える課題やこの地域にある資源について、高校生らしい目線で探し出し、3年間頑張ってもらいたいと思います。

- ・地域の専門家から幅広く地域資源と探究の視点を学び、これが3年間の学びのベースになるので、本校の実践でも参考にしたいと思いました。

## ②地域探求Ⅰ（マーケティングを活用した地域づくり、「ヒト・モノ・コトを売り出す」）

- ・「商品開発」に系統的に取り組めないか？
- ・徳島県上勝町の取組みから学び、自分たちができることで地域活性につなげている活動が素晴らしいと思いました。

## ③地域探求Ⅱ（国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性「石碑を巡る香美の旅」）

- ・高校生だけでなく、小中学生・地元の人たちにも参加してもらい幅広い活動にしては？
- ・さすが、3年生。プレゼン資料も発表も安定感抜群でした。動画での石造物の発信楽しみです。
- ・サンプル動画は引き込まれました。各班に分かれて活動中とのことでしたが、班をまたいでの調査や意見交換などを行なうのか気になりました。

## (3) 村高フォーラム2021（①学校概要説明 ②基調報告 ③討論会）

- ・討論会ですが進行は、難しいと感じながら聞いていた。村高出身の方が全国・世界色々な場所で生活しているんだと思いながら、一方で村岡（香美町）を出て気付いたこと、香美町にあって今住んでいる所がないもの、その逆も若い視点で感じることをもう少し聞きたかった。
- ・村岡・小代出身の方は、将来的に地元に戻りたいという思いが色々な場面で感じる事が多くそのような想いで一旦、地元を離れてみる香美町は、どうなのか、より魅力的な町にするには、何が足りないのか等意見発表する時間がもてたらさらに良かったのでは。
- ・全国にいる卒業生と共同できたことを基礎にして、それぞれの地域での取り組みを交流する場づくりができるような気がする。
- ・卒業した生徒がどのように活躍をしているのか、という点を現役が知ることができるのは、非常に意義あることと思いました。ただ出演人数が多く、一人の人の時間制限があり、詳しく話ができなかった点では、改善の余地があると思いました。
- ・午前中からの地域探求発表会からのフォーラムでしたので、生徒たちも後半は少し疲れていたように思いました。
- ・卒業生参加の討論会は、非常に良かったです。やはり、卒業して何十年も経った先輩より、最近まで現役だった先輩の言葉は、今の子供たちにも、響いたと思います。オンラインという事で、少し声が聞こえにくい場面もありましたが、コーディネーターの円滑な進行のもと、とても素晴らしい討論会だったと思います。
- ・学校と地域の×（クロス）な関係のご説明で、地域と学校の関係性が良く理解できました。貴校のような体系的な学習カリキュラムを作り上げるのは時間を要することですが、地域との連携で得られることの大きさを知り、重要性を実感しました。貴重さ機会に参加させていただきありがとうございました。

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」  
 第3回兵庫県立村岡高等学校運営指導委員会、コンソーシアム連携協議会並びに学校運営連携協議会、第2回学校評議員会

- 1 日 時 令和4年3月9日（火）  
 9:40～11:20 総合的な探究の時間発表会  
 11:30～12:45 運営指導委員会・コンソーシアム会議並びに学校運営連携協議会・学校評議員会

2 場 所 兵庫県立村岡高等学校 会議室 美方郡香美町村岡区村岡2931

3 日 程

- (1) 開会  
 (2) 学校長あいさつ  
 (3) 生徒発表  
 ①民芸班 ②紙漉き班 ③環境A班[棚田保全] ④環境B班[森の健康診断]  
 ⑤吹奏楽班 ⑥食文化班 ⑦地域福祉班 ⑧集落調査班  
 (4) 講評  
 ①運営指導委員 ②その他  
 (5) 全体講評[総合的な探究の時間の課題と展望]  
 石山雄貴氏（鳥取大学地域学部人間形成コース 講師）  
 (6) 閉会  
 (7) 今年度の取組みについて総括、協議（11:30～12:45）  
 （運営指導委員、コンソーシアム、学校運営連携協議委員、学校評議員）

4 参加者

(1) 運営指導委員

組織・団体	役職	氏名	備考
兵庫県企画県民部地域創生局	企画参事	飯塚 知香子	(オンライン)
香美町教育委員会	教育総務課長	清水 幸信	(オンライン)
村岡区自治会	会長	西村 功	
入江産業	代表取締役	入江 善博	

(2) コンソーシアム

組織・団体	役職	氏名	備考
香美町教育委員会	教育総務課副課長	山田 貴広	(オンライン)
兵庫県立村岡高等学校同窓会	会長	西村 芳和	
鳥取大学地域学部	教授	筒井 一伸	
うづかの森	代表	西村 昌樹	(オンライン)
やまもり村岡	代表	上田 治	

(3) 運営連携協議会

組織・団体	役職	氏名	備考
香美町教育委員会	教育総務副課長	山田 貴広	コンソーシアム
地域中学校代表	村岡中学校長	中島 保男	
アウトワードバウンド協会	尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」所長	西垣 幸造	
香美町若者懇話会顧問	株式会社西村工務店 代表取締役社長	西村 昌樹	コンソーシアム
香美町民生委員児童委員会	会長	西村 功	運営指導委員

村岡高校同窓会 明倫会	会長	西村 芳和	コンソーシアム
村岡高校同窓会 明倫会	副会長	諏訪 信彦	
村岡高校PTA	会長	西尾 高雄	(オンライン)

#### (4) 学校評議員

役職	氏名	備考
村岡高校同窓会 明倫会	西村 芳和	運営指導委員 学校運営連携協議会
村岡高校同窓会 明倫会	諏訪 信彦	学校運営連携協議会
前年度PTA役員	羽瀧 順子	
地域区長	田中 勲	

## 5 議事

1 あいさつ、今年度の取組について 牧野 徹 学校長

2 協議 今年度の取組、来年度への展望、課題について

(西村昌) コロナ禍で人と接することが控えられ、活動が自粛される中、ICT ツールを駆使し、様々な活動を展開しており、敬意を表します。活用することは大変です。

村高を存続させるには、生徒を広く募集しなければならない、また生徒を一人前の大人にして、親御さんの元へ帰したいと思っています。

(上田) 村高は、いろいろな活動を実践しており、先生方一人一人がものすごい労力を注入しておられると感じています。地域、行政がどうバックアップしていったらいいのか、高校からも要望を出して欲しいです。村高の存続について、地域、町をあげて知恵を出し合いたいと思っています。

(田中) 村高の活動がなぜ入学志願する生徒数に結びつかないか。村高の存続は、学校、地域、PTA など、関係団体が年に何回か話し合う場があってもいいと思います。

(入江) 田舎で事業を始めるのに何が大切か、何もないことはマイナスではなく、何もないから何でもできるとプラスの方向で考えています。そして、躓いても、楽しい方向へ切り替えてみる。

(今西) 地域活動について、地域が求めていることは何なのかを探ってから地域に出向いてはどうか。

発信する側と受け取る側にズレがないか検証することも大切だと思います。

(西村功) 今、町民は、小学校の統廃合に関心を寄せています。しかし、小学校の先に、中学校、高等学校があり、少子化の波は、高等学校にも押し寄せてきます。

(筒井) 学校の存続は、高校単体で考えても仕方がないです。関係人口（特定の地域に継続的に多様な形でかかわる人のこと）を増やそうと考える自治体が出てきています。

この度、兵庫県の新観光戦略に関わることとなりました。これは、兵庫県産業労働部 竹村英樹 部長と村高フォーラムで一緒したのがご縁で、声がかかった。村高の取組を見ている人は、見ていると実感しています。

(飯塚) アウトドアスポーツ類型のカリキュラムで、地域への関わり、地域活性化との繋がりが見えにくいように感じます。地元の自然、スポーツ資源に焦点を当てると、見えてきそうな気がします。

(西垣) とちのき村では、アウトドアスポーツ系生徒を受け入れています。命の大切さを学び、人間力を育てながら、アウトドアスキルをアップさせようとしていると感じています。

地域活性化について、これまで注目されていなかった分野に着目したり、新しい販路を開発する



などして生み出される仕事もあるはずです。

(清水) 先日、ミズノ（株）で取締役副社長や相談役を歴任した香住出身の上治丈太郎さんのお話を聞く機会がありました。香美町は、日本体育大学と「体育・スポーツ振興に関する協定」を結んでいます。スポーツに関連した、いろんなジャンルの進路を考えるのも一つです。

(中島) 今年の中学3年生ですが、村岡中、小代中全員合わせても、村岡高の募集定員に満たないです。進学理由として、ダブルフルウルトラランニングで活躍する村高生の姿、オープン・ハイスクールでの印象、兄弟の様子を挙げています。一方、町外の高校へ進学する理由としては、学習面でよりレベルが高い高校へ行きたい、また部活動で極めたいようです。

ICTを活用したヒーローインタビューを行い、高校と中学校が交流するのもいいです。



## 4 評価・分析

(1)つけたい能力・生徒アンケート

(2)生徒アンケート集計結果

(3)評価・分析

## 4 評価・分析

### (1) つけたい能力・生徒アンケート

村岡高校 つけたい能力

	地域学 入門	地域 探求 I	地域 探求 II	地域 ｽﾎﾟｰﾂ I	地域 ｽﾎﾟｰﾂ II	自己表現 (ｽﾎﾟｰﾂ)	総合的な 探究の時間
①課題発見能力	◎	◎	○	◎	◎		◎
②課題解決能力	○	◎	○	◎	◎		◎
③プレゼンテーション能力	○	◎	○	○	○	◎	○
④新たな価値を創造する能力	◎	◎	○	◎	◎		◎
⑤コミュニケーション能力	○	◎	◎	○	○	◎	◎
⑥議論する能力	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
⑦コーディネート能力	○	○	◎	◎	◎		○
⑧自己表現能力	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

### 生徒アンケート及び評価表(ルーブリック)

#### 自己評価

資質・能力		自己評価	そう思う ← → 思わない				
1	問題発見能力	① 自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	5	4	3	2	1
		② 他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	5	4	3	2	1
		③ 社会情勢をふまえ地域の課題を挙げることができる	5	4	3	2	1
		④ 他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	5	4	3	2	1
2	問題解決能力	⑤ 現状と課題を理解した上で、その解決に向け必要な方法を考えることができる	5	4	3	2	1
		⑥ 他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向け具体的な取り組みを行うことができる	5	4	3	2	1
3	プレゼンテーション能力	⑦ 自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	5	4	3	2	1
		⑧ スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	5	4	3	2	1
		⑨ グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	5	4	3	2	1
4	新たな価値を創造することができる能力	⑩ 失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	5	4	3	2	1
		⑪ これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	5	4	3	2	1
5	コミュニケーション能力	⑫ 自分の考えを伝えることができる	5	4	3	2	1
		⑬ 自分が分からない所を適切に質問することができる	5	4	3	2	1
		⑭ 大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる	5	4	3	2	1
6	議論する能力	⑮ 相手の思いや意見を理解できる	5	4	3	2	1
		⑯ 多様な意見をふまえながら、話し合いにより調整してまとめることができる	5	4	3	2	1
7	コーディネート能力	⑰ 活動が計画通り進むように、方法や役割を工夫することができる	5	4	3	2	1
		⑱ さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	5	4	3	2	1
8	自己表現能力	⑲ 自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	5	4	3	2	1
		⑳ 受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる	5	4	3	2	1
9	地域への関心	㉑ 地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	5	4	3	2	1
		㉒ 将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	5	4	3	2	1
		㉓ 地域の魅力や課題について説明することができる	5	4	3	2	1
10	自身について	㉔ 村岡高校での「地域との協働活動や探求活動」に進んで取り組んでいる	5	4	3	2	1
		㉕ 村岡高校での「地域との協働活動や探究活動」により新たな考え方・スキルが身に付いた	5	4	3	2	1
		㉖ 村岡高校に入学して良かった	5	4	3	2	1

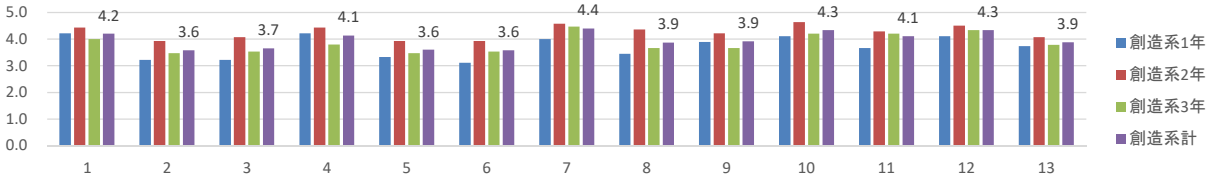
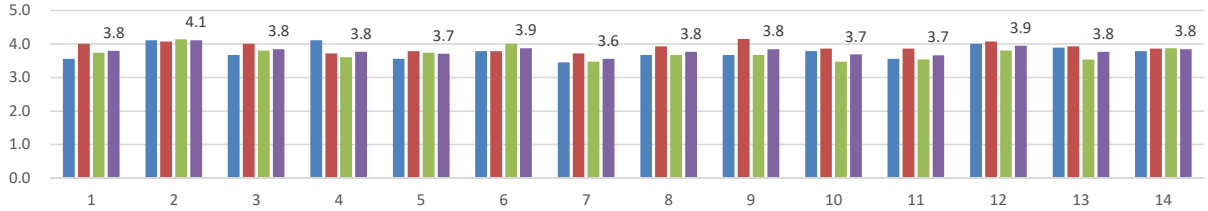
生徒アンケート集計(4月)

資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえて地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向けた必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向けた具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分からない所を適切に質問することができる	大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる
創造系1年	3.6	4.1	3.7	4.1	3.6	3.8	3.4	3.7	3.7	3.8	3.6	4.0	3.9	3.8
創造系2年	4.0	4.1	4.0	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	4.1	3.9	3.9	4.1	3.9	3.9
創造系3年	3.7	4.1	3.8	3.6	3.7	4.0	3.5	3.7	3.7	3.5	3.5	3.8	3.5	3.9
創造系計	3.8	4.1	3.8	3.8	3.7	3.9	3.6	3.8	3.8	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8
スポーツ系1年	3.7	3.6	3.3	3.1	3.6	3.6	3.4	3.0	3.2	3.6	3.2	3.5	3.2	3.4
スポーツ系2年	3.6	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	3.1	3.3	3.7	3.7	3.5	3.6	3.4	3.7
スポーツ系3年	3.5	3.7	3.6	3.4	3.5	3.6	3.2	3.8	3.8	3.4	3.5	3.8	3.6	3.2
スポーツ系計	3.6	3.7	3.5	3.4	3.6	3.6	3.2	3.4	3.6	3.5	3.4	3.7	3.4	3.4
類型全体	3.7	3.9	3.7	3.6	3.6	3.8	3.4	3.6	3.7	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6
普通コース1年	3.4	3.7	3.2	3.4	3.6	3.6	3.0	3.2	3.0	3.0	3.0	3.2	3.1	2.9
普通コース2年	3.7	4.1	3.6	3.6	4.0	3.9	3.3	3.5	3.4	3.4	3.5	3.6	3.2	3.3
普通コース3年	3.5	3.9	3.3	3.3	3.6	3.7	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.7	3.3	3.3
普通コース計	3.5	3.9	3.4	3.4	3.8	3.8	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.2	3.2
全校生	3.6	3.9	3.5	3.5	3.7	3.8	3.3	3.5	3.5	3.4	3.4	3.7	3.4	3.4
創造系1年		3.9			3.7		3.6			3.7		3.9		
創造系2年		3.9			3.8		3.9			3.9		4.0		
創造系3年		3.8			3.9		3.6			3.5		3.7		
創造系計		3.9			3.8		3.7			3.7		3.9		
スポーツ系1年		3.4			3.6		3.2			3.4		3.4		
スポーツ系2年		3.7			3.7		3.4			3.6		3.6		
スポーツ系3年		3.6			3.6		3.6			3.4		3.5		
スポーツ系計		3.6			3.6		3.4			3.5		3.5		
類型全体		3.7			3.7		3.6			3.6		3.7		
普通コース1年		3.4			3.6		3.1			3.0		3.1		
普通コース2年		3.7			4.0		3.4			3.4		3.4		
普通コース3年		3.5			3.7		3.4			3.3		3.4		
普通コース計		3.6			3.8		3.3			3.3		3.3		
全校生		3.6			3.7		3.4			3.4		3.5		

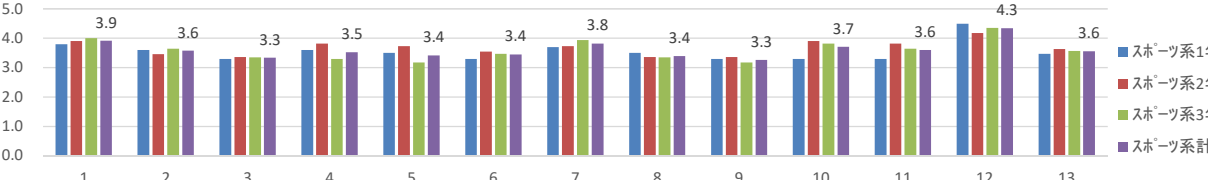
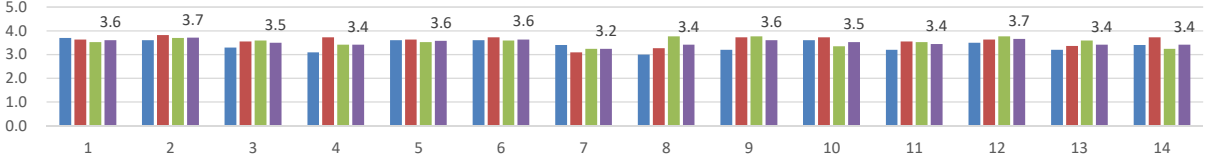
資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまえて話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むように、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合いながら、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる	地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入学して良かった	
創造系1年	4.2	3.2	3.2	4.2	3.3	3.1	4.0	3.4	3.9	4.1	3.7	4.1	3.7
創造系2年	4.4	3.9	4.1	4.4	3.9	3.9	4.6	4.4	4.2	4.6	4.3	4.5	4.1
創造系3年	4.0	3.5	3.5	3.8	3.5	3.5	4.5	3.7	3.7	4.2	4.2	4.3	3.8
創造系計	4.2	3.6	3.7	4.1	3.6	3.6	4.4	3.9	3.9	4.3	4.1	4.3	3.9
スポーツ系1年	3.8	3.6	3.3	3.6	3.5	3.3	3.7	3.5	3.3	3.3	3.3	4.5	3.5
スポーツ系2年	3.9	3.5	3.4	3.8	3.7	3.5	3.7	3.4	3.4	3.9	3.8	4.2	3.6
スポーツ系3年	4.0	3.6	3.4	3.3	3.2	3.5	3.9	3.4	3.2	3.8	3.6	4.4	3.6
スポーツ系計	3.9	3.6	3.3	3.5	3.4	3.4	3.8	3.4	3.3	3.7	3.6	4.3	3.6
類型全体	4.1	3.6	3.5	3.8	3.5	3.5	4.1	3.6	3.6	4.0	3.9	4.3	3.7
普通コース1年	3.7	3.2	3.2	3.8	3.1	3.4	4.2	3.4	3.1	3.7	3.5	4.6	3.4
普通コース2年	4.1	3.7	3.8	3.8	3.5	3.6	4.0	3.5	3.6	3.9	3.9	4.5	3.7
普通コース3年	4.2	3.6	3.5	3.7	3.5	3.7	4.0	3.3	3.5	4.1	4.1	4.5	3.6
普通コース計	4.0	3.5	3.5	3.8	3.4	3.6	4.0	3.4	3.4	3.9	3.9	4.5	3.6
全校生	4.0	3.6	3.5	3.8	3.5	3.5	4.1	3.5	3.5	4.0	3.9	4.4	3.6
創造系1年		3.7		3.7		3.2		3.8			4.0		3.7
創造系2年		4.2		4.3		3.9		4.4			4.5		4.1
創造系3年		3.7		3.7		3.5		3.9			4.2		3.8
創造系計		3.9		3.9		3.6		4.1			4.3		3.9
スポーツ系1年		3.7		3.5		3.4		3.5			3.7		3.5
スポーツ系2年		3.7		3.6		3.6		3.5			4.0		3.6
スポーツ系3年		3.8		3.3		3.3		3.5			3.9		3.6
スポーツ系計		3.8		3.4		3.4		3.5			3.9		3.6
類型全体		3.8		3.7		3.5		3.8			4.1		3.7
普通コース1年		3.4		3.5		3.3		3.6			3.9		3.4
普通コース2年		3.9		3.8		3.6		3.7			4.1		3.7
普通コース3年		3.9		3.6		3.6		3.6			4.2		3.6
普通コース計		3.8		3.6		3.5		3.6			4.1		3.6
全校生		3.8		3.7		3.5		3.7			4.1		3.6



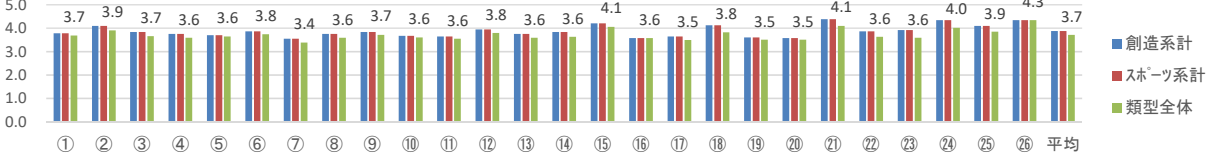
質問別(地域創造系)



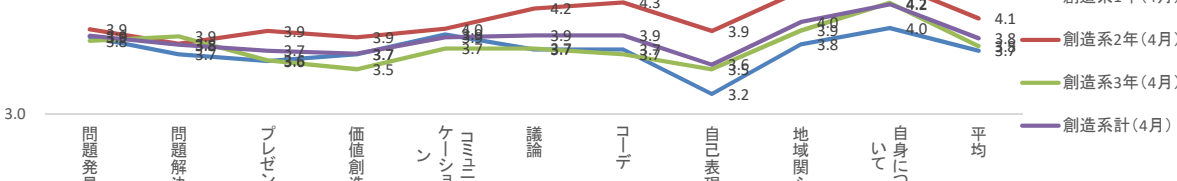
質問別(アウトドアスポーツ系)



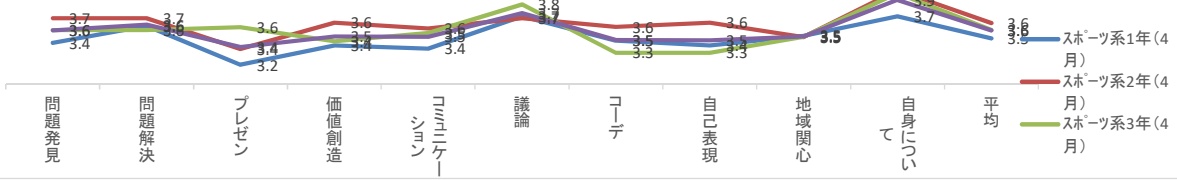
質問別(系別)



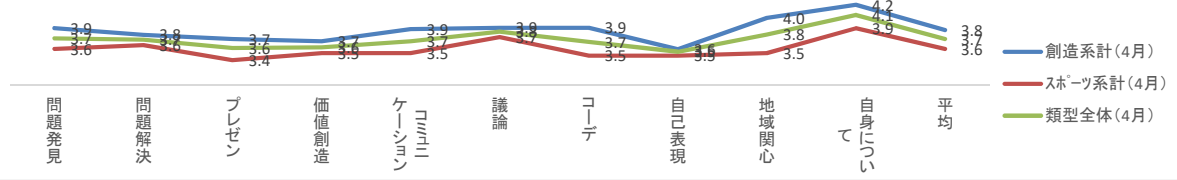
能力・資質別(地域創造系)



能力・資質別(アウトドアスポーツ系)



能力・資質(系比較)

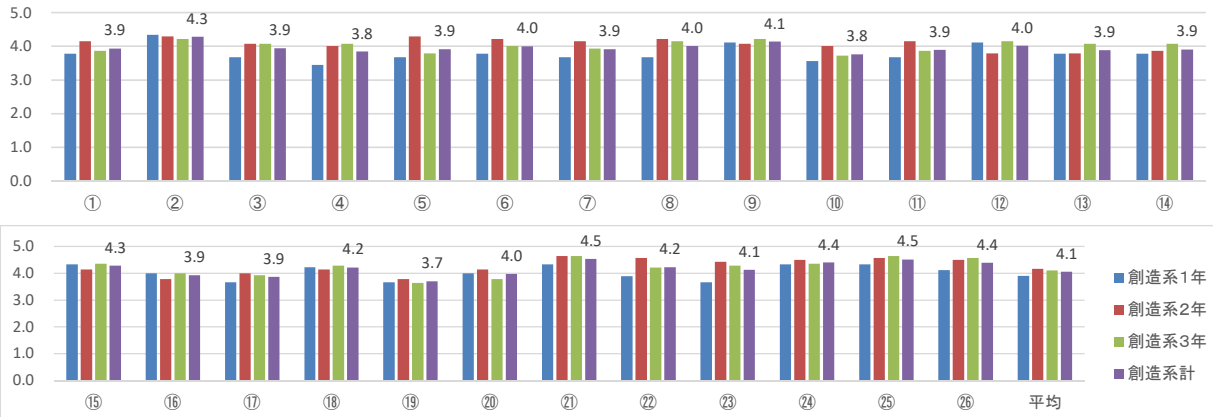


生徒アンケート集計(10月)

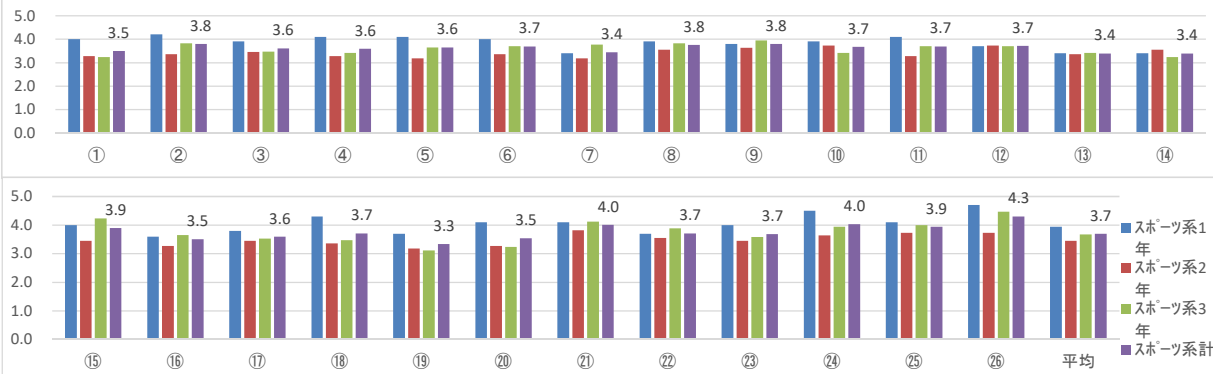
資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえて地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向けた必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向けた具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分から新しい所を適切に質問することができる	大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる
創造系1年	3.8	4.3	3.7	3.4	3.7	3.8	3.7	3.7	4.1	3.6	3.7	4.1	3.8	3.8
創造系2年	4.1	4.3	4.1	4.0	4.3	4.2	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	3.8	3.8	3.9
創造系3年	3.9	4.2	4.1	4.1	3.8	4.0	3.9	4.1	4.2	3.7	3.9	4.1	4.1	4.1
創造系計	3.9	4.3	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9
スポーツ系1年	4.0	4.2	3.9	4.1	4.1	4.0	3.4	3.9	3.8	3.9	4.1	3.7	3.4	3.4
スポーツ系2年	3.3	3.4	3.5	3.3	3.2	3.4	3.2	3.5	3.6	3.7	3.3	3.7	3.4	3.5
スポーツ系3年	3.2	3.8	3.5	3.4	3.6	3.7	3.8	3.8	3.9	3.4	3.7	3.7	3.4	3.2
スポーツ系計	3.5	3.8	3.6	3.6	3.6	3.7	3.4	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.4	3.4
類型全体	3.7	4.0	3.8	3.7	3.8	3.9	3.7	3.9	4.0	3.7	3.8	3.9	3.6	3.6
普通コース1年	3.4	3.8	3.7	3.5	3.7	3.6	3.2	3.2	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6
普通コース2年	3.8	4.0	3.8	3.7	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.4	3.6	3.3	3.6	3.4
普通コース3年	3.8	4.2	4.1	3.9	4.1	4.1	3.8	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.6	3.7
普通コース計	3.7	4.0	3.9	3.7	3.8	3.8	3.5	3.7	3.8	3.6	3.7	3.5	3.5	3.6
全校生	3.7	4.0	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6

資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまえながら、話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むように、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合いながら、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを適切に表現することができる	地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動により成長している	村岡高校に入學して良かった	
創造系1年	4.3	4.0	3.7	4.2	3.7	4.0	4.3	3.9	3.7	4.3	4.3	4.1	3.9
創造系2年	4.1	3.8	4.0	4.1	3.8	4.1	4.6	4.6	4.4	4.5	4.6	4.5	4.2
創造系3年	4.4	4.0	3.9	4.3	3.6	3.8	4.6	4.2	4.3	4.4	4.6	4.6	4.1
創造系計	4.3	3.9	3.9	4.2	3.7	4.0	4.5	4.2	4.1	4.4	4.5	4.4	4.1
スポーツ系1年	4.0	3.6	3.8	4.3	3.7	4.1	4.1	3.7	4.0	4.5	4.1	4.7	3.9
スポーツ系2年	3.5	3.3	3.5	3.4	3.2	3.3	3.8	3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.5
スポーツ系3年	4.2	3.6	3.5	3.5	3.1	3.2	4.1	3.9	3.6	3.9	4.0	4.5	3.7
スポーツ系計	3.9	3.5	3.6	3.7	3.3	3.5	4.0	3.7	3.7	4.0	3.9	4.3	3.7
類型全体	4.1	3.7	3.7	3.9	3.5	3.7	4.3	4.0	3.9	4.2	4.2	4.4	3.9
普通コース1年	4.2	3.5	3.4	3.8	3.4	3.8	4.2	3.7	3.8	4.0	3.7	4.5	3.7
普通コース2年	4.0	3.8	3.6	3.8	3.7	3.8	4.1	3.9	3.6	3.8	3.8	4.5	3.7
普通コース3年	4.3	4.1	4.2	4.1	3.7	4.0	4.3	3.9	3.8	4.1	4.3	4.5	4.0
普通コース計	4.1	3.8	3.7	3.9	3.6	3.9	4.2	3.8	3.7	4.0	3.9	4.5	3.8
全校生	4.1	3.8	3.7	3.9	3.6	3.8	4.2	3.9	3.8	4.1	4.1	4.4	3.8

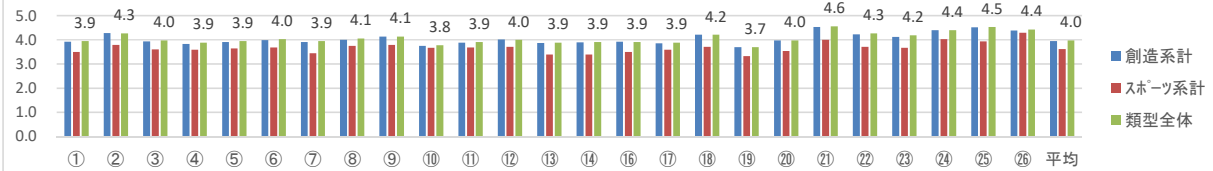
### 質問別(地域創造系)



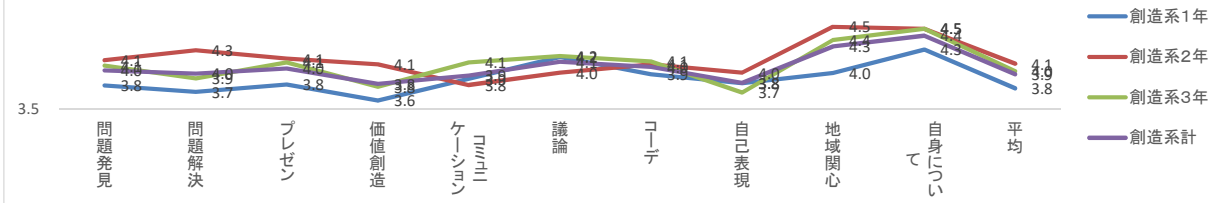
### 質問別(アウトドアスポーツ系)



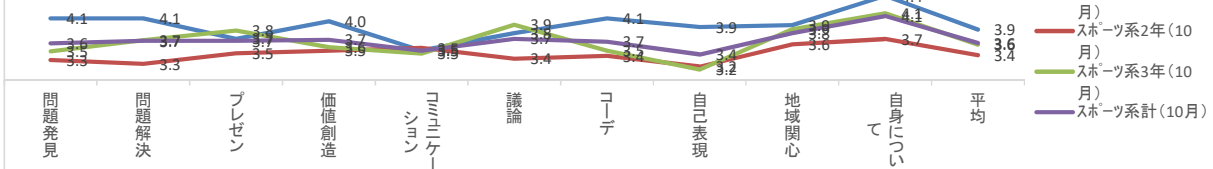
### 質問別(系別)



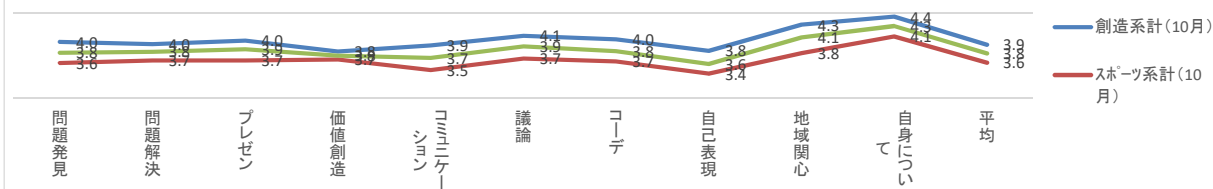
### 能力・資質別(地域創造系)



### 能力・資質別(アウトドアスポーツ系)



### グラフタイトル



資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえた地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向けた必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向けた具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分から分らない所を適切に質問することができる	大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる
民芸班	3.7	3.9	3.5	3.6	3.7	3.9	3.3	3.6	3.7	3.5	3.5	3.8	3.6	3.5
紙漉き班	3.8	4.0	3.8	3.6	3.6	3.6	4.0	4.0	4.4	3.6	3.4	4.0	4.0	3.8
吹奏楽班	3.5	3.9	3.6	3.4	3.9	3.8	3.6	3.6	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3	3.5
食文化班	3.5	3.8	3.5	3.5	3.7	3.7	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.2	3.1
環境A班	3.4	3.7	3.3	3.4	3.4	3.5	3.1	3.4	3.5	3.5	3.1	3.4	3.1	3.4
環境B班	3.7	4.1	3.5	3.4	3.8	3.9	3.3	3.4	3.6	3.3	3.5	3.9	3.4	3.3
地域福祉班	3.8	4.0	3.8	3.6	3.9	3.8	3.4	3.4	3.2	3.4	3.5	3.5	3.3	3.4
集落調査班	3.8	4.3	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5	3.8	4.0	3.5	4.0	4.5	4.3	4.0
民芸班	3.7				3.8		3.5			3.5		3.6		
紙漉き班	3.8				3.6		4.1			3.5		3.9		
吹奏楽班	3.6				3.9		3.5			3.4		3.4		
食文化班	3.6				3.7		3.3			3.3		3.3		
環境A班	3.4				3.4		3.3			3.3		3.3		
環境B班	3.6				3.9		3.4			3.4		3.5		
地域福祉班	3.8				3.8		3.3			3.4		3.4		
集落調査班	3.7				3.5		3.8			3.8		4.3		

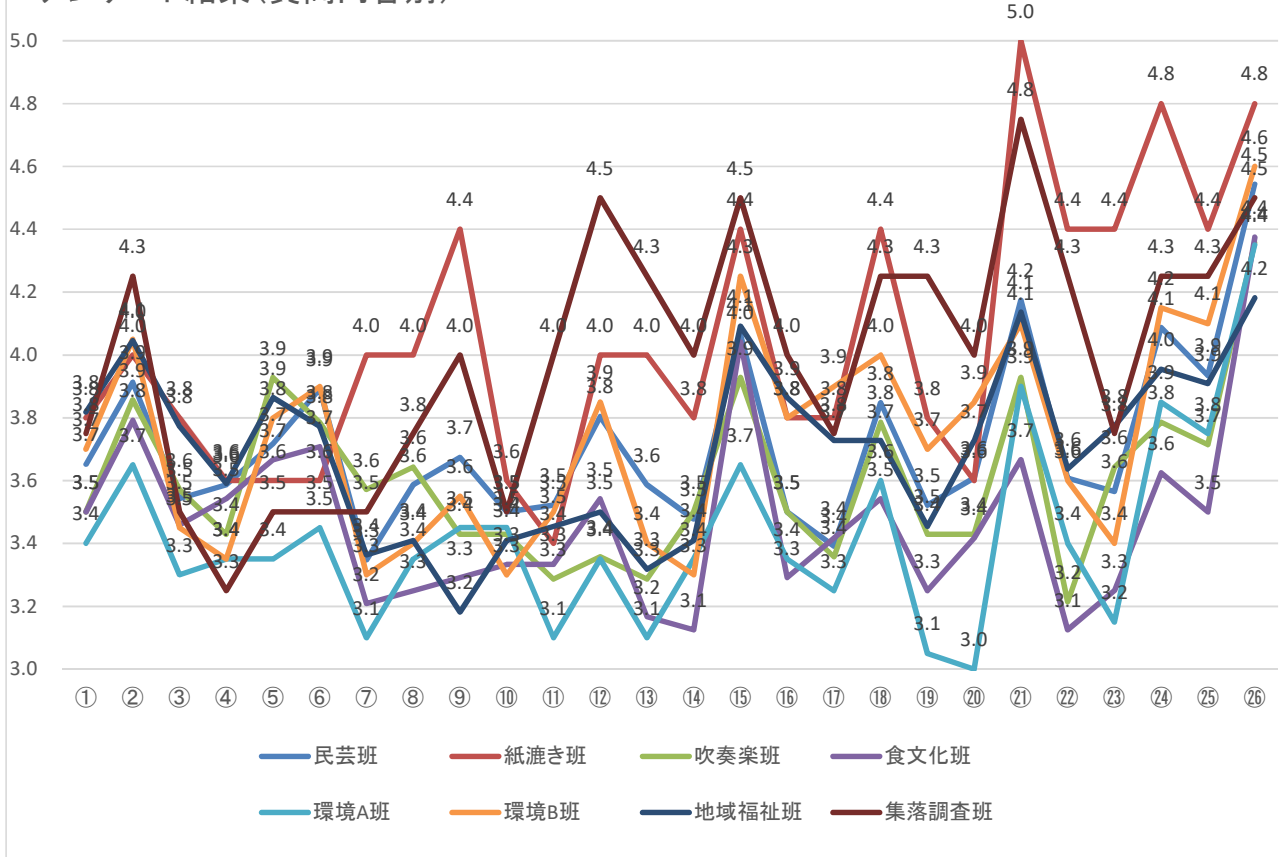
資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまへながら、話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むよう、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな関係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを敵切に表現することができる	地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に積極的に取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入學して良かった	
民芸班	4.1	3.5	3.4	3.8	3.5	3.6	4.2	3.6	3.6	4.1	3.9	4.5	3.7
紙漉き班	4.4	3.8	3.8	4.4	3.8	3.6	5.0	4.4	4.4	4.8	4.4	4.8	4.0
吹奏楽班	3.9	3.5	3.4	3.8	3.4	3.4	3.9	3.2	3.6	3.8	3.7	4.4	3.6
食文化班	4.0	3.3	3.4	3.5	3.3	3.4	3.7	3.1	3.3	3.6	3.5	4.4	3.5
環境A班	3.7	3.4	3.3	3.6	3.1	3.0	3.9	3.4	3.2	3.9	3.8	4.4	3.4
環境B班	4.3	3.8	3.9	4.0	3.7	3.9	4.1	3.6	3.4	4.2	4.1	4.6	3.7
地域福祉班	4.1	3.9	3.7	3.7	3.5	3.7	4.1	3.6	3.8	4.0	3.9	4.2	3.7
集落調査班	4.5	4.0	3.8	4.3	4.3	4.0	4.8	4.3	3.8	4.3	4.3	4.5	4.0
民芸班	3.8		3.6		3.6		3.8			4.2			3.7
紙漉き班	4.1		4.1		3.7		4.6			4.7			4.0
吹奏楽班	3.7		3.6		3.4		3.6			4.0			3.6
食文化班	3.7		3.5		3.3		3.3			3.8			3.5
環境A班	3.5		3.4		3.0		3.5			4.0			3.4
環境B班	4.0		4.0		3.8		3.7			4.3			3.8
地域福祉班	4.0		3.7		3.6		3.8			4.0			3.7
集落調査班	4.3		4.0		4.1		4.3			4.3			4.0



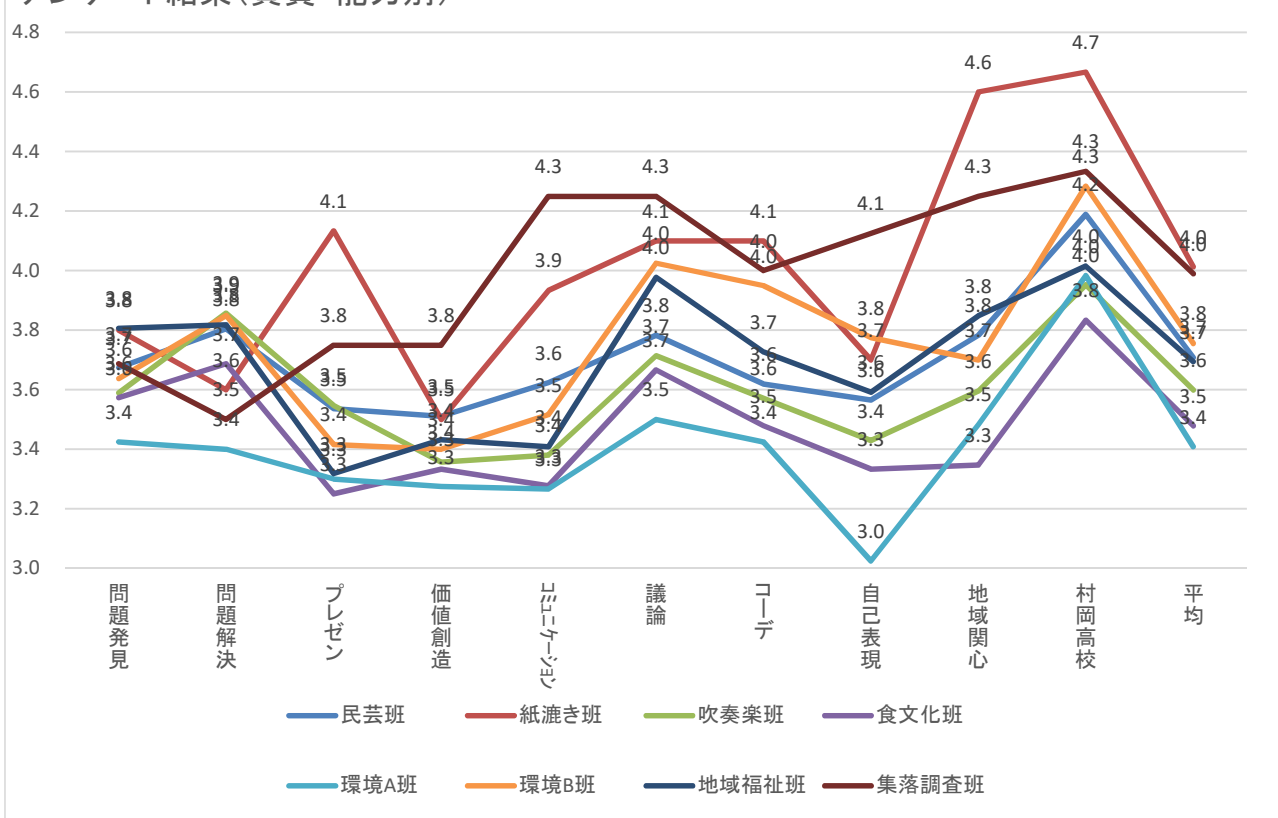
資質・能力	1				2		3			4		5		
	問題発見能力				問題解決能力		プレゼンテーション能力			新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
内容	自ら情報を集め地域の現状に気付くことができる	他者との話し合いのなかで地域の現状に気付くことができる	社会情勢をふまえた地域の課題を挙げることができる	他地域と比較しながら、地域の課題を挙げることができる	現状と課題を理解した上で、その解決に向けて必要な方法を考えることができる	他者と目的意識を共有しながら、課題解決に向けて具体的な取り組みを行うことができる	自分の考えを適切にまとめ、発表することができる	スライドやポスターなどを工夫して作成することができる	グループで話し合った内容を適切にまとめ、発表することができる	失敗を恐れず、新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	これまでのやり方や考え方にとらわれず、より良い方向性を模索することができる	自分の考えを伝えることができる	自分から分らない所を適切に質問することができる	大人(地域住民・講師・教職員)と話し合いを進めることができる
民芸班	3.5	3.9	3.8	3.7	3.8	4.0	3.6	3.8	3.9	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7
紙漉き班	3.6	4.4	4.2	3.8	3.8	4.4	4.4	4.6	4.6	3.8	4.0	4.2	3.8	4.4
吹奏楽班	3.6	4.2	3.6	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9	4.1	3.5	3.8	3.7	3.5	3.5
食文化班	3.8	4.0	3.9	3.7	3.9	3.8	3.5	3.5	3.7	3.6	3.7	3.7	3.4	3.6
環境A班	3.7	4.1	3.8	3.6	3.6	3.7	3.2	3.7	3.8	3.9	3.8	3.6	3.6	3.5
環境B班	3.7	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.5	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.5	3.4
地域福祉班	3.7	4.0	3.9	3.9	3.8	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5
集落調査班	4.0	4.3	3.5	3.5	3.8	3.8	4.3	4.0	4.0	3.5	3.8	3.5	4.3	4.0
民芸班	3.7				3.9		3.8			3.7		3.7		
紙漉き班	4.0				4.1		4.5			3.9		4.1		
吹奏楽班	3.8				3.9		3.9			3.7		3.6		
食文化班	3.9				3.9		3.6			3.6		3.6		
環境A班	3.8				3.6		3.6			3.8		3.6		
環境B班	3.8				3.8		3.8			3.9		3.5		
地域福祉班	3.9				3.7		3.7			3.6		3.6		
集落調査班	3.8				3.8		4.1			3.6		3.9		

資質・能力	6		7		8		9			10			平均
	議論する能力		コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	
内容	相手の思いや意見を理解できる	多様な意見をふまへながら、話し合いにより調整してまとめることができる	活動が計画通り進むよう、方法や役割を工夫することができる	さまざまな人と話し合い、協力するなかで、新たな係性を築いていくことができる	自分が考えていることを、自ら進んで表現することができる	受け手の側を尊重した形で考えを敵切に表現することができる	地域(自分の生まれ育った地域)が好きだ	将来何らかの形で地域(自分の生まれ育った地域)に関わりたい	地域の魅力や課題について説明することができる	村岡高校の地域との協働活動に取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入学して良かった	
民芸班	4.2	3.8	3.7	3.8	3.5	3.6	4.3	4.0	3.8	4.0	4.2	4.5	3.8
紙漉き班	4.8	4.4	4.2	4.6	4.2	4.2	5.0	5.0	4.8	5.0	4.8	4.8	4.4
吹奏楽班	4.2	3.6	3.6	4.1	3.4	3.8	4.6	3.9	3.8	4.1	4.3	4.7	3.9
食文化班	4.0	3.9	3.7	3.9	3.6	3.7	3.8	3.5	3.5	4.0	3.9	4.3	3.8
環境A班	4.0	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	3.7	4.2	3.9	4.1	3.8
環境B班	4.3	3.6	4.1	4.2	3.5	4.0	4.3	3.9	3.9	4.4	4.3	4.6	3.9
地域福祉班	4.1	3.7	3.7	3.9	3.5	3.8	4.4	4.0	4.0	3.9	3.9	4.5	3.8
集落調査班	3.8	3.5	4.0	4.0	3.5	4.3	4.0	4.0	4.3	4.3	4.3	4.3	3.9
民芸班	4.0		3.7		3.5		4.0			4.2			3.8
紙漉き班	4.6		4.4		4.2		4.9			4.9			4.4
吹奏楽班	3.9		3.8		3.6		4.1			4.4			3.9
食文化班	3.9		3.8		3.6		3.6			4.1			3.8
環境A班	3.9		3.8		4.0		3.9			4.0			3.8
環境B班	3.9		4.1		3.7		4.0			4.4			3.9
地域福祉班	3.9		3.8		3.7		4.1			4.1			3.8
集落調査班	3.6		4.0		3.9		4.1			4.3			3.9

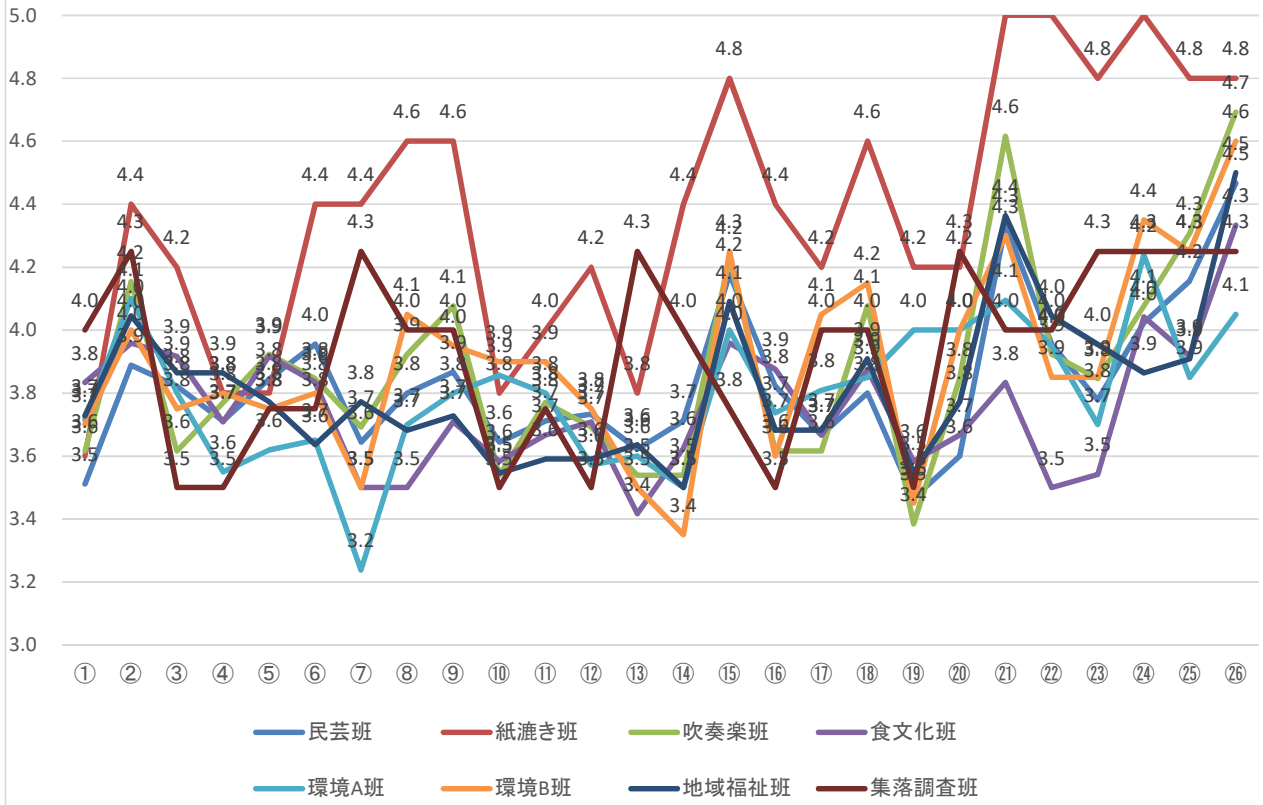
### アンケート結果(質問内容別)



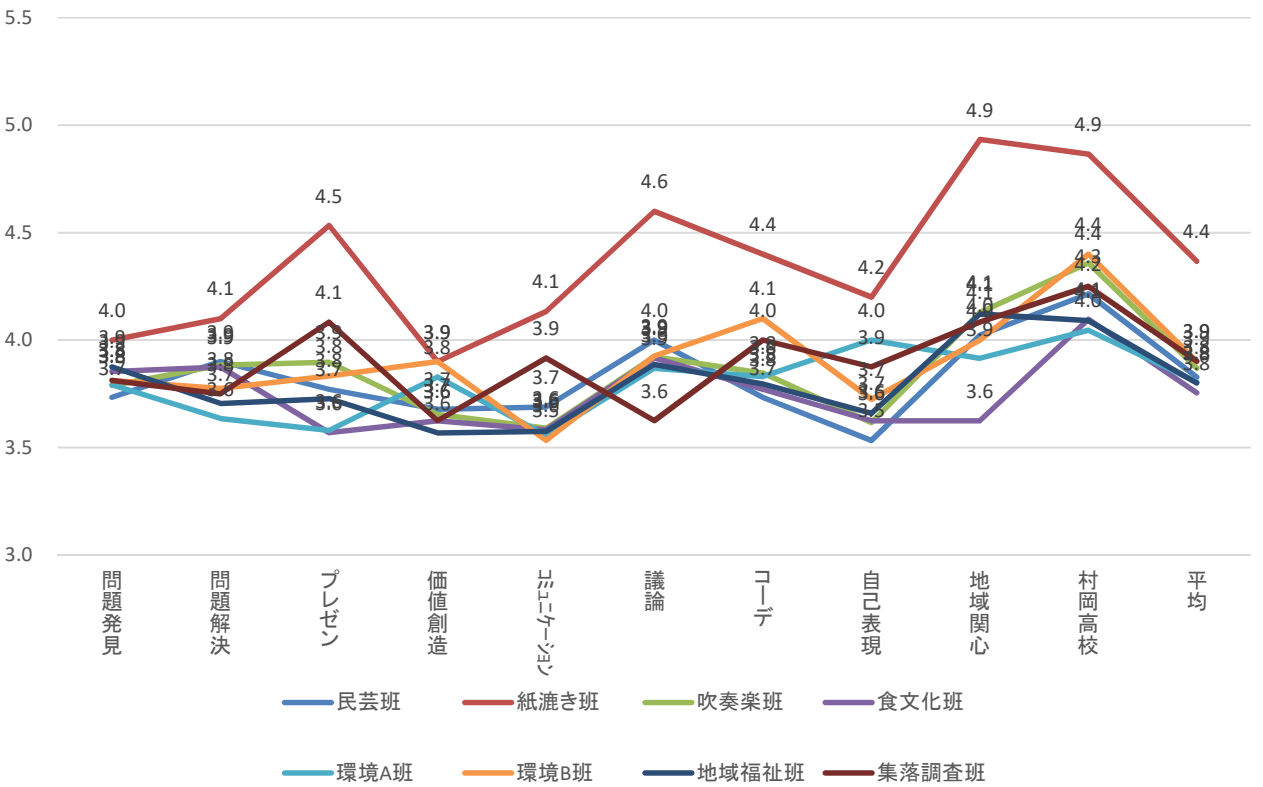
### アンケート結果(資質・能力別)

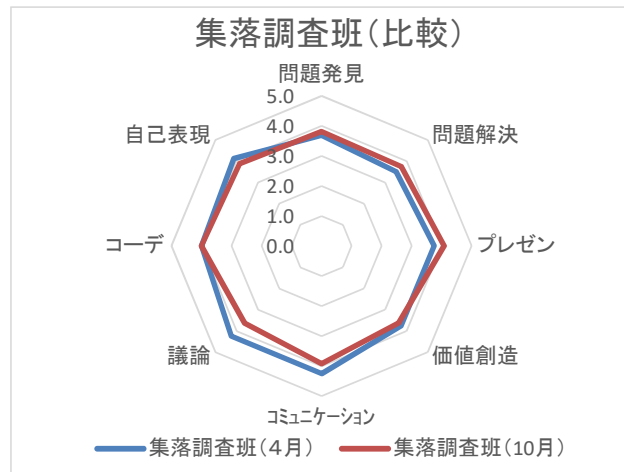
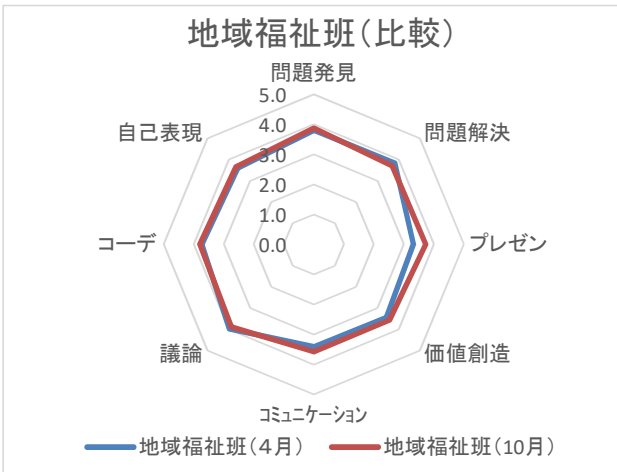
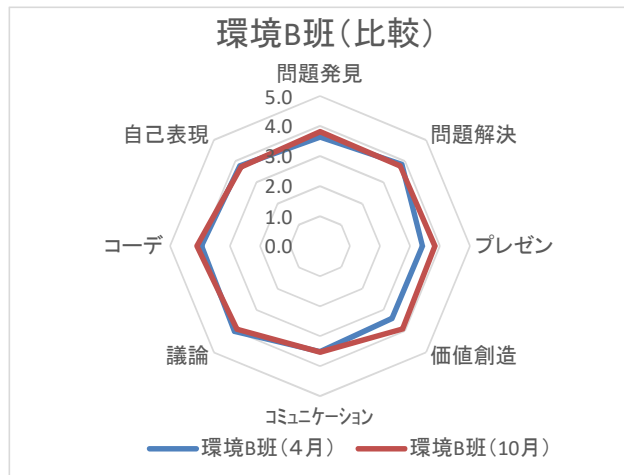
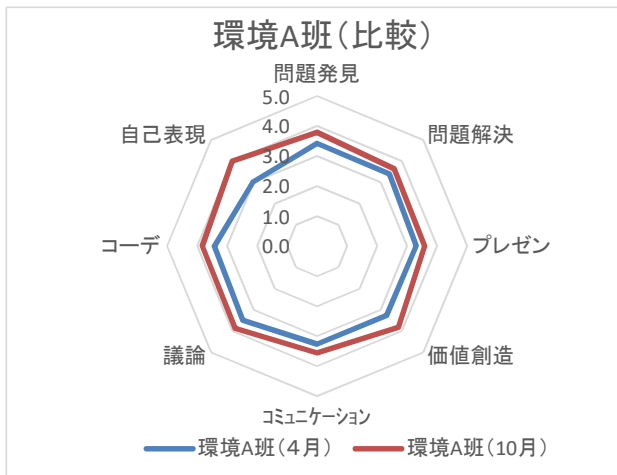
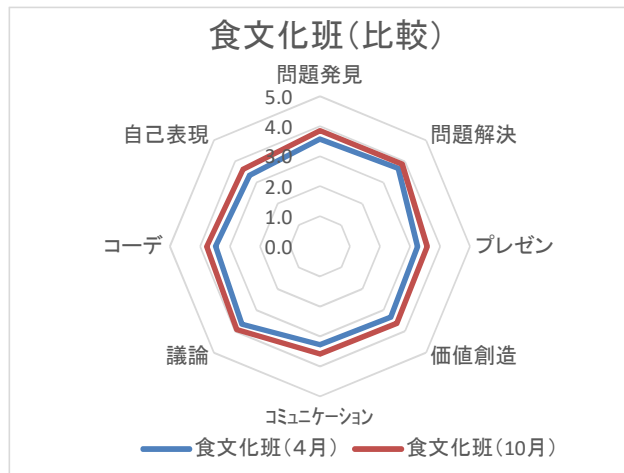
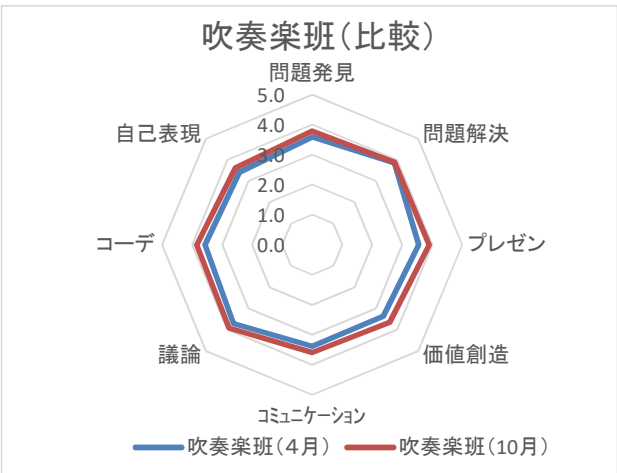
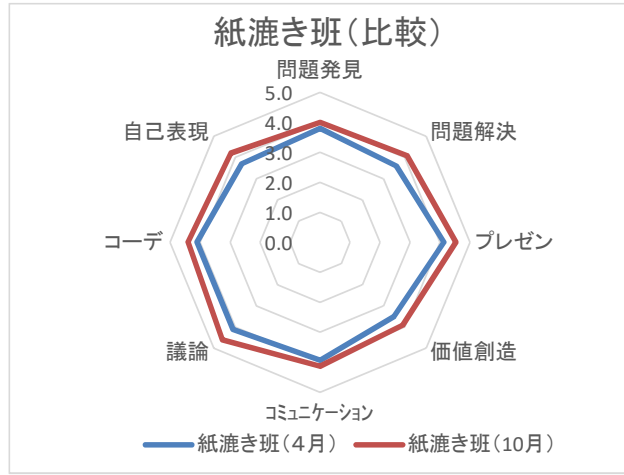
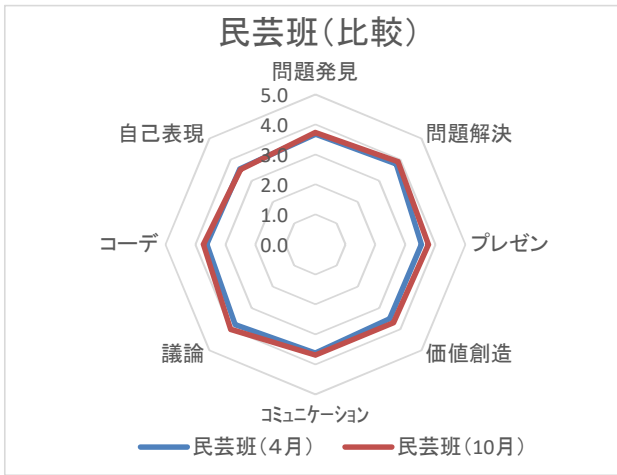


### アンケート結果(質問内容別)



### アンケート結果(資質・能力別)







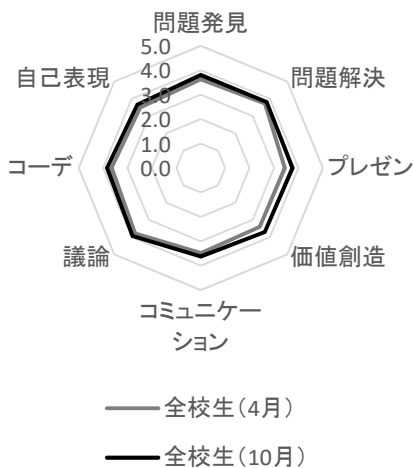
### (3) 評価・分析

2021年4月および10月に実施した生徒アンケート及び評価表(ループリック)を基に『つきたい能力』の到達状況について評価・分析を行った。

#### ①全体

昨年度に続き、本年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域との協働活動が制限された厳しい状況の中での活動であったが、各項目について良好な評価(3.6~3.8)を示している。特に「プレゼンテーション能力」と「新たな価値を創造する能力」の向上が見られた。今後は、制限がある中ではあるが、「コミュニケーション能力」(地域住民と議論する力)の向上へ向けて創意工夫することが重要である。

#### 全体合計



#### ②地域創造系

地域アウトドアスポーツ類型地域創造系では、探究活動に対する取組みの姿勢がす

ばらしく、全体と比較しても高い評価(3.8~4.1)を示している。特に「プレゼンテーション能力」、「自己表現能力」の向上が見られた。今後も継続して取り組みを展開していくことが望まれる。特に「自己表現能力」のさらなる向上が重要である。

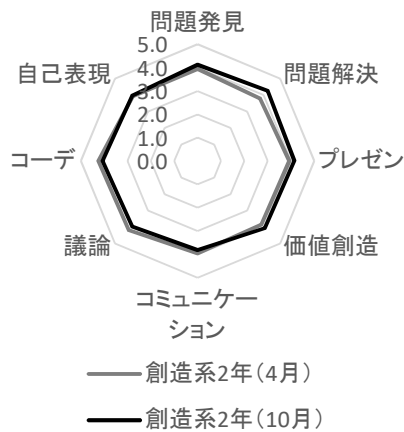
以下、各学年の具体的な評価・分析を示す。

#### 地域創造系1年



地域創造系1年生に関しては、良好な評価(3.6~4.2)を示している。特に「議論する能力」(4.2)と「自己表現力」(3.8)については入学時と比較し、大きく向上している。今後は「新たな価値を創造する能力」(3.8)に重点を置いた取組みが課題である。

## 地域創造系2年



地域創造系2年生に関しては、高い評価(3.8~4.3)を示している。特に「問題解決能力」の向上が著しい。今後は「コミュニケーション能力」(自分の考えていることを伝える力)の向上が課題として挙げられる。グループワーク等に工夫改善が必要である。

## 地域創造系3年



地域創造系3年生に関しては、高い評価(3.7~4.2)を示している。特にプレゼンター

ション能力」(4.0)「議論する能力」(4.2)の向上が著しい。昨年度は他学年と比較して全体として評価が低く(3.4~3.8)、自己肯定感(意識)を課題としていたが、3年次の取組みを通して、大きな成長の跡が表れている。今後の地域協働において実力を発揮していくことが期待される。

## ③アウトドアスポーツ系

地域アウトドアスポーツ類型アウトドアスポーツ系では概ね良好な評価(3.4~3.7)を示している。特に「コーディネート能力」(3.7)については地域協働活動(地域のアウトドアスポーツ体験、オリエンテーリングの普及、介護予防体操の普及等)の中で培われていることを示している。今後も継続して取り組むことが望まれる。

以下、各学年の具体的な評価・分析を示す。

## アウトドアスポーツ系1年



アウトドアスポーツ系1年生に関しては、良好な評価(3.5~4.1)を示している。入学時と比較して評価(意識)の向上が著しい。地域資源を活用したアウトドアスポーツを体験する中で培われるものの大きさを示している。今後は「議論する能力」や「コミュニケーション能力」(地域住民と議論する力)に向上に取り組むことが課題である。

アウトドアスポーツ系2年



アウトドアスポーツ系2年生に関しては、やや低い評価(3.2~3.5)を示している。これは自己肯定感(意識)の低さが表れているように思われる。また新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域協働の場(オリエンテーリング普及)が減少したことや、活動内容の理解不足が起因しているように思われる。再度、活動意義や目的・目標を明確にするための議論が必要である。

アウトドアスポーツ系3年

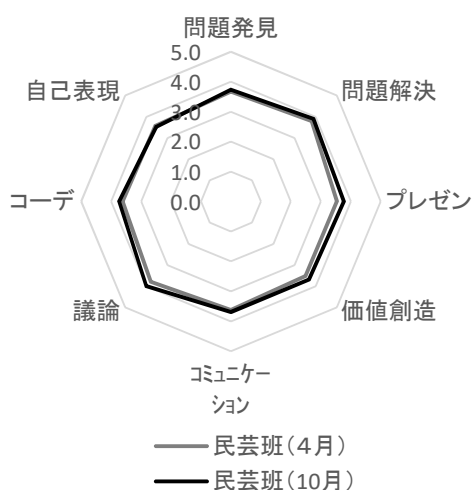


アウトドアスポーツ系3年生に関しては概ね良好な評価(3.2~3.9)を示している。特に介護予防体操創作において「議論する能力」(3.9)培われたことを示している。様々な場面での発表や介護予防体操普及活動を通して、「プレゼンテーション能力」の向上も顕著に表れている。介護予防体操に関しては地域の要望もあり、継続的に取り組むことが求められている。

#### ④総合的な探究の時間

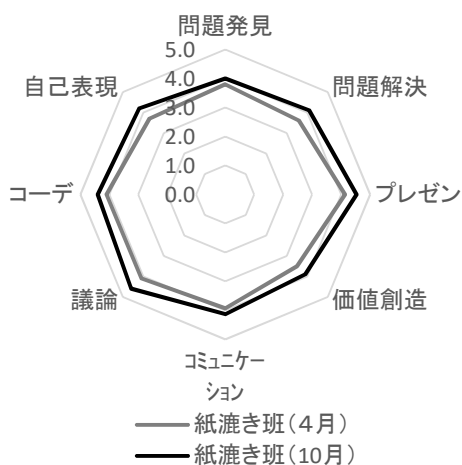
総合的な探究の時間では、各班とも高い評価(3.8~4.4)を示している。

##### 民芸班



民芸班に関しては、良好な評価(3.5~4.0)を示している。特に演舞の練習(ビデオ撮影による確認)や高齢者用の踊りを考案する中で「議論する能力」が培われ、高い評価(4.0)を示している。今後は「自己表現能力」(3.5)の向上における工夫・改善が課題である。

##### 紙漉き班



紙漉き班に関しては、すべての項目に関して高い評価(3.9~4.6)を示している。特に地域の紙漉きの専門家と協働で新商品開発等を行う中で「議論する能力」(4.6)が培われたと考えられる。今後は「新たな価値を創造する能力」(3.9)の向上を求めて、新たな視点を見出すことが課題である。

##### 吹奏楽班



吹奏楽班に関しては、良好な評価(3.6~3.9)を示している。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で校外での演奏が中止となり、厳しい活動状況となったが、演奏活動の工夫を議論したり、個々の演奏技術の向上に向けての議論を活発に行ったことで良好な評価に結びついたと考えられる。

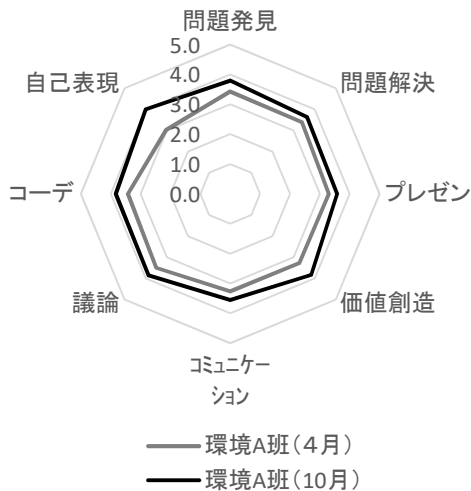


## 食文化班



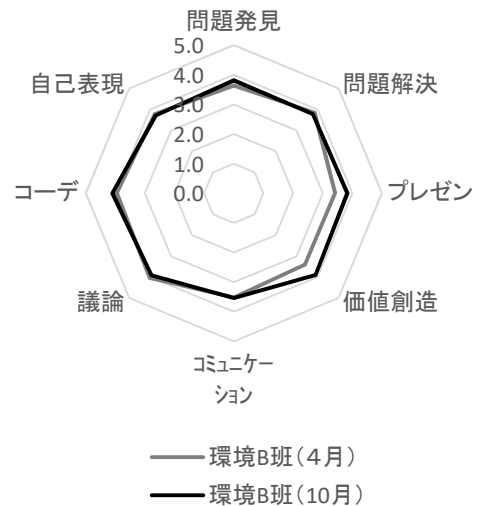
食文化班に関しては、良好な評価(3.6~3.9)を示している。特に地域食材を活用したレシピ等を考案し、実践するなかで「議論する能力」(3.9)が培われ、さらに「問題発見能力」「問題解決能力」(3.9)の向上へ導いたと考えられる。

## 環境A班



環境A班に関しては、良好な評価(3.6~4.0)を示している。4月以降の評価の向上がたいへん大きい。これは従来の棚田保全活動に加え、防災(地すべり)・水田の土壌調査(おいしいお米づくり)等の新たな展開による意識の向上がうかがえる。特に「自己表現能力」の向上は評価に値する。今後も継続して多様なアプローチの必要性を改めて感じた。

## 環境B班



環境B班に関しては、良好な評価(3.5~4.1)を示している。昨年度と比較して全体的に意識の向上が見られる。さらに「森の健康診断」等の調査・分析を通して、環境保全への意識の高まりと、地域との協働による実践的な活動を通して「問題発見能力」や「問題解決能力」の向上へと結び付けていく事が課題である。

## 地域福祉班



地域福祉班に関しては、良好な評価(3.6~3.9)を示している。昨年度と比較して、新型コロナウイルス感染拡大の影響で制約された中での活動であったが、「花の宅配便」や「放課後こども教室のスタッフ」など工夫を凝らして地域協働活動に取り組んだ成果が評価として表れている。しばらくは様々な制約の中での活動となるが創意工夫して取り組むことで「新たな価値を創造する能力」の向上を図ることが課題である。

集落調査班に関しては、良好な評価(3.6~4.1)を示している。昨年度の評価と比較して低くなったのは、今年度、集落調査を再開したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で制約された中での活動となり、思うような聞き取り調査や議論ができなかったのではないかと推測する。今後も制約の中での活動となるが、創意工夫して取り組むことが求められている。さらに集落調査で得た情

報をどのように地域活性に繋げていくのかという議論を大に行うことが重要である。

## 集落調査班



## ⑤地域協働について

全体では新型コロナウイルス感染拡大の影響で制約された中での活動となっているものの、地域協働活動に積極的に取り組んでいるという評価(4.1)が高く、その中で新たな考え方やスキルが身に付き、自分自身が成長しているという評価(4.1)も高くなっており、取組みの継続性が望まれている。さらに制約された中での創意工夫が求められている。

また地域への関心も高く(4.0)、卒業後も継続して取り組むことが期待される。しかしながら、地域の魅力や課題を説明できるという評価(3.8)はやや低く、実践をどう理論化していくのかが今後の課題である。

## 5 その他 関係資料

- ・高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ
- ・令和3年度実施教育課程

# Portfolio of sustainable education and communi

## 高校魅力化評価システム 組織診断レポート

高校名 兵庫県立村岡高等学校  
年度 2021年度

回答者数

生徒・学生	149 (内訳)	1年生	39	2年生	53	3年生	57	4年生	0	5年生	0
(昨年度)	164 (内訳)	1年生	57	2年生	58	3年生	49	4年生	0	5年生	0
大人	39 (内訳)	教職員	22	(昨年度)	大人	26	(内訳)	教職員	15		

【MEMO】  
教育目標、育てたい生徒像など

### Summary 総括表

■今回の結果 (まとめ)

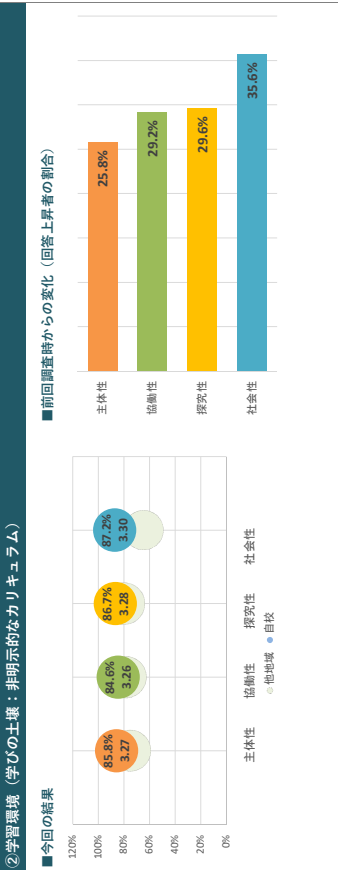
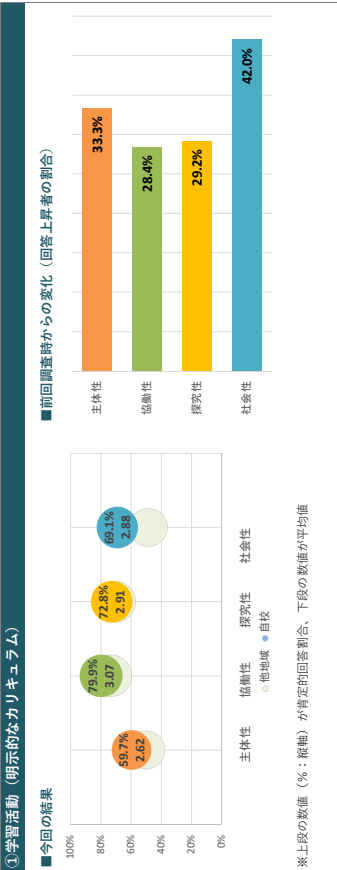
	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	2	3	3	3
② 学習環境	4	4	4	4
③ 生徒の自己認識	3	3	3	3
④ 生徒の行動実績	3	3	3	3

※肯定的回答割合が50%未満→1.00~65%=2.65%~80%→3.80%以上=4

①学習活動 (明示的なカリキュラム)

※左から前々回、前回、今回、非変換回もグラフに表示されるため読み取り注意。

※左から前々回、前回、今回、非変換回もグラフに表示されるため読み取り注意。



### How to read 結果の読み取り方

このレポートでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面を → 各校・地域の状況を、①学習活動、②学習環境、③生徒の自己認識、④生徒の行動実績、⑤満足度の5つから把握しています。
- 4つの領域から → 各側面を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で → 上記のデータを「時間軸 (前年度からの伸び)」「学年軸 (学年による違い)」「地域軸 (他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合 (%)】 → 各項目で「4、あてはまる」「3、どちらかといえはあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】 → 「あてはまらない=1」~「あてはまる=4」の回答の平均値
- 【他地域】 → 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】 → (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

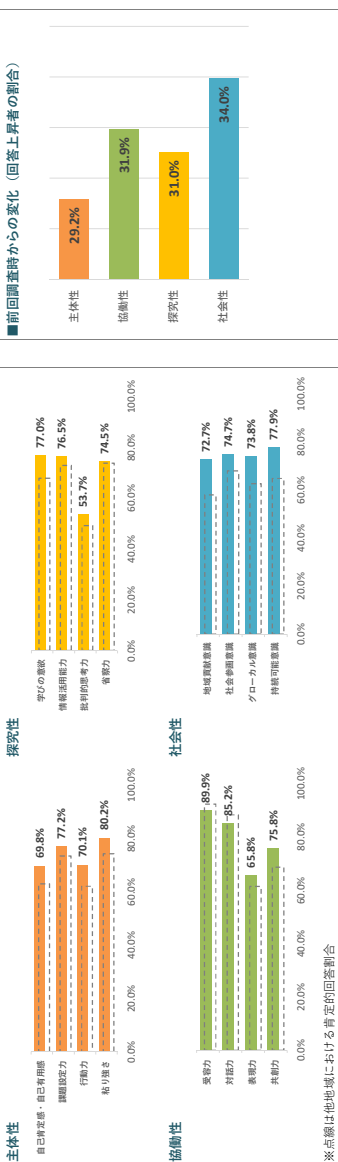
■学び・伸びしろ

強み：肯定的回答割合が高い項目

伸びしろ：肯定的回答割合が最も低い項目

① 学習活動	86.6%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	53.7%	学校外のいろいろな人に出会える機会に行く
② 学習環境	93.3%	地域の人に対して、応接する雰囲気がある	75.8%	地域に、尊敬している、憧れている人がある
③ 生徒の自己認識	89.9%	自分とは異なる意見や価値を尊重することが出来る	53.7%	複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
④ 生徒の行動実績	83.2%	先主、保護者以外の地域の人と、なげない会話をした	55.0%	地域社会などでボランティア活動に参加した

※非変換回もグラフに表示されるため読み取り注意。





【学習活動】読み取り・検討の視点

- ・ 自校の強みや弱さ、それを強み/克服するための、協働のあり方は？
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ているだろうか？
- ・ 協働を支えるコーディネート・ネットワーク構築として、どのような役割が必要か？

【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は？
- ・ 前回からの変化は？その要因として、何が考えられそうか？（学習活動、学習環境と関連付けて）
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考えられる力は？そのために必要な「次の一手」は？

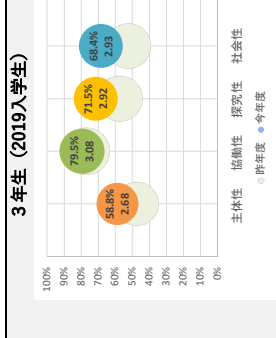
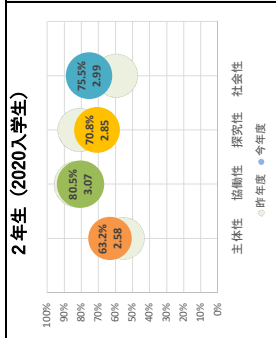
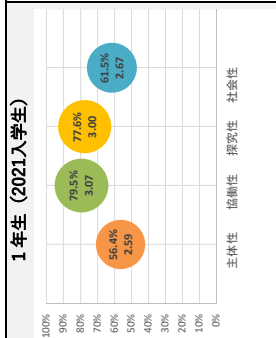
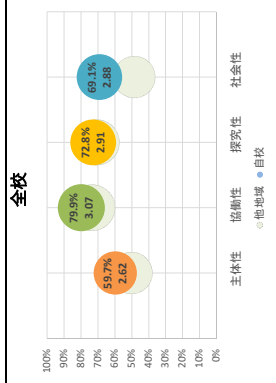
【生徒の行動実践】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は？
- ・ 生徒の自己認識との関連は？
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか？

Details 詳細結果

① 学習活動（明示的なカリキュラム）

学習活動	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	差 (pt)
5 主体的に調べる学習活動	59.7%	4.24	56.4%	1.15	63.2%	7.94	58.8%	11.36
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	65.8%	-1.91	56.4%	-12.01	69.8%	1.39	68.4%	6.35
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	53.7%	10.40	56.4%	14.30	56.6%	14.50	49.1%	16.36
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	79.9%	-2.04	79.5%	-2.97	80.5%	-1.95	79.5%	2.52
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	85.9%	-1.90	89.7%	-3.24	84.9%	-8.08	84.2%	-0.27
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	86.6%	-5.50	89.7%	-4.99	84.9%	-9.83	86.0%	-3.69
11 話し合った内容をまとめる	67.1%	1.26	59.0%	-0.67	71.7%	12.05	68.4%	11.52
12 活動、学習のまとめを発表する	72.8%	0.11	77.6%	-3.58	70.8%	-10.39	71.5%	14.16
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	62.4%	-1.00	59.0%	-18.22	62.3%	-14.93	64.9%	21.81
14 地域の魅力や資源について考える	79.2%	-1.29	82.1%	-0.40	75.5%	-6.98	80.7%	10.01
15 地域の課題の解決方法について考える	74.5%	1.94	82.1%	3.10	71.7%	-7.25	71.9%	11.58
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	75.2%	0.78	87.2%	1.21	73.6%	-12.38	68.4%	13.25
17 協働の課題の解決方法について考える	69.1%	6.53	61.5%	1.89	75.5%	15.82	68.4%	16.12
18 協働の課題の解決方法について考える	74.5%	4.37	64.1%	0.94	77.4%	14.20	78.9%	13.43
19 協働の課題の解決方法について考える	75.2%	9.92	59.0%	1.08	81.1%	23.24	80.7%	23.81
20 日本や世界の課題の解決方法について考える	57.7%	5.28	61.5%	3.64	67.9%	10.03	45.6%	11.13



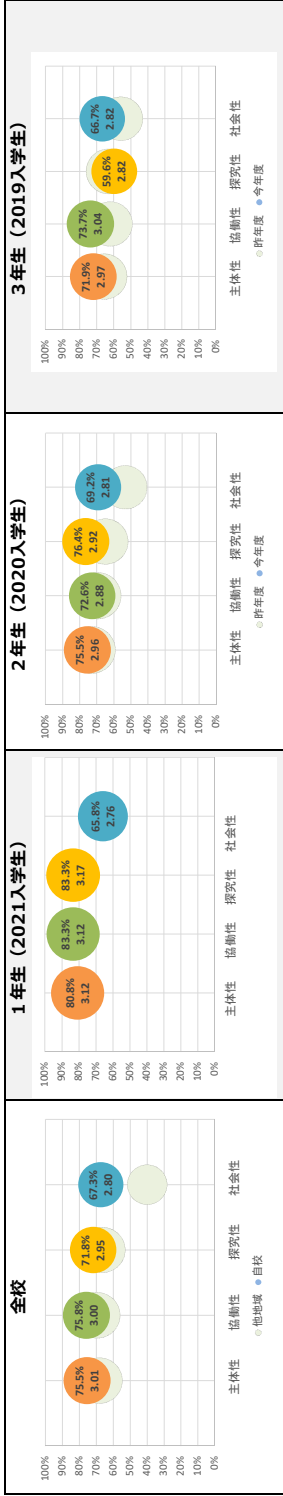
② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)	生徒の認識 (A)				回答上昇者の割合				大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)			
	生徒の認識 (A)		大人の認識 (大人全体の評価) (B)		回答上昇者の割合		大人の認識 (大人全体の評価) (B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)			
	割合 (%)	昨年度との差 差(pt)	割合 (%)	昨年度との差 差(pt)	全体	1年生	2年生	3年生	割合 (%)	昨年度との差 差(pt)	割合 (%)	昨年度との差 差(pt)	割合 (%)	昨年度との差 差(pt)		
10pt以上の増加	85.8%	2.46	82.1%	-7.18	25.8%	90.2%	86.5%	82.2%	82.1%	-7.18	87.3%	87.3%	82.1%	3.7pt		
0-10ptの増加	86.6%	2.43	27.8%	9.85	25.8%	90.2%	86.5%	82.2%	82.1%	-7.18	87.3%	87.3%	82.1%	3.7pt		
減少	93.3%	-1.83	14.8%	3.58	27.8%	90.2%	86.5%	82.2%	82.1%	-7.18	87.3%	87.3%	82.1%	3.7pt		
主体性に関わる学習環境	85.2%	4.75	82.1%	-10.26	29.6%	87.2%	86.8%	82.5%	82.1%	-10.26	86.4%	86.4%	82.1%	3.2pt		
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	86.7%	2.90	38.9%	13.33	29.6%	87.2%	88.7%	84.2%	79.5%	-12.82	77.3%	77.3%	82.1%	5.7pt		
18 将来のこぼれや実現したいことを話し合える大人がいる	87.2%	2.49	32.4%	4.96	29.6%	89.7%	86.8%	84.6%	78.2%	-11.22	88.6%	88.6%	82.1%	8.5pt		
24 周りの大人は、しつこく話を聞き、考える手助けをしてくれる	87.2%	3.10	32.4%	8.64	29.6%	87.2%	90.6%	84.2%	82.1%	-10.26	90.9%	90.9%	82.1%	5.2pt		
31 お互いに思いがけあう機会がある	91.9%	5.36	29.6%	6.78	29.6%	92.3%	88.7%	94.7%	84.6%	-3.85	95.5%	95.5%	82.1%	7.3pt		
社会性に関わる学習環境	80.5%	0.66	24.1%	6.69	24.1%	89.7%	84.9%	70.2%	82.1%	-6.41	90.9%	90.9%	82.1%	-1.5pt		
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	87.9%	3.10	35.6%	22.57	35.6%	89.2%	86.8%	86.8%	82.7%	-6.73	95.5%	95.5%	82.1%	4.6pt		
25 興味を持ったことに対してすぐに挑戦をしてくれる大人がいる	91.9%	4.75	36.1%	16.40	36.1%	94.9%	92.5%	89.5%	89.7%	-6.41	100.0%	100.0%	82.1%	2.2pt		
29 地域の人や課題などに積極的に触れる機会がある	88.6%	3.22	32.4%	16.11	32.4%	84.6%	87.7%	87.7%	71.8%	-8.97	90.9%	90.9%	82.1%	16.8pt		
32 自分の暮らす地域・外からの視点で考える機会がある	87.9%	3.16	34.3%	31.25	34.3%	84.6%	86.8%	91.2%	92.3%	0.00	95.5%	95.5%	82.1%	-4.4pt		
	80.5%	1.27	39.8%	26.52	39.8%	76.9%	84.9%	78.9%	76.9%	-11.54	95.5%	95.5%	82.1%	3.6pt		

\*大人の自己評価は、「21\_大人用シート」で確認いただけます。



④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）



	1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)
主体性	80.8%	75.5%	81.1%	77.2%	71.9%	29.1%
協働性	71.8%	71.8%	81.1%	77.2%	77.2%	25.5%
探究性	83.3%	83.3%	69.8%	66.7%	66.7%	32.7%
社会性	67.3%	72.6%	30.2%	30.2%	30.2%	36.4%
差 (pt)	7.96	2.66	4.90	26.4%	11.62	34.5%
差 (pt)	3.78	-4.83	1.79	28.3%	11.62	38.2%
差 (pt)	12.15	10.16	3.34	27.4%	11.62	34.5%
差 (pt)	14.04	3.34	4.90	26.4%	11.62	34.5%
差 (pt)	17.14	4.90	1.79	28.3%	11.62	38.2%
差 (pt)	10.93	75.5%	1.79	28.3%	11.62	38.2%
差 (pt)	18.42	76.4%	11.50	31.1%	-3.28	30.9%
差 (pt)	17.14	84.9%	19.99	30.2%	1.18	34.5%
差 (pt)	19.70	67.9%	3.01	32.1%	-7.74	27.3%
差 (pt)	12.60	69.2%	15.97	35.2%	10.92	32.7%
差 (pt)	6.48	66.0%	18.67	35.8%	16.70	40.0%
差 (pt)	32.74	52.8%	14.23	35.8%	11.34	30.9%
差 (pt)	26.52	53.8%	15.25	52.8%	11.34	30.9%
差 (pt)	23.00	89.7%	16.06	88.7%	4.72	27.3%

⑤ 総合的な生徒の満足度

	1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)
主体性	92.3%	73.6%	57.9%	36.4%	36.4%	36.4%
協働性	97.4%	90.6%	89.5%	17.0%	14.5%	14.5%
差 (pt)	11.61	-7.12	-11.07			
差 (pt)	0.94	-5.93	-5.35			

補足・追加設問

	1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)
主体性	74.4%	62.3%	49.1%	29.1%	29.1%	29.1%
協働性	64.1%	50.9%	50.9%	29.1%	29.1%	29.1%
差 (pt)	11.47	-1.69	7.77			
差 (pt)	13.23	5.73	5.96			



令和3年度実施教育課程

	1 年		2 年				3 年			
	地域アウトドア スポーツ類型	アウトドア スポーツ系	地域創造系		アウトドアスポーツ 系	地域創造系				
			人文科学類型	自然科学類型		人文科学類型	自然科学類型			
1	国語総合(4)		現代文B(2)				現代文B(2)			
2	(うち現代文)(2)									
3	(うち古典)(2)		古典B(2)				古典B(2)			
4										
5	現代社会(2)		日本史B(4)				世界史A(2)			
6			地 理B(4)							
7	数学 I (3)						日本史B(3)			
8							地 理B(3)			
9			体育(3)				体 育(2)			
10	数学A(2)									
11										
12	化学基礎(2)		保健(1)				コミュニケーション英語 II (4)			
13										
14	生物基礎(2)		化学(3)							
15										
16	体育(3)		コミュニケーション英語 II (3)				英語表現 II (2)			
17										
18										
19	保健(1)		英語表現 II (2)				【グラフィック デザイン】(3)	【時事現代社会】(3)		【化学探究B】(3)
20	音 楽 I (2)							生物(3)		
21	書 道 I (2)						【化学探究A】(2)		物理(4)	
22			数学 II (2)	数学 II (4)		数学 II (4)	国語表現(2)			
23	コミュニケーション英語 I (3)		【スポーツ実践 I】(1)				【冒険教育 II】 (2)			【基礎英語】(2)
24			【生涯スポーツ 探究 I】(1)							
25	英語表現 I (2)		【国語探究】(2) フードデザイン(2-4)		数学B(2)	数学B(2)	【スポーツ実践 II】(1)	【英語探究】(2)	【基礎からの数学】 (4)	
26							【生涯スポーツ探 究 II】(1)			
27	家庭基礎(2)		【冒険教育 I】 (2)	【基礎英語入 門】(2)	生物(2)		数学 II (2)	【古典文学講 読】(2)		
28						前期:物理基 礎(2)/後 期:物理(2)	【基礎からの数学】 (4)			
29	社会と情報(2)		科学と人間生活(2)		物理基礎(2)				選択(2)	【ファンダメンタルスピーチ】(2)
30							【日本史探究】(2)	【地理探究】(2)	【スピーチ】(2)	
31	【協働のまちづくり】(1)		総合的な探究の時間(1)				総合的な探究の時間(1)			
32	ホームルーム(1)		ホームルーム(1)				ホームルーム(1)			
33	【地域学入門】(1)		【地域スポーツ I】(1)	【地域探求 I】(1)(地域創造系)		【地域スポーツ II】(1)	【地域探求 II】(1)(地域創造系)			
		地域アウトドア スポーツ類型	アウトドア スポーツ系	人文科学類型	自然科学類型	アウトドアスポーツ 系	人文科学類型	自然科学類型		

( )内の数字は、週あたりの時間数  
【 】は、学校設定科目







冬の陽ざしに輝く村岡高校

## 兵庫県立村岡高等学校

普通科（地域アウトドアスポーツ類型）

〒 669 - 01311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2931  
[TEL] 0796-94-0201 [FAX] 0796-94-0203  
[E-mail] [Muraoka\\_hs@pref.hyogo.lg.jp](mailto:Muraoka_hs@pref.hyogo.lg.jp)

